

鐵道省文書

所 藏 收	年 了 結	別 類	門 類
營業廢止	明治四十五年 大正四年	佐賀電気軌道 川上軌道 佐賀軌道	第一門 監督 第一種
一卷	永年	不特許	別種存案

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5

国立公文書館	
分運 輸 省	
類	④9
排架 番 号	3 A 22-2 260



一七
件
三

第一門 監督

四、軌道 1. 特許

佐賀電氣軌道 (元川上軌道)

自明治四十五年 至大正四年

卷

會	書	編
庫	欄	號

順號	年	月	日	件名	備考
一	大正	元	一	川上軌道 軌道敷設特許, 件	
二	大正	元	一	敷設特許收請書進達, 件	
三	大正	九	三	工事施行認可, 件	
四	大正	九	三	工事施行認可收交付, 件	
五	大正	一	七	一部運輸開始, 件	
六	大正	一	三	車輛検査, 件	
七	大正	一	三	一部運輸開始, 件	
八	大正	二	六	三車連結運轉, 件	
九	大正	二	六	一部運輸開始, 件	
一〇	大正	二	三	三車連結運轉, 件	
一一	大正	二	四	停留場位置変更, 件	
一二	大正	二	四	假軌道敷設, 件	
一三	大正	二	七	一時的引込線敷設許可, 件	
一四	大正	二	九	假軌道使用延期, 件	
一五	大正	二	九	工事竣切延期, 件	
一六	大正	二	九	工事方法一部変更, 件	
一七	大正	二	九	假軌道敷設閉スル, 件	

七三十一

乙
内務省
第五〇三〇一號
85 2 3

第一〇三九號

明治四十五年

五月廿五日立案

淨書校合

事

事務課長

技術課長

監理部長

理事

技監

副總裁

總裁

内閣總理大臣

内閣書記官長

内務大臣

回議用紙

鐵道院

次官

土木局長

道路課長

技術課長

川上軌道敷設特許件

川上軌道株式會社發起人福田慶四郎外敷在
為名ヨリ別紙ノ通佐賀縣佐賀郡中野村大
字神野ヨリ同縣同郡春日村大字久池井
至レ軌道敷設ノ件出願有之取調候處別
ニ支障無之被認候條在案指令相成可

然哉

本件軌道上ニ於ケル支障ノ有無陸軍省ノ意見ヲ徵シ
タル異存無之旨回答有之矣

七月三十

乙
土第0301
85 7 3

第一〇三九號

明治四十五年

七月廿五日
日受領
日達濟
今日月廿五日立案

淨書校合

嘉

事務課長

技術課長

監理部長

理事

技監

副總裁

總裁

内閣總理大臣

内閣書記官長

内務大臣

回議用紙

鐵道院

次官

土木局長

道路課長

技術課長

川上軌道敷設特許件

川上軌道株式會社發起人福田慶四郎外敷在

無名ヨリ別紙ノ通佐賀縣佐賀郡神野村大

字神野ヨリ同縣同郡春日村大字久池井

至レ軌道敷設ノ件出願有之取調候處別

ハテ敷設候旨ニ付テハ

本官署ニ於テハ

案ノ一

番 號

特許状

川上軌道株式会社發起人

福田慶四郎

外此如左名

(佐賀縣經由)

右者對軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ一般
運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可ス仍テ別紙命
令書ノ條項ヲ遵守スヘシ

明治十五年七月三日

內閣總理大臣

內務大臣

案ノシ

命令書

鐵道院

(別紙ノ通)

案ノシ

訓第 號

佐賀縣知事

明治十五年四月十三日附収佐土第四八三
號ヲ以テ進達シタル川上軌道敷設特許
願ニ對シ別紙特許状^註命令書ヲ下付候
條交付ノ上該命令書ニ掲ケル條項ノ實施
及監視ノ責ニ任スヘシ尚其ノ處分ニ關シ稟
伺スルト報告スルトノ區別ハ左ノ通心得ヘシ
右訓令ス

年月日

内閣總理大臣
内務大臣

一 第四條 第二十六條 第二十七條 第一項

以上 稟伺

一 第四條 依「工事施行認可狀交付」年月日

第五條 主文 第八條 第九條 第十一條

第十三條 第十八條 第十九條 第二十一條

第二十三條 第二十五條 第二十九條 第三十三條

第三十五條 第三十七條

以上 報告

鐵道院

命令書草案

第一條 今般川上軌道株式會社發起人福田慶四郎
外二十三名ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ一般運
輸ノ業ヲ管ムコトヲ許可シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ
一佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百拾九
ノ十番地先ヨリ左縣左郡左村大字左字二本松八
百六拾叁ノ一番地先ニ至ル假定縣道

二左縣左郡左村大字左字二本松八百六拾叁ノ一番
地先ヨリ左縣左郡左村大字左字左八百八ノ三番
地先ニ至ル新設軌道敷
三左縣左郡左村大字左字左八百八ノ三番地先ヨリ
左縣左郡春日村大字久池井字六本杉叁千七拾
番地先ニ至ル假定縣道

第二條 營業年限ハ明治九年七月至明治二十五年七月止トス

第三條 原動力車ハ蒸氣及炭燃料機車トス

第四條 特許ヲ受ケタル者ハ本書交付ノ日ヨリ六箇月
内ニ左ノ各號ニ準據シ線路實測圖(平面圖)縮尺二
千分一、縱断面圖ハ縱二百分一、横二千分一、横断面圖
ハ二百分一トス)工事方法書、圖面及工費豫算書ヲ
調製シ佐賀縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ変更スル
トキモ亦同シ

一軌間ハ内法三呎トス

二軌條ハ鋼鐵製工字形ノモノヲ用井其ノ重量ハ壹
碼ニ付重量差拾封以上トス

三軌條間ノ全部及其ノ左右各一尺五寸通ハ木石砂
利其他適當ノ材料ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高

低ナカラシムヘシ

四、軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔ノ場所又ハ

連擔スヘキ場所ハ六間以上其ノ他ノ場所ハ四間以上

複線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔ノ場所又ハ

連擔スヘキ場所ハ七間以上其ノ他ノ場所ハ五間半以上

五、軌道ハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ニ

於テハ道ハ中央ニ之ヲ敷設スヘシ但軌体外ノ兩側ニ貳

間半以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ貳

間半以上他ノ一側ニ貳間以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方

ニ偏シテ之ヲ敷設スルコトヲ得

前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ車体外ノ

一側ニ三尺以上他ノ一側ニ貳間半以上ノ幅員ヲ存シ

軌道ヲ敷設スヘシ

道路ノ屈折部ノ内角ニ於テハ前二項ニ示ス幅員

ヲ存スルコトヲ要ス

井戸、竝木、電柱、街燈、郵便函其ノ他道路上ノ建

設物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離算テ敷地及人

道車馬道ヲ區別セル道路ニ在テハ其ノ人道ハ前

三項ノ幅員ニ算入セス

六、道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ハ木又ハ

石ヲ用ヒテ踏切ヲ設クヘシ

七、軌道カ道路ヲ横断スル箇所亦前號ニ同シ

八、橋梁ノ幅員及耐力ハ佐賀縣知事ノ指定スル所ニ依

ルヘシ

九、軌道敷設ノ為ニ生スル道路面及軌道内ニ於ケル雨

水、瀦留ニ付テハ完全ナル排除ノ方法ヲ設クヘシ

十、勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス

十一、屈曲ノ半径ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス

十二、車輛ニハ相當ノ避難器、制動器、警備器及信號器ヲ装置スヘシ

十三、地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電話線

路、水管、瓦斯管、其ノ他公共用ノ地下工作物ト交

又^又シテ^又軌道ヲ敷設スルトキハ其線路又ハ工作物ヲ

毀損ロサル為ニ適當ノ豫防装置ヲ為スヘシ

十四、各種ノ人孔、制水、轉蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設

スルトキハ操業上障害ヲ與ヘサル為ニ適當ノ距離ヲ保

タシムヘシ

十五、特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車

位 價 料

体外左右各三尺以上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

前項第三號乃至第六號及第九號ハ新設軌道

敷ニ之ヲ適用セス

第五條 特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ

六箇月内ニ工事ニ著手シ著手ノ日ヨリ二年内ニ竣功

スヘシ但、天災其ノ他正當ノ事由ニ因リテ本條期間

内ニ工事ニ著手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ相當

ノ延期ヲ與フル事アルヘシ

第六條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ擴築シタル道路及改

築シタル橋梁ハ竣功ト同時ニ無償ニテ國又ハ公共團

体ノ有ニ歸ス

第七條 軌道敷設ノ為道路ノ地表又ハ地下ニ於ケル建設

物ノ移轉其他ノ工事ヲ要スルトキハ特許ヲ受ケタル

者ニ於テ之ヲ施行シ又ハ其ノ費用ヲ負担スヘシ

第八條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運轉ヲ開始セントスル

トキハ特許ヲ受ケタル者ハ佐賀縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

工事カ工事方法書ニ違反スルモノト認ムルトキハ佐賀縣

知事ハ其ノ改築又ハ停止ヲ命ズヘシ

第九條 乗客ノ定員及荷物ノ制限運送賃及發車地

營業時間ハ佐賀縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ変更

スルトキ亦同シ

第十條 車輛ハ一輛毎ニ佐賀縣知事ノ検査ヲ受クルニ

非サレハ之ヲ使用スル事ヲ得ス

第十一條 車輛進行ノ速度ハ一時間ハ哩ヲ超過セシムルコト

ヲ得ス

第十三條 車輛ハ機關車一輛ニ客車若ハ貨車一輛ノ外

聯絡シテ進行セシムルコトヲ得ス但佐賀縣知事ノ許可

ヲ得タルトキハ機關車ヲ併セ三車ニ限り聯絡シテ

進行セシムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ車輛ノ全長六十呎以内ナ

ルヲ要ス

進行中ハ各列車間相當ノ距離ヲ保タシムヘシ

日出前日没後ハ五呎以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ

得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前後ニ點スヘシ

第十四條 乗客ノ昇降ノ為ニスルノ外故ナク道路上ニ停

車セシムルコトヲ得ス但乗客昇降ノ場合ト雖道路

ノ交叉部ニ於テ停車セシムルコトヲ得ス

第十五條 佐賀縣知事ノ指定シタル場所ニ特ニ信號

人ヲ置キ其ノ場所ニ於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩

第十一條 原動力車

ニ関スル技術員車

掌及運轉令ノ

資格及採用ノ方

法ハ特許ノ受ケ

タル者ハ之ヲ

定メ佐賀縣知

事ノ認可ヲ受ク

ルコトヲ要ス

キ亦同シ

ヲ超過セシムルコトヲ得ズ

第十四條 左ニ掲ケタル箇所ハ佐賀縣知事ノ命スル所ニ
從ヒ特許ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ改築、修繕、掃除、
撒水及除雪ヲ為シ又ハ其ノ費用ヲ負担スルシ

一道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各
ニ尺通

ニ橋梁ノ改築又ハ修繕ハ前號ニ定メタル幅員ト橋梁
ノ幅員トノ比例ヲ以テ標準トシ其ノ橋梁ノ改築又ハ
修繕費用ノ全部ニ對シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ自
担スヘキ費用ノ歩合ヲ定ム橋梁ノ掃除、撒水及除
雪ハ前號ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交又スル場合ニ於テ
ハ其ノ交又面ニ係ル前號ノ義務ハ關係者ノ分担トス

佐賀縣

第十六條 車輛ハ常に清潔ニ保持シ其ノ修繕ヲ怠ル

ヘカラス

第十七條 佐賀縣知事ハ何時ニテモ軌道、車輛其他ノ
工作物ヲ監査シ危険ナリト認ムルトキハ改築修補ヲ
命シ其ノ命ヲ執行シ終ルコトヲ其ノ使用又ハ營業ヲ
停止スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危険切迫ナリト認ムルトキハ佐賀縣
知事ハ自ら其ノ改築修補ヲ為スコトアルヘシ

第十九條 佐賀縣知事ハ何時ニテモ營業ニ關スル実
況ヲ監査シ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基
キテ為シタル事處分ニ違反セル事實アルトキハ之ヲ
督責シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ更正スルコト
營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十九條 特許ヲ受ケタル者ハ内閣總理大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレバ一部ノ管業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十條 特許ヲ受ケタル者ハ佐賀縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレバ管業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十一條 内閣總理大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ原動力ノ変更其ノ方式設備線路若ハ敷設順序ノ変更又ハ交通上必要ナル線路ノ敷設若ハ延長又ハ道路ノ構築又ハ複線敷設若ハ撤去又ハ一部ノ線路ノ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 佐賀縣知事ハ管業ノ定章若ハ物ノ制限運送賃及乗車並管業時間ノ変更ヲ命スルコトアルヘシ

佐賀縣

第二十三條 道路橋梁水道其他ノ公共事業ノ為必要ナルトキハ佐賀縣知事ハ軌道其他ノ工作物敷築若ハ一時撤去ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十四條 軌道ヲ交又シ若ハ之ニ接續シ又ハ之ニ接近シテ道路橋梁運河鉄道又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 道路ニ敷設セル工作物其他管業上必要ナル物件ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ佐賀縣知事ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ設置シ又ハ義務履行ノ担保ト為スコトヲ得ス

第二十六條 内閣總理大臣及内務大臣又ハ佐賀縣

知事ハ公益上必要ト認ムル事項ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命スルコトアルヘシ

内閣總理大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ條項ヲ変更スルコトアルヘシ

第二十九條 將來定マラルル所ノ法令ノ結果トシテ此ノ命令書ノ條項ニ変更ヲ奏スコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條 特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ三十日以内ニ佐賀縣知事ニ差出スルヘシ
佐賀縣知事ハ何時ニテモ營業書ニ関スル帳簿、書類等ヲ検閲スルコトアルヘシ

第三十一條 國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ為軌道其他營業上必要ナル物件ノ全部若ハ一部ノ専用又ハ買収ヲ為フサントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ物件ノ範圍ニ付爭アルトキハ内閣總理大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三十二條 前條全部専用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均收入月額又ハ前年ノ相當月ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ムノ日ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均收入日額又ハ前年若ハ前月ノ相當日ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但シ其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ為スコトヲ得

前條一部専用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル専用部分ノ延長

比例ヲ以テ全部専用場合ニ於ケル補償金額ニ乘
シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其ノ専用部方ニ對スル
補償金額ヲ定ム

前條全部買取場合ニ於テハ年率七分ヲ以テ前五
箇年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム
但、其ノ地方ニ於ケル金利率年率ニ著シキ変更ヲ来シ
タルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ本項ノ年率ヲ
変更スルコトアルヘシ、彼負償與ノ性質ヲ有スル支出ハ
前項純益金ノ内ニ算入ス

前條一部買取場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用
シテ補償金額ヲ定ム

開業ノ後本條ニ規定シタル時日ヲ經過セサルトキハ
既往營業時日ヲ標準トシ平均額ヲ算出ス

佐賀縣

第三十二條 他ノ軌道營業者ニ於テ内閣總理大臣及内
務大臣ノ許可ヲ得テ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ
他營業上必要ナル物件ノ一部ヲ共同使用セントスル
之ヲ拒ムコトヲ得ス但、其ノ共同使用ノ條件ハ協議
ノ上之ヲ定メ協議調ハサルトキハ内閣總理大臣及内務
大臣之ヲ定ム

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ
一 第四條ノ期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認
可ヲ得サルトキ

二 第五條ノ期間内ニ工事ニ着手セサルトキ

三 全部ノ營業ヲ廢シタルトキ

第四條 特許ヲ受ケタル者、死シタルトキ又ハ會社解
散シタルトキ

五 五 營業滿期ノトキ

第四條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキハ特許ハ其ノ効力ヲ失フ

創立總會ニ於テ又、總社首ニ於テ此ノ命令書ノ條項ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決スルハ同意スルニ非カレバ特許ハ其ノ効力ヲ失フ

第三十四條 前條ニ掲ケタル場合ノ外特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書ノ條項又ハ其ノ命令書ニ基キテ為シタル處方ニ違反シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトアルヘシ

特許ヲ受ケタル者カ不可抗力ニ因ラスシテ滿一箇月間ニ事ヲ休止シ更ニ起エセサルトキハ特許ヲ受ケタル者ノ中死七若クハ脱退者アリタル場合ニ於テ内閣總理大臣及

内務大臣カ残存者ノミニテハ事業ヲ管ムニ適セスト認ムルモ亦前項ニ同シ

第三十四條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ佐賀縣知事ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ

第三十條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ國又ハ公共團體カ軌道其他營業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部買入セントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ最近ノ財産目録ニ記載シタル物件ノ價格ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ

買入者ニ於テ前項ノ價格ニ關シ異議アルトキハ其ノ申請ニ依リ内閣總理大臣及内務大臣佐賀縣知事買入者及特許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評價委員ヲ選定セシメ其ノ意見ヲ徵シテ其ノ價格ヲ定ム
本條ノ場合ニ於テハ第三十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條 特許ヲ受ケタル者ハ内閣總理大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ依リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移ス事ヲ得ス

第三十七條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ為シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ佐賀縣知事ハ自ラ代テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第三十九條 特許ヲ受ケタル者カ許可ヲ得スニテ管業ヲ停止シ又ハ一部ノ管業ヲ廃止シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ市町村ヲシテ管業年限内特許ヲ受ケタル者ノ計算ヲ以テ管業ヲ為サシム又ハ他人ヲシテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他管業上必要ナル物件ヲ使用シ管業ヲ為サシムルコトアルヘシ

本條ノ場合ニ於テハ第三十九條第二項ノ規定ヲ準用ス
第四十條 此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ為シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ履行スヘキ義務ノ為ニ生スル費用並ニ第四十條第二項及第三十條ノ費用ハ統テ特許ヲ受ケタル者ノ負担トス

此ノ命令書ニ基キテ為シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受ケルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ハ特許状及此ノ命令書ヲ佐賀縣知事ノ定メタル期日ニ返納スヘシ

明治三十七年七月三日

内閣總理大臣

内務大臣

佐賀縣

明治四十四年十月二十五日出願
 佐賀縣 佐賀縣經由明治四十五年四月十三日
 明治四十五年四月十六日受付

川上軌道株式會社發起人
 福田康久四郎
 外二十三名

起終點及經過地名
 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本稻ヲ起點トシ同縣同郡
 高木瀬村ヲ通リ同縣同郡春日村大字久池井字天本村ヲ
 終點トス

動力	蒸氣	軌間	三呎
距離	五哩	新設軌道	
鐵道	五哩	道路	
關係	小鎮	上	

知事 副申ノ 要旨
 成業ノ見込アルモノト認ム

發起人及重ナル人	福田康久 伊丹彦次郎 田上漁太郎 谷口清八 下村辰右衛門 吉田久太郎 牟田萬次郎 福川大右衛門 筑田哲 原田積造 真崎辰太郎 井手亀一 野口勘三郎 中野梅次郎 福田新藏 藤瀬清一 今泉良子 石川又八 真崎三郎 福嶋一郎 真木豊道 田中久太 本村善治 吉武喜家
----------	--

資本金又ハ建設資金
 十萬圓
 一株ノ金額
 五十圓

備考

政任工第四一八三編

川上軌道敷設特許願ニ對スル副申

川上軌道株式會社發起人福田慶四郎外二十三名ヨリ
別紙ノ通軌道敷設願提出矣ニ付取調矣處右八九州
鐵道線佐賀停車場前ヲ起矣トシ佐賀郡高木瀬
村ヲ經テ全郡春日村大字久池井ヲ終矣トシテ軌道ヲ敷
設ニ般運輸交通ノ便ニ供セントスル計画ニ有之右八佐賀
市及其ノ附近ト上佐賀地方即チ佐賀郡春日村川上
村其ノ他ノ各村及小城郡南山村古湯地方トテ連絡スル
交通機關トシテ必要ノ事業ト被認矣依テ及定縣
道ニ敷設セントスル部分ニ付テハ縣參事會ノ意見ヲ
徵シ矣處別紙ノ通ニ有之尙曩日上木局長街通牒
ニ係ル調査事項左記ノ通ニ矣條命令書案其他

關係書類添付共設副申矣也

明治四拾五年四月拾日

佐賀縣知事不破彦磨

內閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

內務大臣原 敬 殿

進テ本軌道敷設ノ豫定線タル縣道中未改修ノ部
分ハ四十四年度施エケ所終矣ヨリ春日村大字久池井
字惣坐迄ハ四十五年度ニ於テ改修シ夫ヨリ軌道敷
設終矣四十六年度ニ於テ改修スヘキ計画ニ有之矣爲
念添申候也
一起業ハ成業ノ見込アルモノト認メ矣

明治四拾五年四月拾日

1072

明治四拾五年四月拾日

印

二沿道村落ニ於テハ交通上及貨物運搬上多大ノ利便アルモノト認メ矣

三本軌道敷設ノ既ハ地方旅客ノ往來必ス増加スヘキ見込ニ付從テ既成鐵道及軌道ニ於ケル乘客ハ將來益多キモノト認メ矣

四願人ハ縣郡會議員等名譽職ノ位地ニ在ルモノ又ハ諸會社ノ重役等其ノ他實業家ニシテ孰レモ相當資産ヲ有シ且一般信用アルモノト認メ矣

五願書及關係書類ニ押捺セル印影ハ確實ト認メ矣

六代理委任ハ正當ト認メ矣

意見書

佐賀市大字松原町福田慶四郎外貳拾
三名、出願に係ル佐賀郡神野村大字神
野ヨリ同郡春日村大字久池井ニ至ル仮定線
道三瀬線四哩五拾壹鎖(未改修、部合ハ
工事竣功ノ上)ニ軌道敷
設ノ義ハ公益上必要ニシテ他ニ支障ナキシ認
ム

明治三十五年四月八日

佐賀縣參事會

佐賀縣知事不破彦磨

佐賀縣參事會



軌道敷設特許願

今般私共發起、佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本
松四百拾九、十番地先(九州鉄道佐賀駅前)一起、同縣同郡春日
村大字久池井字六本杉字百七拾番地先、至、間三ツ瀬縣
道、改新設道軌道、敷設、運輸交通、便利ヲ謀リ、度候
間御許可被成下度別紙起業目論見書工事方法
概略書工費概算書營業上、收支概算書及圖面
相添、此段奉願候也

明治四十四年於月二於五日

川上軌道株式會社發起人

佐賀縣佐賀市大字松原町拾八番地

福田慶四郎

佐賀縣佐賀市大字道祖元町

伊丹彦次郎

全縣令 市大字本庄町參拾番地

田上源太郎

全縣令 市大字長瀬町五拾番地

谷口清八

全縣令 市大字牛島町參番地

下村辰右衛門

全縣令 市大字松原町百拾番地

吉田久太郎

全縣令 市大字左百拾參番地



年田萬次郎

今縣佐賀郡松梅村大字松瀬百九拾五番地

福川大右衛門

今縣今郡川上村大字東山田千貳拾四番地

孤田 祐口

今縣今郡春日村大字尾寺百六拾番地

原田禮造

今縣今郡大村大字久池井百四拾八番地

真崎辰五郎

今縣今郡金立村大字金立百八拾參番地

井手龜一

今縣今郡高木瀬村大字高木千八百五拾六番地

野口勘三郎

今縣今郡高木瀬村大字高木千四百拾八番地

中野梅次郎

今縣今郡神野村大字多布施七拾八番地

福田新藏

今縣今郡巨勢村大字牛島八番地

藤瀬清一

今縣今郡西川副村大字南星百五拾七番地

今泉良子

今縣今郡久保田村大字久保田百四拾四番地

石川又八

今縣神埼郡三田川村大字田手百貳番地

志子清
御子持入

真崎三郎

今縣佐賀郡久保泉村大字上和泉九拾番地

福島一郎

今縣今郡神野村大字神野五拾七番地

榎真木豊道

今縣今郡鍋島村大字坂久百五番地

田中久太

今縣今郡今村大字鍋島八番地

本村善治

今縣今郡南川副村大字大井道六百叁拾七番地

吉武慶

内閣總理大臣候爵西園寺公望殿
内務大臣 原敬殿

佐賀縣佐賀郡春日村長 岸川源治

佐賀縣佐賀郡高木瀬村長 永淵乙松

佐賀縣佐賀郡神野村長 田中泉賢

起業目論見書

一本會社、組織ハ株式會社トシ資本金拾萬圓ニシテ總株數貳千株トシ壹株、金額五拾圓トス

二本會社ハ軌道條例ニ依リ軌道ヲ敷設シ旅客及貨物、運輸ヲ營ムヲ以テ目的トス

三本會社ハ川上軌道株式會社ト稱シ本社ヲ佐賀縣佐賀郡神野村大字神野五拾七番地ニ設置ス

四本軌道ノ起終兩矣並、其經過地左ノ如シ
起矣 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一平松四百拾九、十番地先(九州鐵道佐賀駅前)

終矣 同 縣同 郡春日村大字久池井字六本杉字千七百七拾番地先

經過地 佐賀縣佐賀郡神野村

同 縣同 郡高木瀬村

同 縣同 郡春日村

五本軌道ハ軌間内法三呎、單線ニシテ哩程五哩待避線貨物線其他ヲ合セ總延長五哩六拾八鎖トス

六本軌道、敷地ハ平面圖ニ示ス如ク三ッ瀨縣道ノ一部及專用道路ヲ使用スルモノニシテ其哩數左ノ如シ

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一平松四百拾九、十番地先ヲ全縣全郡全村大字全字二平松八百六拾叁ニ番地先ニ至ル間

三ッ瀨縣道線(改修既成線) 拾七鎖

是ヲ全縣全郡全村大字全字全八百〇八、三番地先ニ至ル間

專用道路(新設) 貳拾九鎖

是々令縣令郡春日村大字久池井字六本杉參千百七拾番地先二
至ル間

三ノ瀨縣道線(改修既成陸哩六拾四鎖
改修未成陸哩五拾鎖) 四哩參拾四鎖

七本軌道ハ左ノ九ヶ所ニ停留場ヲ設ク

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字平松 佐賀停留場

令縣令郡令村大字令字三本松 三ノ溝停留場

令縣令郡高木瀬村大字高木三本松 高木瀬停留場

令縣令郡令村大字長瀬字坪上三本松 坪上停留場

令縣令郡令村大字令字平尾 三本松停留場

令縣令郡春日村大字尾寺字三本松 福田停留場

令縣令郡令村大字令字高畑 尾寺停留場

令縣令郡令村大字久池井字六本杉 惣坐停留場

佐賀縣佐賀郡春日村大字久池井字六本杉 都渡城停留場

八原動力ハ輕便機關車ヲ使用スルモノトス

九本會社ハ營業年限ハ御許可ノ日ヲ滿五拾々年トス

十發起人ノ住所氏名左ノ如シ

佐賀縣佐賀郡松梅村大字松瀬百九拾五番地

福川大右衛門

令縣令郡川上村大字東山田千貳拾四番地

孤田哲

令縣令郡春日村大字尾寺百六拾番地

原田禎造

令縣令郡令村大字久池井百四拾貳番地

真崎辰五郎

全 縣全 郡金立村大字金百八拾參番地

井手 龜 一

全 縣全 郡高木瀬大字高木千八百五拾六番地

野口 勘 三 郎

全 縣全 郡全村大字千四拾八番地

中野 梅次郎

全 縣全 郡神野村大字多布施七拾八番地

福 田 新 藏

全 縣佐賀市大字松原町拾八番地

福 田 慶 四 郎

全 縣全 市大字道祖元町五拾六番地

伊丹 彦次郎

全 縣全 市大字本庄町參拾參番地

田 上 源 太 郎

全 縣全 市大字長瀬町五拾番地

岩 口 清 八

全 縣全 市大字牛島町參番地

下村 辰右衛門

全 縣全 市大字松原町百拾番地

吉 田 久 太 郎

全 縣全 市大字石百武長參番地

年田 萬次郎

全 縣佐賀郡巨勢村大字牛島八番地

藤 瀬 清 一

今縣今 郡西川別村大字南里百五十七番地

今 泉 良 子

今縣今 郡久保田村大字久保田部百四拾四番地

石 川 又 八

今縣神埼郡三田川村大字田手百貳番地

真 崎 三 郎

今縣佐賀郡久保泉村大字上和泉九拾番地

福 島 一 郎

今縣今 郡神野村大字神野五拾七番地

真 木 豊 道

今縣今 郡鍋島村大字蛸久百五番地

田 中 久 太

今縣今 郡鍋島村大字鍋島八番地 本村善治

今縣今 郡南川副村大字大井道百參拾陸番地 吉武 豪

十一本軌道敷設係工費及營業上収支概算左如

軌道敷設工費概算

一金拾萬圓也

内譯

金六百圓 測量及工事監督費

金五千參拾六圓 用地費

金七千八百八拾五圓 土工費

金五千八百五拾圓 橋梁費

金參萬參千五百六拾八圓拾錢 軌道費

金參千五百六拾九圓 停車場費

金貳萬七千圓 車 輛 費

金壹千五百圓 諸 建 物 費

金五百圓 器 具 及 機 械 費

金貳百圓 運 送 費

金九百圓 創 立 費

金壹千參百五拾圓 總 係 費

金壹萬貳千四拾壹圓九拾錢 豫 備 費

運輸營業上、收支概算

一金貳萬參千百九拾五圓 收 入

办譯

金貳萬壹千九百圓 客 車 收 入

金壹千九拾五圓 貨 車 收 入

金貳百圓 雜 收 入

一金壹萬四千參百八拾貳圓貳拾五錢 支 出

办譯

金五百圓 報 酬

金四千參百八拾五圓貳拾五錢 給 料

金五百圓 旅 費

金六百圓 保 線 費

金壹千六百六拾圓 車 輛 保 存 費

金五百圓 修 繕 費

金八拾圓 備 品 費

金五拾圓 雜 品 費

金五百圓 消 耗 品 費

金參千七百七拾八圓

車輛用品費

金壹千八百九拾九圓

被服費

金壹千六百貳拾圓

諸稅

金貳拾圓

印紙代及通信費

金九百圓

諸雜費

差引益金八千八百拾貳圓七拾五錢

利益配當

一金八千八百拾貳圓七拾五錢

内

金四百四拾壹圓

法走積立金

金八千圓(年八分割)

配當金

金參百七拾陸圓七拾五錢

繰越金

工事方法概略書

一本軌道ハ哩程五哩ニシテ待避線貨物線車庫線ヲ加ヘ
総延長五哩六拾八鎖トス

二軌間ノ办法ハ三呎ニシテ單線トシテ待避線ノ所ニ於テハ中
心距離ヲ拾呎六吋トス

三軌条ハ長尾嗎ニ付重量軌條曲封度以上ノ鋼鐵製工字
形ノモノヲ使用シ枕木ハ長五呎中六吋厚四吋ノ栗又ハ檜材ヲ
使用シ中心間隔軌條置ニ布設スルモノトス

四轉轍器ハ三十三組ヲ取付ク

五本軌道ハ三ツ瀬縣道線ノ改修セラレタル上其道路面準
レ別紙圖面ノ通り敷設スルモノニシテ軌道布設ナシ難キ
場所ニ時ハ更ニ道路ヲ築造シ又ハ道幅ヲ擴築スルモノトス

六専用道路ノ築堤ハ施工基面中拾呎トシ陸割五分ノ法ヲ
附シ法先ヲ走吠ノ犬走ヲ附ケ中尾吠以上ノ排水溝ヲ設
ケ土羽又ハ土留石垣ヲ施スモノトス

七軌道敷設方法ハ作工圖ニ示ス如ク縣道上ニアリテハ路面
ヲ掘鑿シ枕木ヲ配置シ軌条ヲ打付ケ砂利ヲ敷キ堅
メ軌条上内軌條ノ地表ニ現ルノ様埋設セシメ通常人
車馬ノ通行ニ差支ナキ様敷設スルモノニシテ専用道路
ニアリテハ施工基面上ニ走吠ノ床礎ヲ設ケ其上ニ布設スルモノトス

八本線路ノ道路ヲ横断スル所ハ軌条内外側各尾吠及軌間
全部ニハ石材又ハ木材ヲ以テ軌条ト同高ニ敷設シ通行
ニ差支ナカラシムルモノトス

九橋梁及暗渠ニシテ適當ノ耐力ヲ備ハルモノハ之ニ修補ヲ

押入式字
掃消式字

押入式字

加ハ又ハ改築スルモノトス

十勾配ハ二十五分ノ一ヲ以テ最急トス

土曲線ノ半徑ハ三十六呎ヲ以テ最小トス

十二原動車ハ四輪軸結水櫃附輕便機關車ニシテ其構造

概略及主要寸法左ノ如シ

一機關車車体ノ全長 拾 呎 壹 吋

一全 幅 四 呎 拾 七 吋

一全 高(軌条面ヲ以テ) 八 呎 六 吋

一機關車運轉上ノ總重量 四 噸 四 分

一機關車固定軸距 參 呎 參 吋 八 分 三

一水櫃ノ容量 百 四 加 口 ン

一染罐常用氣壓 七平方呎 百 四 拾 貳 封 度

一染罐水壓試驗壓力 七平方呎 貳 百 拾 參 封 度

一染罐火籠火格子面積 貳 平 方 呎

一蒸傳熱面積 五 拾 四 平 方 呎

一染罐ノ全長 六 呎 拾 吋 四 分 七

一染罐胴直徑 貳 拾 貳 吋 拾 六 分 一 拾 參

一煙管直徑 外至七吋八分參 五 吋 貳 分 壹

一染管直徑 外至七吋拾六分九 七 吋 八 分 一 七

一働輪直徑 貳 拾 參 吋 八 分 五

染罐及臺柜其他ノ重要部分ハレノメンスマーテニ

鋼ヲ以テ製シ染機ハ緻密ノ鑄鐵製トシ排染管口

砂管注射給水器驗壓器染罐安全弁驗水器連

結綫衝器等ヲ具備シ烟突下部ニハ火烟發散止
 ノ装置ヲナシ凜笛ハ機關室ヲ迅速ニ相圖信號
 シ得ベク夜間信號ニハ凜笛ノ外前燈或何ヲ莫シ
 軌道上ヲ照スベキハ勿論遠方ヲ充分ニ明視シ得ベキ様
 設備ヲナシ制動器ハ手働式ニシテ制動齒ハ鑄鐵製
 ノ充分適當ナル面積ヲ有シ全部ノ車輪ニ裝置シ取
 扱ハ機關室ニ於テ何時ニテモ容易ニ加減シ得ルモノ
 トス又避難器ハシ形ニ構造シタル鐵網ヲ張り安全ニ
 救助シ得ベキ裝置ヲナスモノトス

十三 客車ハボギー式客車ニシテ其構造概略及主要寸法左
 如シ

一車体長

貳拾貳呎參吋

一車体中

五呎六吋

一車体高(軌道上面ヲ
屋根上端ニテ)

八呎六吋

一客室外長

拾五呎五吋

一客室内中

五呎

一車輪固定軸距

拾貳呎

一乘客定員

參拾貳人

一自己重量

壹噸四分

車輪ハ至拾八吋鑄鐵製ニシテ車軸ハ經貳吋貳分ノ
 上等鍛鋼ヲ以テ製シ車軸箱ハ鑄鐵製ニシテ真鍮
 製ノ車軸受ヲ備ヘ擔彈機ハ充分ノ強度及彈性ヲ有ス
 ル至八分ノ五吋ノ上等鋼鐵製ノ螺旋形ノモノトス
 口
 框ハ丁形鉄ニシテ車体ノ骨格ハ樺材ヲ用ヒ各部

ノ締合部ニ曲金物ヲ接シ「ホールト」ヲ以テ堅固ニ締付
 クルモトス緩衝器ハ車体前後「ハットストツク」ノ中央ヲ
 通レ根太木ニ堅牢ニ取付クルモトス車体ノ両側下
 部ハ板張ニシテ上半部ハ硝子窓及鏡戸ヲ備ヘ客室
 前後ニハ出入口ヲ設ケ客室内ニハ二列ニ中一呎二吋腰
 掛ヲ置キ左右窓ノ上部ニハ網棚ヲ設ケ其上方左
 右ニ旅客停立用ノカ革ヲ備ユ「ラニプ」ハ客室前後ニ
 設置シ外部ニ向テ凸形硝子ヲ嵌メ遠方ヲ明視シ
 得ベキ装置ヲナス又室外屋根下ニハ双方ヲ相圖シ
 得ベキ引革ヲ有ス呼鈴ヲ設クルモトス

ボギー有蓋貨車ノ構造及主要寸法左ノ如シ

一車体長 拾八呎

一車体中 五呎六吋

一車体高 (軌道上面ヲ
屋根上端ニテ) 八呎

一荷箱容積 参百九拾七立方呎

一積載重量 参噸

一自巳重量 志噸四分

一車輪固定軸距 拾志呎

荷箱ハ杉板張ニシテ左右中央部ニ引戸ヲ設ケ車体
 ノ後方ニハ車掌室ヲ設ク「ラニプ」ノ装置緩衝器ノ
 設備其他車台ノ構造略ホ客車ニ全シ

ボギー無蓋貨車大体ノ構造有蓋貨車ニ全シク荷箱ノ
 側板ハ左右ニ開閉シ得ル様装置ヲナス其主要寸法左
 ノ如シ

一車体長

拾八呎

一車体中

五呎壹吋

一車体高

(軌道上面より
側板上端まで)

參呎四吋

一積載重量

參噸

一自己重量

壹噸貳分

一車輪固定軸距

拾貳呎貳吋

十四車輪進行速度ハ毎時間八哩以内トス

十五車輪ハ機關車ヲ合セ三車連結ヲ以テ運轉ス

十六本軌道ト九州鐵道長崎線ト交叉ノ箇所ハ鐵道院

ノ許可ヲ得テ高架軌道ヲ架設スルモノニシテ其構造ハ

別紙圖面ノ通り經間拾九呎四吋高(九州鐵道線軌道面より
桁下煤烟防禦板まで)

拾四呎トス橋台基礎ハ枕形ニシテ枕ハ松丸太貳呎距

ニ考シ其上ニ算盤木ヲ取付テ算盤木上ニ捨土台ヲ

並列シ枕頭下壹呎ハ割栗石ヲ填充シ砂利及砂ヲ以

テ目潰シ基礎ヲ完成スルモノニシテ橋梁ノ全重量ヲ

安全ニ支持シ得ル様堅固ニ築造スルモノトス橋臺

ハ煉瓦ヲ疊積シ其前面及側面ニハ貳拾四分ノ長

ノ豎勾配ヲ附シ裏面ハ高サ三呎ヲ昇ル毎ニ中六吋

ツノ階段ヲ附ス故ニ上部桁受石上端ニ於テハ厚四

呎參吋トナス兩翼壁モ上部ニ於テ階段ヲ附シ其

厚壹呎六吋減少ス左右袖石垣ハ五分勾配ヲ

附シ間知石ヲ以テ築造ス橋桁ハ相當ノ耐力アル

工字形鋼鐵材ヲ用ヒ兩桁間隔ハ中心參呎參吋ニ

シテ上形鉄材ヲ以テ桁ヲ造リ桁間隔ヲ保持セシメ桁

受石上ニ据付クルモノトス 桁上ニハ直ニ枕木ヲ並列シ軌条
ヲ敷設スルモノトシテ軌条兩外側及軌間内ニハ敷板ヲ張リ詰
メ又桁下ニハ鉄板ヲ以テ煤烟ヲ防禦スル装置ヲナスモノトス



委任状

今般私共川上軌道敷設特許願書提出候に付
本願加除訂正必要有之候節、佐賀郡春日村
大字久池井百四十二番地真崎辰五郎より部理代
人ト是ノ前記ノ權限一切委任仕候仍し如件

明治四十四年於月或於五日

佐賀縣佐賀郡松梅村大字松瀬百九拾五番地

福川大右衛門

今縣佐賀市大字栢原町拾八番地

福田慶四郎

今縣佐賀郡全立村大字全立百八拾參番地

井手龜一

今縣高木瀬村大字高木千四拾八番地

中野梅次郎

今縣春日村大字尾寺百六拾番地

原田頑造

今縣巨勢村大字牛島八番地

藤瀬清一

今縣神野村大字多布施七拾八番地

福田新藏

今縣川上村大字東山田千九拾四番地

坂田哲

今縣石田村大字石田百四拾四番地

石川又八

今縣今郎西川副村大字南里百五拾七番地

今泉良子

今縣神埼郡三田川村大字田手百貳番地

真崎三郎

今縣佐賀郡久保泉村大字上知泉九拾番地

福島一郎

今縣今郎高木瀬村大字高木千八百五拾六番地

野口勘三郎

今縣今郎神野村大字神野五拾七番地

榎真木豊道

今縣今郎鍋島村大字蛸久百五番地

田中久太

今縣今郎今村大字鍋島八番地

本村善治

今縣今郎南川副村大字大井道六百參拾陸番地

吉武慶喜

今縣佐賀市大字道祖元町五拾六番地

伊耳彦次郎

今縣今市大字本庄町參拾番地

田上源太郎

今縣今市大字長瀬町五拾番地

谷口清八

今縣今市大字牛島町參番地

佐賀縣
今市町八

下村辰右衛門

今縣今市大字松原町百廿番地

吉田久太郎

今縣今市大字今百廿番地

年田萬次郎

裏面白紙

土 七 二 八

明治四十五年七月二十五日付監第一〇七二號ヲ以テ川上
軌道株式會社發起人福田慶四郎外貳拾參名
對ニ御下附相成候川上軌道敷設特許命令書
ニ對スル請書提出候ニ付別紙及進達候也
大正元年九月七八日

佐賀縣知事不破彦磨

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿
内務大臣 原 敬殿

8069
元 10 1

大正元
年九月
八日

二

公
序
削
除

請書

川上軌道株式會社



御請書

明治四十五年七月二十五日付監第一〇七二
號ヲ以テ川上軌道敷設ノ件特許相成候ニ
付別紙命令書之通り御請仕候也

大正元年八月三十一日

川上軌道株式會社發起人總代

福田慶四郎

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内務大臣原敬殿

命令書

第一條

今般川上軌道株式會社發起人福

田慶四郎外貳拾參名ニ對シ軌道ヲ敷設スル

コトヲ特許シ一般運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可シ

タル軌道ノ線路ハ左ノ如シ

一 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字

一本松四百拾九、拾番地先ヨリ同縣同郡

同村同大字二本松八百六拾參、壹番地先ニ

至ル假定縣道

ニ 前條終點ヨリ同縣同郡同村同大字同字

八百八、參番地ニ至ル新設軌道敷

三 前條終點ヨリ同縣同郡春日村大字久池井

字六本杉冬千一百七拾番地先ニ至ル假定縣道

第二條 營業年限ハ明治九年七月貳拾四日迄

トス

第三條 原動力車ハ魚煙炭及骸炭燃料機關

車トス

第四條 特許ヲ受ケタル者ハ本書交付ノ日ヨリ

六箇月内ニ左ノ各條ニ準據シ線路實測圖

一、横断面平面圖ハ縮尺二千分、一縱断面圖ハ二百分、

一、横断面横断面圖ハ二百分、一トス、工事方法書圖

面及工費豫算書ヲ調製シ佐賀縣知事ノ認

可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

老字種入

老字種入

老字種入

一 軌間ハ内法三呎トス

二 軌條ハ鋼鐵製工字形ノモノヲ用ニ其ノ重量ハ一碼ニ付拾封度以上トス

三 軌條間ノ全部及其ノ左右各一尺五寸通ハ木石砂利具他適當ノ材料ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラレムヘシ

四 軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ハ六間以上其ノ他ノ場所ハ四間以上

復線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔

ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ハ七間以上其ノ他ノ場所ハ五間半以上

五 軌道ハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ニ於テハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設スヘシ但シ車體外ノ兩側ニ軌間半以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ二間半以上他ノ一側ニ二間以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方ニ偏シテ之ヲ敷設スルコトヲ得

前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ車體外ノ一側ニ三尺以上他ノ一側ニ二間半以上ノ幅員ヲ存シテ軌道ヲ敷設スヘシ

道路ノ屈折部ノ内角ノ前後ニ於テ前
二項ニ示ス幅員ヲ存スルコトヲ要ス

井戸、並木、電柱、街燈、郵便函具、他道路上
ノ建設物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離溝渠

敷地及人道車馬道ヲ區別セル道路ニ在テ
ハ其ノ人道ハ前三項ノ幅員ニ算入セス

六 道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス
箇所ハ木又ハ石ヲ用井テ踏切ヲ設ク
ヘシ

七 軌道カ道路ヲ横斷スル箇所亦前條ニ
同シ

八 橋梁ノ構造、幅員及耐力ハ佐賀縣知事
ノ指定スル所ニ依ルヘシ

九 軌道敷設ノ為ニ生スル道路面及軌道内
ニ於ケル雨水ノ滞留ニ付テハ完全ナル
排除ノ方法ヲ設クヘシ

十 勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス

十一 屈曲ノ半径ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス

十二 車輛ニハ相當ノ避難器、制動器及信號器
ヲ装置スヘシ

十三 地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電
話線路、水管、瓦斯管其ノ他公共用ノ地下

工作物ト交叉若ハ接近シテ軌道ヲ敷設ス
ルトキハ其ノ線路又ハ工作物ヲ毀損セサル

為適當ノ豫防装置ヲ為スヘシ

十四 各種ノ人孔制水弁蓋等ニ接近シテ軌

道ヲ敷設スルトキハ標業上障害ヲ與ヘ

サル為適當ノ距離ヲ保タレムヘシ

十五 特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌

道敷ハ車體外左右各三尺以上ノ幅負

ヲ有スルコトヲ要ス

前項第三號乃至第六號及第九號ハ新設

軌道敷ニ之ヲ適用セス

第六條 特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ

得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ着手シ着

手ノ日ヨリ二年内ニ竣功スヘシ

但シ天災其ノ他正當ノ事由ニ因リテ本條

ノ期間内ニ工事ニ着手シ又ハ竣功スルコ

ト能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコト

アルヘシ

第六條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ擴築シタル

道路及改築シタル橋梁ハ竣功ト同時ニ

無償ニテ國又ハ公共團體ノ有ニ歸ス

第七條 軌道敷設ノ為道路ノ地表又ハ地下ニ於

ケル建設物ノ移轉其ノ他ノ工事ヲ要スル

トキハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ施

行レ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

第八條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運轉ヲ

開始セムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ
佐賀縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
五事ヲ五事方法書ニ違反スルモノト認ムル
トキハ佐賀縣知事ハ其ノ改築又ハ停止ヲ
命スヘシ

第九條 乗客ノ定員、荷物ノ制限運送賃及
發車並營業時間ハ佐賀縣知事ノ認可ヲ
受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十條 原動力車ニ關スル技術員、車掌及
運轉手ノ資格及採用ノ方法ハ特許ヲ受
ケタル者ニ於テ之ヲ定メ佐賀縣知事ノ
認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十一條 車輛ハ一輛毎ニ佐賀縣知事ノ検査
ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十二條 進行ノ速度ハ一時間八哩ヲ超過セ
シムルコトヲ得ス

第十三條 車輛ハ機関車一輛ニ客車若ハ貨車
一輛ノ外聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス
但シ佐賀縣知事ノ許可ヲ得タルトキハ機關
車ヲ併セ三車ニ限リ聯結シテ進行セシムルコ
トヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ車輛ノ全延長六十
呎以内ナルヲ要ス
進行中ハ各車ノ間ニ相當ノ距離ヲ保タムヘシ

日出前日没後ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前後ニ點スヘシ

第十四條 乗客ノ昇降ノ為ニスルノ外故ナク道路

路上ニ停車セシムルコトヲ得ス但シ乗客昇降ノ場合ト雖道路ノ交叉部・屈曲部及橋梁上ニ於テ停車セシムルコトヲ得ス

第十五條 佐賀縣知事ノ指定シタル場所ニハ

特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十六條 左ニ掲ケタル箇所ハ佐賀縣知事ノ命スル所ニ從ヒ特許ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ改築修繕

掃除撒水及除雪ヲ爲シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

一 道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各ニ尺通

二 橋梁ノ改築又ハ修繕ハ前條ニ是メタル幅員ト橋梁ノ幅員トノ比例ヲ以テ標準トシ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕費ノ全部ニ對シテ特許ヲ受ケタル者ニ於テ負擔スヘキ費用ノ歩合ヲ定ム

橋梁ノ掃除撒水及除雪ハ前條ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交叉

スル場合ニ於テハ其ノ交叉面ニ係ル前項ノ
義務ハ関係者ノ分擔トス

第十七條 車輛ハ常ニ清潔ニ保持シ其ノ修繕
ヲ怠ルヘカラス

第十八條 佐賀縣知事ハ何時ニテモ軌道車
輛其ノ他ノ工作物ヲ監査シ危険ナリト認
ムルトキハ改築修補ヲ命シ其ノ命ヲ執
行シ終ルマテ其ノ使用又ハ營業ヲ停止
スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危険切迫ナリト認ム
ルトキハ佐賀縣知事ハ自ラ其ノ改築修
補ヲ爲スコトアルヘシ

第十九條 佐賀縣知事ハ何時ニテモ營業ニ関
スル實況ヲ監査シ此ノ命令書ノ條項又
ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ
違反セル事實アルトキハ之ヲ督責シ特
許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ更正スルマテ
營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十條 特許ヲ受ケタル者ハ内閣總理大臣
及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ一
部ノ營業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十一條 特許ヲ受ケタル者ハ佐賀縣知
事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業ヲ停止
スルコトヲ得ス

第二十二條 内閣總理大臣及内務大臣ハ

公益上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ

原動力ノ變更其ノ方式設備線路若ハ

敷設順序ノ變更又ハ交通上必要ナル線

路ノ新設若ハ延長又ハ道路ノ擴築又ハ

復線ノ敷設若ハ撤去又ハ一部ノ線路ノ

廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 佐賀縣知事ハ乗客ノ定員荷

物ノ制限運送賃及度車並營業時間ノ

變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 道路、橋梁、水道其ノ他ノ公共

事業ノ爲必要アルトキハ佐賀縣知事ハ

軌道其ノ他ノ工作物ノ改築若ハ一時撤去

ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スル

コトアルヘシ

交通上危険ノ虞アルトキハ佐賀縣知

事ハ其ノ必要ノ部カニ限リ一時車輛ノ運

轉ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十五條 軌道ヲ交叉シ若ハ之ニ接續シ

又ハ之ニ接近シテ道路、橋梁、運河、鐵道

又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ受

ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 道路ニ敷設セル工作物其ノ他營

業上必要ナル物件ハ特許ヲ受ケタル者

ニ於テ佐賀縣知事ノ許可ヲ受クルニ非
サレハ之ヲ讓渡シ又ハ義務履行ノ擔
保ト爲スコトヲ得ス

第二十七條 内閣總理大臣及内務大臣又ハ
佐賀縣知事ハ公益上必要ト認ムル事項
ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命スルコトアルヘシ
内閣總理大臣及内務大臣ハ公益上必要
ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ條項ヲ變
更スルコトアルヘシ

第二十八條 將來定メラルル所ノ法令ノ結果ト
シテ此ノ命令書ノ條項ニ變更ヲ來スコ
トアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコ
トヲ得ス

第二十九條 特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ
營業ノ報告書ヲ調製シ三十日內ニ佐
賀縣知事ニ差出スヘシ

佐賀縣知事ハ何時ニテモ營業ニ關スル
帳簿書類等ヲ檢閱スルコトアルヘシ

第三十條 國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ爲
軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部
若ハ一部ノ專用又ハ買収ヲ爲サムトスル
トキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコ
トヲ得ス但シ之ニ對シ補償ヲ求ムルコト
ヲ得

彌平至子校

前項ノ物件ノ範圍ニ付テハ内閣總理大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三十一條

前條全部専用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均收入月額又ハ前年ノ相當月ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ専用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均收入日額又ハ前年若ハ前月ノ相當日ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但シ其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前條一部専用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル専用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部専用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其ノ専用部分ニ對スル補償金額ヲ定ム

前條全部買収ノ場合ニ於テハ年率七分ヲ以テ前五箇年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム但シ其ノ地方ニ於ケル金利年率ニ著シキ變更ヲ來シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ本項ノ年率ヲ變更スルコトアルヘシ
役員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ内ニ算入ス
前條一部買収ノ場合ニ於テハ前三項ノ

規定ヲ準用シテ補償金額ヲ定ム
開業ノ後本條ニ規定シタル時曰ラ經過
セサルトキハ既往營業時曰ラ標準トシ
平均額ヲ算出ス

第三十二條 他ノ軌道營業者ニ於テ内閣総
理大臣及内務大臣ノ許可ヲ得テ特許
ヲ受ケタル者ノ軌道具、他營業上必要
ナル物件ノ一部ヲ共同使用セムトスルト
キハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ其ノ共同使
用ノ條件ハ協議ノ上之ヲ定メ協議調ハ
サルトキハ内閣總理大臣及内務大臣
之ヲ定ム

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ効力
ヲ失フ

- 一 第四條ノ期間内ニ認可ヲ申請セサル
トキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ
 - 二 第五條ノ期間内ニ工事ニ着手セサ
ルトキ
 - 三 全部ノ營業ヲ廢シタルトキ
 - 四 會社解散シタルトキ
 - 五 營業満期ノトキ
- 第四條ノ認可申請以前ニ會社成立セサ
ルトキハ特許ハ其ノ効力ヲ失フ
創立總會ニ於テ此ノ命令書ノ條項ヲ

遵守シテ營業スルコトヲ議決スルニ非サレ
ハ特許ハ其効力ヲ失フ

第三十四條 前條ニ掲ケタル場合ノ外特
許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書ノ條項
又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分
ニ違反シタルトキハ内閣總理大臣及内務
大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトア
ルヘシ

特許ヲ受ケタル者カ不可抗力ニ因ラズ
シテ滿一箇月間工事ヲ休止シ更ニ起工セ
サルトキ亦前項ニ同シ

第三十五條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ
佐賀縣知事ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形
ニ復セシムルコトアルヘシ

第三十六條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テ
ハ國又ハ公共團體カ軌道其ノ他營業
上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ヲ買収
セントスルトキハ特許受ケタル者ハ最近
ノ財産目録ニ記載シタル物件ノ價格ヲ
以テ之ヲ賣渡スヘシ
買収者ニ於テ前項ノ價格ニ關シ異議ア
ルトキハ其ノ申請ニ依リ内閣總理大臣
及内務大臣ハ佐賀縣知事、買収者及特
許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評價委員

ヲ選定セシメ其ノ意見ヲ徴シテ其ノ價格ヲ定ム

本條ノ場合ニ於テハ第三十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條 特許ヲ受ケタル者ハ内閣總理大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セザルトキハ佐賀縣知事ハ自ラ代テ之ヲ執行レ又ハ他人ヲレテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第三十九條 特許ヲ受ケタル者カ許可ヲ得スレテ營業ヲ休止レ又ハ一部ノ營業ヲ廢止シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ市町村ヲシテ營業年限内特許ヲ受ケタルモノノ計算ヲ以テ營業ヲ爲サシメ又ハ他人ヲレテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ヲ使用シテ營業ヲ爲サシムルコトアルヘシ
本條ノ場合ニ於テハ第三十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十條 此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キ
テ爲シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者
ニ於テ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用
並第十八條第二項及第三十八條ノ費用ハ
總テ特許ヲ受ケタル者ノ負擔トス
此ノ命令書ニ基キテ爲レタル處分ニ因
リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受ク
ルコトアルモ其賠償ヲ請求スルコトヲ得
ス

第四十一條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ
特許ヲ受ケタル者ハ特許状及此ノ命令
書ヲ佐賀縣知事ノ定メタル期日迄ニ返納
スヘシ

明治四十五年七月二十五日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

内務大臣 原 敬

九十五

九月五日協議會席上打合済

二十九日
三合済

第一八八九號 大正二年 九月廿六日受領
第一八九七號 大正二年 九月廿七日達済
淨書 校合済

監督局長 事務主任

技術主任

副總裁

總裁

內閣總理大臣

內閣書記官長

內務大臣

次官

土木局長

技術課長
道路課長

川上軌道工事施行ノ件

回議用紙

鐵道院

案

番號

佐賀縣知事

大正二年五月三日附收佐土第二一二號川上軌道
工事施行ノ件票伺ノ通

年月日

內閣總理大臣

內務大臣



第一三八號 大正二年九月二十日受領
淨書 校合

第 號 大正二年九月十九日立案

事務主任

監督局長

（手印）

佐賀縣知事 通牒 件

番號

年 月 日

局長

知事宛

回議用紙

鐵道院

通牒

本月十七日附收佐土第二一二號ヲ以テ返戻相成原川上
軌道工事施行ニ関スル指令書別紙訂正及送付候

裏面白紙

收佐土第 二一一二

川上軌道工事施行ニ関スル指令書返戻ノ件電報ヲ
以テ御照會ニ依リ別紙及返戻頁也

大正二年九月十七日

佐賀縣知事不破彦磨



鐵道院監局長藤田虎力殿

大正二年九月十七日
佐賀縣知事
不破彦磨

第二一九號 大正二年九月十六日 淨書校合

第 號 大正二年九月十六日 事務主任

監督局長

文書主任

佐賀縣知事ニ電報ノ件

案

番號

年 月 日

局長

宛

回議用紙 鐵道院

カワカニキドウカン 電報ノ件 宛 見ノ通 指令

川上軌道ニ宛テ電報ノ件 宛 見ノ通 指令

シヨーマツハシレイ

書一先返戻ヤレ

天
二
九
二
八
〇

八月廿六日
局長宛
十三日監事二八八九號
指今未致暈
會同
〇〇〇〇右ハ會同通下
承知然之

62

裏面白紙

第二二四號 大正二年九月五日 日受領
淨書 校合

第 號 大正二年七月十五日 日受領
日達濟 日受領
立案

事務主任

監督局長

佐賀縣知事ニ電報ノ件
案(電報)

番號

年 月 日

局長

しん事宛

回議用紙

鐵道院

川上軌道工事施行ノ件十三日指令済
カワカキキドウニウジシコウケン一ニヒコレイス

裏面白紙

川上軌道工事施行一件

一 車輻関之待箇所整理済任支障 十二ト思ム

九月五日

一 土木之突之石備ノ箇所整理了レ支障

十二ト思ム

九月五日

川上軌道工事施行一件

機園車

- 一 從體胸板接合のり下止、直徑及びのり量より
多止、材厚を明記する
- 一 火宅カド下止、構造を指示する
- 一 火宅指ん可倍能、構造及修造を個數を指示する
- 一 煙掃、指ん火杯止構造、構造を圓兩表へは具其
細図を指示する
- 一 車輪カド、緊締、法を圓兩に指示する
- 一 從體連結器、構造及其構造圖を提出し具
其構造を從體中心より高さ指示する
- 一 年用新車機各部、材質、必要を指示する

記し

忠告書

- 一 車輪各部、寸法(直徑)及車輪のり下止、寸法を
指示するに及ばず、寸法其のより寸法を指示するに及ばず
ト異なりを指示し整理を指示する
- 一 從體中心、軌条面上より高さ、寸法を指示するに及ばず
而し寸法を指示する
- 一 新車機構造のより寸法書、螺絲式トを圓兩に
指示するに及ばず
- 一 有蓋車、寸法を指示するに及ばず、構造のより寸法を
指示するに及ばず

鐵道院

八月廿日

代理者松岡芳太郎氏、後示済

17031号

急

車軌

川上軌道工事施行ノ件

右再調スニ土木ニ屬シ左ノ件 新設ヲ要ス

一五呎暗渠ニ於ケル軌条ト鋼桁トノ取付方法不明ナリ

一惣堅修築場ハ平面番ニナシ

一踏切位置ノ縦断面番ト表ト一致セザル箇所アリ

一他處修築場位置表ト圖ト一致セズ

二八二三

裏面白紙

二四
一六

院道
第1764
258

二五
五七

川上軌道株式會社ヨリ軌道工事施行ノ義
別紙出願候處右ハ容年七月監第一〇七二號
ヲ以テ御許可相成候線路ニシテ何等不都合
無之被認候ニ付認可致度候條別紙關係書類
添付此段稟申候也

大正二年五月三日

佐賀縣知事不破彦磨

内閣総理大臣伯爵山本權兵衛殿

内務大臣原敬殿

左
賀
縣

土
二一三

裏面白紙

765

68

第五八號

大正二年

五月廿一日

淨書 校合

第 號 大正二年

五月廿四日立案

監理部長

事務課長

佐賀縣知事 照會件

案

番號

年 月 日

部長

宛

回議用紙

鐵道院

照會

本月三、四日佐賀縣知事ニ一ニ照會ヨリ川上軌道ニ事施
行ノ件事同知事復書左記事項ヨリ調セシメテ度

一 工事方法書ニ左記事項ヲ記載スニ

線路延長 單線複線 區別 軌條ノ形 枕木 軌向

曲線ノ最小半徑 最急勾配 機関車及客貨車ノ構造設

明

一 左記ノ圖書類ヲ提出スル

構架略圖表

枕木表

軌向表 軌力計算書 機關車 鑿明火室車輪車

軸制動器組彈機及彈簧等ノ明細圖 客貨車ノ

一 枕木ノ種類 枕木ノ長 枕木ノ幅 枕木ノ厚

- 一車輛圖中主要部ノ寸法能入使トナリ
- 一避待線上車輛停止横断面圖中車体最大幅員ニ五呎六吋トマシモ車輛圖ニ依リテ既五呎九吋ナリ
- 一平面圖ニ軌道位置(右側右側者ノ中央等ノ區別)ノ人家建蔽者ノ建蔽スルノ区域ヲ明シシ且命令書第一條ノ地名地番ヲ記入スルコト

- 一軌道ノ法ノ公取ニ割五分ニ改ムルコト
- 一縱断面圖ニ踏切ノ位置長サヲ記入スルコト
- 一橋梁時果ノ断面圖ニ其長サ幅又ハ箇所致縱断面圖ト設計圖ト一致セサシモノナリ
- 一橋梁ノ應力計算書中径間ニ終純径間ヲ採リアルモ右ニ相違餘裕ヲ見込ミ且長径間ノ橋梁ニ對シテ機關車

鐵道院

二 橋梁ノ設計ノ計算スルコト
 二 線路ニ并説明スルコト
 一 路上ノ引込線敷設處

- 一 軌道用敷及法路敷ニ於テハ工定規(建築橋梁軌道位置車体外廓等ヲ明シスルモノ)
- 一 轉轍器及轍又ノ設計各種ニ對スル曲線半徑等ヲ記載スルコト

- 一 各種鋼桁設計圖ヲ提出スルコト尚木桁ハ総テトランサ
- 一 踏梁及堀江橋草場橋新築橋三浦橋堺橋駁橋
- 一 踏梁及堀江橋草場橋新築橋三浦橋堺橋駁橋

鐵道院

- 一 車輛圖中主軸距ノ寸法能ク使ヒコリ
- 一 待待線上車輛停止橫断面圖中車体最大幅員五呎六吋トアルモ車輛圖ニ依リテ路五呎九吋ナリ
- 一 平面圖ニ軌道位置(右側右側者ノ中央線ノ位置)ノ人家連擔者ノ連擔スルキ區域ヲ明シ且命令書第一條ノ地名地番ヲ記入スルコト

- 一 枕木規ノ法ハ勾配一割五分ニ改ムルコト
- 一 縱断面圖ニ踏切ノ位置長サヲ記入スルコト
- 一 橋梁、暗渠ノ構造、材料、其長サ、幅又ハ箇所敷設断面圖ト設計圖ト一致セサルモナリ
- 一 橋梁ノ應力計算書中径間、終端径間ヲ採リアルモ右ニ相違餘存ヲ見出シ且ツ長径間ノ橋梁ニ對シテハ機關車

鐵道院

- ニ 臺邊線ニシテ場合ヲ豫想シテ計算スルコト
- 一 平面圖ニ於テ起矣附近ヨリ分岐スル線路ニハ説明スルコト又神戶停車場ヨリ分岐スル道路上ノ引込線敷設處ニテハ更ニ特許ノ申請ヲナスコト
- 一 專用敷及道路敷ニ於テハ土工定規(道路線路軌道位置車体ノ位置等ヲ明シシモノ)ヲ提出スルコト
- 一 轉轍器及轍又ノ設計各種ニ對スル曲線半径等ヲ記載スルコト
- 一 各橋梁鋼桁設計圖ヲ提出スルコト尚木桁ハ設計トランザルニ依リテナスコト
- 一 暗渠及堀江橋草場橋新字橋三浦橋堤橋堰橋鐵橋等ノ設計圖ヲ提出スルコト其他橋梁圖ニ於テハ橋台

ノ寸法不明ナリ

一 官線跨線橋之桁及三十呎徑向橋梁橋桁ノ高サハ不足ニシテ
 横度大ナルカ如シ

一 工事方法書第四項又圖面ニ於テハ踏切板敷ノ幅ハ命令書
 ニ又スルコト

一 轍又護輪軌條ノ向隔ヲ記入スルコト

鐵道院

裏面白紙

裏面白紙

土木局訓

一 工事方法書に左記事項ヲ記載スルコト

線路延長、單線複線、區別、軌條、形状、數量、軌間、

曲線、最小半徑、最大勾配、極度車、支保車、構造説明、

一 左記圖書類ヲ添付スルコト

橋梁標準表

(位置、尺数、使用材料等)

踏切表 (位置、長さ、明り等)

制動器、制動力計算書

一 車輛圖中生要部寸法記入簿

一 道路上布設の場合に於テハ土工定規圖 (道路途中、軌道位置、車体位置等)

ヲ添付スルコト

一 待線、上車、軌道停止、横断面圖、中車体最大幅、五呎六寸

トアルモ車輛圖ニ依リハ五呎九寸ナリ

裏面白紙

川上軌道工事施行一件

一 概算書及工事估價書、構造工事方法書、

説明書等

一 左記圖面、係所定要之

(1) 概算書、概算、大體及車輪、車軸、制動機、
組件機、連結器等、明細圖

(2) 估價書、工事估價、車輪、車軸、制動
機、及連結器等、明細圖

吉田 呈



草

川上軌道工事施行条件

二五二五

右審査スル土木ニ関シ

一 平面圖ニ於テ起點附近ヨリ分岐スル線路ノ意味不明ナリ亦神戶側ノ箇所ヨリ分岐スル線路上ノ引込線敷設ニ関シテハ相当地手續ヲ要ス

井ノ上

一 平面圖ニ線断面圖ニ線路ノ起終点及専用敷道敷ノ境界ノ地番記入シテ線断面圖ニ切箇所ノ記入ヲ要ス

一 築堤ノ側勾配ハ一割五分トスルニテ内空壁トシテ鎮守附近ニ全テ築堤ニ即附近ニ至ルニ築堤工事ヲ怠ルコトナカシ

一 専用敷道敷敷ニ於ケル土工定規ヲ提出スルコトヲ要ス

一 轉轍器及軌道ノ設計ハ一様ナリ何レモ使用スルモノナリヤ

一 各橋梁鋼桁木桁ノ設計書提出ラ要ス尚木桁線路橋

鐵道院

一 各橋梁設計ニ中橋長橋脚基礎工不明モナリ亦橋脚ノ寸法不明ナリ

一 木桁ノ凡テ月張ノ四付ヲ要ス

一 暗浜木及堀江橋・学場橋・新栄橋・三溝橋・坂橋・磯橋・籠橋等ノ設計ハ橋脚及土地橋脚ニ於テ橋脚ノ寸法不明ナリ

一 官路跨路橋ノ折及三十呎徑向橋梁橋桁ノ高ハ過少ナリカ

一 工事書及工事申付書ニ及スルカ如ク再補正ヲ要ス

一 概算及設計書ノ台帳ノ記入ヲ要ス

以上照会ヲ要ス

備考 概算及設計書ノ上油蓋ヲ要ス

裏面白紙

救佐土第ニ一一二

縣下川上軌道株式會社出願軌道工事施行ノ件ニ関シ
五月三日付收佐土第ニ一一二號ヲ以テ稟申致置候處
右會社ヨリ至急工事ニ着手致度旨申出候ニ付速ニ
御認可相成様御取計相煩度此段及御依頼候也

大正三年五月三十日

事務主任

技術主任

局長

佐賀縣知事不破彦磨



鐵道院監督印長藤田席力殿

大正三年五月三十日

佐賀縣

904
76

川上

一
三
四
五

清万才三六之三

大正二年六月二十五日

内務省土木局



鐵道院監督局

印中

川上軌道工事施行認可申請

書却下ノ件照会

川上軌道工事施行認可申請書却
下才佐領知事ヨリ照会修付人
一件書類及申送付修案可然申流
計石中

從土第212

縣下川上軌道株式會社出願ニ係ル軌道
工事施行認可申請書客月三日付收佐
土第212號ヲ以テ及進達置候處右ハ
訂正ヲ要スルヶ所有之候條圖書類一先
御却下相成度此段及御照會候也

大正貳年 六月七日

佐賀縣知事不破彦磨

内閣鐵道院監督局長長尾半平殿

二六七日
二三九號

佐賀縣

913

78

裏面白紙

六月廿五日
監督局長宛
過日照會、川上軌道工事認可申請附屬
書類、丁返付乞、
佐賀縣知事

大ニ久生
一三三八
印



六月二十七日

第一三七〇號 大正二年六月廿七日 日受領
第一三七八號 大正二年六月廿七日 日達濟
淨書 校合

事務主任

監督局長

之書主任

張衛主任

川上軌道工事施以認可申請書類送付件

番號

年 月 日

局長

佐賀縣知事宛

回議用紙

鐵道院

田島

本年六月廿七日附收佐賀第一二二號一ヲ以テ川上軌道工事施以認可申請書類送付方照會ノ趣ヲ奉 別紙及送付書類送付

第六三三

川上軌道

裏面白紙

佐賀縣

土 二二二

川上軌道工事施行ノ件ニ関シ本年五月三十一日付監
乙第五六八號ヲ以テ御照會相成矣ニ付再調
上夫々訂正セシメ別紙及再進矣間至急心御認
可相成矣様御取計相煩度御回答方此段
及照會矣也

大正三年八月十四日 佐賀縣知事不破彦磨

鐵道院監督局長藤田虎力殿

追而御照會書第十項中神野停留所ノ方岐ル
道路上ノ引込線ハ刪除矣條為念申流矣

大正三年八月十四日



工事施工認可申請書

川上軌道株式会社

工事施工認可申請書

明治四十五年七月二十五日付佐賀縣經由監第一〇七
二號ヲ以テ内閣總理大臣并内務大臣名ヲ以テ特
許ヲ蒙リ候川上軌道株式會社ハ今回軌條布設
工事施工致度就テハ特許狀附屬命令書ノ条
項堅ク遵守シ別紙簡面并設計書ノ通り施工
可仕候条特別ノ御詮議ヲ以テ至急御許可被
成下度工事関係簡書相添此段奉願上候也

大正元年十二月二十五日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野五十七番地

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事不破三郎 殿

寫

九管工丑受第六六號ノ參

大正二年三月七日

九州鐵道管理局長藤田 帛力印

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰五郎殿

大正元年十二月十日付申願ニ係ル當局鐵道長崎本線
佐賀久保田間鳥栖起点拾五哩六拾七鎖八拾八節ノ地
點ニ於テ跨線橋架設ノ件承認致候ニ付左記事項遵守セムベシ
但本書到着ノ上ハ吾以內此全文ヲ掲ゲタル請書ヲ提出ス
ベシ

記

- 一、橋梁架設工事施行並ニ將來ノ保存修理ニ付テハ總テ
當局ノ指揮監督ヲ承クベシ
- 二、鐵道事業上必要ナル時ハ會社ハ其費用ヲ以テ橋梁ヲ
移轉又ハ變更スベシ
- 三、橋梁架設ノ為メ當局ノ電柱及信號機移轉改設並ニ
電氣反應機裝置等ヲ要スルニ付其工事及設備ハ當
局ニ於テ施行シ其費用ハ會社ニテ負担スベシ
- 四、橋臺其他ノ爲メ使用スル當局用地ノ地積及使用料等
ハ當局ノ指定スル所ニ從フベシ
- 五、橋梁架設工事着手時ハ更ニ當局承認ヲ受クベシ

以上

川上軌道工費豫算書

一金拾萬圓

川上軌道工費

内

金八百九拾圓

測量及工事監督費

金參千八百參拾圓拾四錢

用地費

金六千參百八拾九圓九拾參錢七厘

土工費

金七千七拾六圓七拾壹錢五厘

橋梁費

金六百圓

家屋移轉費

金參萬四千四百七拾五圓八拾九錢貳厘

軌道費

金參千八百參拾八圓五拾錢

停車場費

金貳萬八千百圓

車輛費

金千五百四拾四圓

諸建物費

金八百圓

器具及機械費

金五百圓

運送費

金千五百圓

總係費

金壹萬壹千九拾四圓八拾壹錢六厘豫備費

圖書目錄

第壹號

平面圖

第貳號

縱断面圖

第參號

專用線横断面圖

第肆號

停留場配置圖

第伍號

三溝停留場事務所在圖

第陸號

都渡城停留場圖

第柒號

鐵道横過橋圖

第捌號

拱渠圖

第玖號

專用橋圖

第拾號

五呎暗渠圖

第拾壹號

三溝橋圖

第拾貳號

館橋圖

第拾參號

坪上橋圖

第拾肆號

平尾橋圖

第拾伍號

五呎六吋暗渠圖

第拾陸號

尾寺橋圖

第拾柒號

久池井橋圖

第拾捌號

境橋圖

第拾玖號

新榮橋圖

第貳拾號

堺橋圖

第貳拾壹號

新村橋圖

第貳拾貳號

暇橋圖

第貳拾參號

軌條圖

第貳拾四號

ポイント圖

第貳拾五號

クロスシグナル圖

第貳拾六號

ポイントボックス圖

第貳拾七號

作工圖

自第貳拾八號
至第四拾八號

機関車圖

第四拾九號

客車圖

第五拾號

客車ブレーキ圖

第五拾壹號

客車ホキートラック圖

第五拾貳號

客貨車連結器圖

第五拾參號

有蓋貨車圖

第五拾四號

無蓋貨車圖

第五拾五號

土工定規圖

第五拾六號

避待線上車輛停止橫断面圖

第五拾七號

貨車ブレーキ圖

工事方法書

一本軌道ノ起終地名及哩程左ノ如シ

起 点 地 名	終 点 地 名	線路區別	哩 程
佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本枳四百拾九ノ拾番地先	全縣全郡全村大字全字全	假定縣道	拾四鎖拾七節
全縣全郡全村大字全字二本枳八百拾九ノ拾番地先	全縣全郡全村大字全字全	三ノ瀬線	拾四鎖拾七節
全縣全郡全村大字全字二本枳八百拾九ノ拾番地先	全縣全郡全村大字全字全	新設軌道	拾七鎖九拾四節
全縣全郡全村大字全字全	全縣全郡春日村大字久池	假定縣道	四哩參拾六鎖八拾九節
八百八ノ參番地先	井字六本枳參千七百七拾番地先	三ノ瀬線	五哩九鎖

避待線貨物線構内線

合計

四拾五鎖參拾六節
五哩五拾四鎖參拾六節

二、軌道ハ單線ニシテ軌間參呎トス

三、軌條ハ鋼鉄製工字形ノモノヲ用ヒ其ノ重量ハ長芝嗎ニ依

參拾封度トス枕木ハ栗材ニシテ長五呎中四寸四分一ノモノヲ

使用シ中心間隔貳呎ニ配置スルモノトス

四、曲線ノ半径ハ六拾呎ヲ以テ最小限トス

五、勾配ハ五拾分ノ一ヲ最ム心トス

六、軌條敷設方法ハ作工圖ニ示ス如ク縣道上ニアリテ中心

線ヨリ左右參呎宛深一呎ヲ掘取り枕木ヲ配置シレール

ヲ引延シ各レール間ニハアングルフ井シユプレートニ枚ヲ

當テフ井シユプレート四本ヲ以テ締付ケ軌條ト枕木トノ取

付ケハドワックスパイキヲ打付ケ枕木一本ニ四本打トス道床ニハ

砂利石ヲ平均中六尺敷込ニ充分搗堅メタル上軌條上面ノ

ニ地表ニ現ハルノ様埋没セシメ軌條面ト道路面ト高低

ナク人車馬ノ通行ニ差支ナキ様敷設スルモノトス

七、專用線路ニアリテハ築堤ヲ為シ兩法芝割五分ノ勾配

式書書入

訂正

ニ盛土土砌打堅メ竹助芝ヲ植込シ入念施工シ其施工基面上ニ破利石五寸中平均六尺ヲ置キ以テ軌條敷ヲ構築シ別紙圖面ノ通り構造ヲ為スモノトス

八、道路交叉踏切ケ所ニハ交叉道路幅員以上ノ幅ニ本線軌條内部ニ復軌條ヲ布設シ内部全面及軌條外部側各各五寸幅宛軌條ト全高ニ杉板ヲ打付ケ踏切道ニ通行ニ便ナラシム

九、現在道路中既設橋梁系暗渠上ヲ通過スル場所ハ桁木取替ヘ又ハ添ヘ桁ヲ施シ改築シタル上ニレールヲ布設シレール西側系中間ニハ木石ヲ以テ夫レ々々橋面均等ニ張詰ムルモノトス

十、専用線路中アーチカルバート志ケ所鉄桁橋梁志ケ所構造ス其方法ハ相當床堀ヲ為シタル後基礎杭打ヲ施シ杭頭ニ縦横梁木ヲ切組床板ヲ張り結メ其上上部ニ煉瓦積ヲ施シ最モ堅牢ニ施スルモノニシテ其構造ハ別紙圖面ニ詳カナリ

訂正

十一、鉄道橋過ノ場所ハ別紙圖面ノ通り鉄道両側ニ橋臺ヲ築造シ鉄桁橋梁ヲ架シ専用橋梁ヲ以テ通過スルモノトス其構造ハ圖面設計書ニ詳カナリ

十二、道路ヲ掘鑿埋戻ヲ為シタル後剰余土砂ハ盛土箇所ニ充用スルモノトス

十三、避待線路布設其他道路幅員不足ノ箇所ハ構築ヲ為シ制限ニ接觸セザル様施工スルモノトス

十四、起終両点ニハターミナル(回轉臺)ヲ設ケ機炭車ノ方

向轉換ヲ為ス構造トス

十五、線路ノ分岐ハポイントクロスレッシングヲ楯体ケ耳構造ハ別紙圖面ノ通り運轉上安全ナル装置ヲ為スモノトス

十六、工事材料中圖面系ニ設計書ニ示ス木材其他ノ材料寸法ハ仕上寸法トス

十七、工事使用材料中洗砂又ハ川砂ハ泥土塵芥等ヲ含有セザル淨砂ヲ使用スルモノトス

十八、砂利ハ川砂利又ハ堅質ノ碎石砂利ニシテ土砂塵芥ノ除着セザルモノヲ使用ス

十九、築石ハ間知形ニシテ面壹尺貳寸控壹尺五寸以上胴体三寸以上トシ玄筭合端積ニシテ堅固ニ仕上グルモノトス

二十、石積煉瓦積其他構造物製作ニ依テハ所定ノ圖面設計書ニ依リ工事着手前ニ於テ下張ヲ仕体ケル無粗漏

施エスルモノトス

右ノ外仕様設計書ニ記載無キ事項ト虽モ工事ハ完全ニ施エスルモノトス

起点附近ヨリ分岐スル線路ニ付説明書

訂正

川上軌道ニハ三ツ瀬縣道上ニ據リテノニ敷設セント欲スルトモ
平面圖ニ示ス如ク九ノ鉄道佐賀駅ノ西方ニ於テ九ノ鉄道
長崎線横過シ其踏切箇所ハ同平面地ニシテ鉄道ト軌道
トハ平面交スルニテラザレバ敷設為シ難キナリ然ルニ平面交
又敷設ハ運轉上危険ナル故起点拾四節七節ノケ所ヨリ專
用線路ヲ築造シ別紙縦断面圖ニ表ハス如ク六十分ノ一ノ勾
配ヲ築堤スル為メ線路ヲ迂回シテ九ノ鉄道鳥栖起点拾
五節七節八節ノ地点ニ於テ跨線橋ヲ架設シ起
点ヨリ五拾貳節拾五節ノケ所ニテ三ツ瀬縣道ニ合スル

訂正

計畫トス

停留場位置及線路長表

場	所	位置	避待線長	構内線	計
佐賀停留場	佐賀郡神野村大字神野 字一本松	起 占八 終 占八	參鎖六拾節	志鎖四拾節	五鎖
三溝停留場	全郡全村大字全字三本松	起 占八 終 占八	拾鎖七拾節	貳拾貳鎖七拾六節	四鎖
菅所前高瀬停留場	全郡高瀬村大字高瀬 字二本黒木	起 占八 終 占八	四鎖		四鎖
三本松停留場	全郡全村大字水瀬 字尾	起 占八 終 占八	四鎖		四鎖
尾寺停留場	全郡香島村大字尾寺 字高	起 占八 終 占八	參鎖九拾節	志鎖四拾節	四鎖六拾節
都津城停留場	全郡全村大字江井 字六本杉	起 占八 終 占八	貳鎖拾拾節	貳鎖八拾節	五鎖
合計					四拾五鎖參拾六節

蒸汽機動車構造社標記

型式 獨逸國アールコッパル會社製指式馬

力四輪連結水櫃係機動車

軸數 五輪

燃料 蒸煙炭及骸炭

重要寸法

機動車車体ノ全長 自總機至最後軸器指式標記

全 中 自汽機至最後軸器指式標記

全 高 自軌條上面至煙突頂上六呎四寸五分

全運轉ノ重量 四噸四分

全車輪一對ノ負担ノ重量 貳噸貳分

汽管ノ直徑 四吋六分四分

衝程 指吋四分

汽罐ノ傳熱面 五十八平方呎

爐面ノ大 參平方呎

安貝用最高汽壓 每平方吋二百四十七封度

水櫃ノ容量 百加ロ

燃料櫃ノ容量 參百五拾封度

汽罐ノ直徑 壹呎九吋四分

「アールコッパル」間隔 參呎拾壹吋四分

167317-19964

ワイヤボックスノ長

直径指寸三十二分ノ十五

左 中

直径ハ寸六十四分ノ二十五

左 高

直径ハ寸四十分ノ五十五

千二ブノ数

直径ハ寸

左 内径

直径寸四分ノ三十七

働輪ノ直径

直径指寸ハ寸ノ五

固定軸径

直径指寸ハ寸四分ノ十五

車軸径

直径寸四分ノ三十五

牽引力

九百ワキ封度

汽籠ハ前部ニ於テ固ク基座ニ取付ケ後部ハ膨張シ

對シ「スライダングダヨイント」トナシ汽籠傳熱面及爐

面ハ牽引力ヲ充テ発生セシムル為メ適當ナル面積

ヲ有シ汽籠ノ軟鋼板ハ厚子三十二分ノ九寸鏡板厚子三

二分ノ九寸ニシテ汽籠及火室ノ縫目ハ内外両面ヨリ

「コーキング」シ「リベツテング」ハ水壓又ハ壓強空氣ニ依リ

タルモノニシテ水壓試験ノ壓力ハ毎平方寸ニ百

瓦指寸封度トス

火室ハ軟鋼板厚子十六分ノ五寸ニシテ用ヒ「クラウン

ステーキ」及「ステーキボルト」ヲ用テ内部火室ト外部火

室ト固着セシム

ボルト
ナット

差字
ナット

「クロスステイル」並ニ「クラウンステイル」ハ最良ノ軟鋼ニシテ
 撓ム時ニ「F」指ノ割合ナリ而端ハ幹身ヨリ直径大ニシ
 テ火室ニ撓込ミ「F」ラウステイルハ火室頂板内面ヨリ
 「F」ラフハテ縁ノ込ムモノトシ「F」ステイル「ボルト」ハ両端
 ノ鋼板ニ撓込ミテ鉄釘ノトセリ其撓山ハ走町ニ「F」指ノ割
 合トス

「F」ニ「F」内径一吋五分ノ「F」鋼線管ヲ用ヒ「F」ナット
 プレートニ「F」エキスパンド「F」ヲ為ス

「F」ワイヤドロー「F」及「F」アウンデイ「F」ヨ「F」レ「F」ハ可鍛性軟
 鋼ニシテ其縁ヲ平削シ鉄着スル前内外火室ニ「F」ア
 ウンデイ「F」ン「F」リング「F」ヲ取付クモノトス

煙床ニ「F」硬化シタル鉄製製ノ「F」床架ヲ相當ノ
 間隔ヲ保ケテ敷キ並ヘ「F」ア「F」パン「F」洗籠ニ取付ケ
 基礎ニ位置スル形鋼及鋼板ヲ以テ構成シ「F」ガ
 「F」パン「F」ア「F」パン「F」後部ニ「F」ナット「F」其前部ハ「F」運轉手
 室ノ「F」ナットヨリ取扱ヒ火止メハ「F」インゼクター「F」湯水ヲ
 導キテ防止スルモノトス

煙箱ハ内径一吋五分ノ「F」四十三ニシテ「F」石子「F」三十二分ノ
 九吋ノ鋼板ヲ用ヒ洗籠胴板ニ鉄釘ニ其前部ハ鋼
 製「F」壓出板ノ蓋ヲ設ケ完全ニ密閉スル為「F」蓋

九五
加添

板ハ「ハニトホウイル」ニテ固閉スル装置ト為ス

煙筒ハ鑄鉄製ニシテ煙箱内煙管ニテ指形火種

ニテ設備シ煙筒ニテ導引シテ火粉飛散止器ヲ付テ安

全ノ装置置ヲ為ス

「スチームドーム」ハ汽鐘ノ上部ニ設直徑九吋三十二分

ノニ七高サ一呎一吋三分ノ三寸五厘ノ厚サ十六分ノ九吋

ノ鋼板製ニシテ「フレグ」ニテ鐘胴ニ固着ス

汽鐘及「ドーム」ハ不導熱物ヲ以テ捲キ葉鉄ヲ以テ

「ラッキンク」ヲ施ス

破箱ハ汽鐘上部ニ取付ケ其底ニ破出ロヲ設テ徑二四

分ノ三吋ノ鉄管ヲ以テ軌條上ニ導シテ装置トシ破出

ロ内面ハ楕圓室ヨリ容易ニ取扱ヒ得ル構造ト

シ車輪空轉ノ際ニ於ケル撒破ノ用ニ備フルモノ

トス

蒸汽管及排汽管ハ鐵口ナリ軟鋼ニシテ鉄鋼

製「ラッキンク」ヲ有シ且テ破金製接合環ヲ有ス

「レキユ」ト「ター」ハ專賣特許「ストルナド」式「バル

ブ」ニシテ「バルブ」ニシテ「バルブ」トハ破金ヲ以テ

製作ス

汽鐘取付品「ゲージ」グラス「志」ニテ「テスト」コック式

個「イレゼクター」^{諸機子具備}個「クランクバルブ」給水停止ト左時ニ

自動的ニ閉ジ其他安全弁ハ登降式弁ノ直径一吋十六

分「ニ」モ、^ニ個ニシテ適當ノ揚程器ヲ備へ辨竹箱上

ニ排汽孔ヲ設クルモノトス又空室頂板中央ヲ可鑄柱志個ヲ設備ス

「スチームゲージ」ニハ且取大空身用汽壓ヲ表示ス

汽笛ハ汽籠上部ニ設ケ機室ヲ迅速ニ取扱ヒ得

ル装置外ニ其音響音ニ依リ相圖信辨ヲ為シ得ル

モノトス

基樞ハ銅板及「形鋼」形鋼等ヲ以テ構成シ基

ノ要部ハ堅固ニ支梁ヲ入シ其接合ハ板付トス

緩衝板連結器ハ機室車前後「クロスヘッド」中

心ニ取付クルモノトス

「アクシエルガイド」ハ鑄鋼製ニシテ基樞ニ取付ケ車

軸ニ山嵌メ込ミ「タイヤバー」ヲ以テ繋結スルモノトス

車軸函ハ鑄鋼製ニシテ砲重「ベヤリ」グレヲ有シ下

部ニ油受ケトナシ油ハ「ウィック」ニヨリ注油スル装置

トス

車輪ハ輪身ハ鑄鋼ニシテ「タイヤ」ハ厚子一吋六分

「ニ」セシテ特種「レ」メンズ「ア」チ「ニ」鋼製トシ車輪ハ

燒山嵌メト為ル如尚セ「ト」ス「レ」三本ヲ設備ス

十七字加

七字訂正

此字別原
七字訂入

三三三

二十五字加

担彈機ハ油中ニ「テレバー」セル鑄鋼製ニシテ鍊鉄製ト結帯ヲ爲シ充テノ彈性ヲ有ス

「クランクピン」ハ鋼製ニシテ「ケース」ハードニングヲ爲ス

「コン子クランク」及「カップリング」ハ鋼製ニシテ砲金「ベヤリング」ヲ有シ油壺ハ「ロット」ト一躰ニ鍊造ス

「クロスヘッド」ハ鑄鋼ニシテ砲金「ライナー」ヲ備ヘ「スライトバー」ハ^鋼書上ノ軟鋼製ニシテ「ケース」ハードニングヲ爲シ充テノ滑力ヲ支持ス

汽室ハ鑄鉄ニシテ堅固ニ其室框ニ取付ケ底部「ドレンコック」ヲ具備シ運轉手室ニテ閉閉スル

此装置トス汽室ノ周圍ニハ不送ノ熱物ヲ撓キ鋼板ヲ以テ「ラッキング」ヲ施ス「ポスト」ハ鋼製ニシテ鉄製ノ「リング」ヲ有ス

「バルブギヤ」ハ「オイジン」式ニシテ「リバー」ニ依テ自由ニ運轉手室ヨリ働作シD式「スライドバルブ」ニ感働シテ「シリンダー」ニ向テ蒸気ヲ分配スル装置トス

「エキセントリック」ノ「ストラップ」ハ砲金製鋼ハ鋼鉄製ニシテ前進後進ノ器具ヲ運轉

鋼鉄製ニシテ前進後進ノ器具ヲ運轉

手室ノ一リパーラックニツトニ依リ容易ニ取扱ヒ得ル莫
置トス

運轉手室ハ鋼板及し形鋼ヲ以テ構成シ内部ニ
得ヘキ「ガラス」窓ヲ設ケ前方ヲ視ルニ適當ナラシ
メ兩側ニハ石炭庫ヲ設備ス

水槽ハ鋼板及し形鋼ヲ以テ基礎框内部及汽罐
兩側ニ設備ス

手室

制動機ハ「リバースロー」式ニシテ鑄鋼製「ブレーキ
ブロック」ハ全車輪ニ装置シ取扱ハ運轉手室ヨリ
迅速ニ動作シ得ルモノトス

前燈ハ凸「レンズ」ヲ出サシメタル洋燈ニシテ軌道
上ヲ明カニ照スヘキハ勿論遠方ヨリ明視シ得ヘ
キモノトス

散灰器ハ車体中ト等シクシ形ニ錢桿ニテ枠ヲ造
リ十六番線ニテ締ミタル金網ヲ張り安全ニ取
扱ヒ得ル装置トス

手室挿入

「ポイント」等ハ機用車各部制メサル部分ニハ「ポイント」
ヲ運布シ運轉手室並ニ汽罐及汽室用「ラッキング」
ニハ美麗ナル「エナメル」ヲ以テ仕上トナス

降屬上面

自業三十八号
至オヤ十八号

車輛構造仕様書

客車

車種 多拾貳人東ボギー式客車

軸数 六基至

車体全長

自外面至外面 實拾貳呎六寸
自緩衝器外端至緩衝器外端 拾貳呎六寸

空室長

自出入口柱内面至出入口柱内面 拾五呎七寸

車体最大巾

自側板外面至側板外面 五呎六寸
自屋根筋至屋根筋 五呎十寸

車体最大高

自軌條上面至屋根上 九呎

車輪直徑

拾八寸

全巾

三呎二分一

全コランゲンノ長

拾五呎
拾六呎
拾七呎

全一高

拾貳呎

ボギー中心距離

拾貳呎

コトラックホウキノ長さ

拾九呎

自軌條面至緩衝器中心

拾五呎

自軌條面至客室床土

拾貳呎八分

自軌條面至車手台床土

拾貳呎

自軌條面至昇降階段

拾貳呎二分一

客室腰掛高

拾貳呎六寸
四寸五分

車体自己ノ重量

前部重量

五字

七字別添
五字別添

五字別添
五字別添

六字削除
二字加入
港字訂正

墨江

港字訂正

六字削除

二字削除
三字加入

「カイヤモ」トラ「構造」 車輪ハ「カ」ト「製」ニシテ
 車軸ハ「至」中「寸」ト「上等鋼鉄」ヲ以テ製シ「ボ」イル
 「シ」ト「五」寸「八」分「ト」ス「トラ」ク「ボ」ル「ス」ター「及」「ボ」ガ
 「ボ」ル「ス」ター「ハ」高「四」寸「中」寸「重」四「分」一「寸」ノ「コ」形鋼鉄「二」本
 ツ「フ」使用シ「セ」ン「タ」ー「フ」レ「ー」ト「及」「カ」イ「ド」バ「リ」ン「グ」ハ「上」
 等鋼鉄「フ」以テ製成シ「ト」ラ「ク」ア「ー」ナ「バ」ー「及」「ボ」ット
 「ア」ー「ナ」バ「ー」ハ「中」二「分」一「寸」チ「八」分「ノ」五「寸」ノ「カ」イ「バ」ー「ハ」中
 二「寸」二「分」一「寸」ト「ス」テ「軟」鋼鉄板「ニ」テ「コ」バ「リ」ン「グ」
 「ス」ア「リ」ン「グ」ハ「至」八「分」ノ「五」寸「ニ」等「ス」ア「リ」ン「グ」一「寸」鋼「フ」以
 テ製シ「充」分「ノ」強「度」及「彈」性「ヲ」有ス「ル」ト「ス」
 「ア」ク「ス」ル「ボ」ックス「ハ」鑄鉄製「ニ」テ「ア」ク
 スル「ボ」ックス「ハ」充「分」ノ「支」持「面」積「ヲ」有ス「ル」真「鍮」又「ハ」
 「バ」ジ「ット」製「ノ」コ「バ」ル「フ」備「ハ」油「溜」又「給」油「ノ」装置
 「コ」ナ「ス」モ「ト」ス
 「バ」ッ「ワ」ー「及」「コ」ロ「バ」ー「ハ」車輪前後各「一」個「ヲ」備「フ」ル
 「モ」ノ「ト」ス「其」優「密」器「頭」ニ「シ」ッ「ク」レ「ノ」構造「寸」法「ハ」機「関」車「ト」同「一」ナリ
 「ブ」レ「ー」キ「ハ」聯「動」装置「ニ」シテ「前」後「車」各「一」台「ニ」コ「ハ」ント
 「ル」ヨ「シ」テ「機」關「式」ニ「シ」テ「コ」ン「ナ」ク「レ」グ「ロ」ット「コ」ア「レ」キ
 「シ」ヤ「ー」ト「ニ」テ「コ」ロ「ク」ニ「作」用「シ」各「車」輪「ヲ」壓「迫」
 シ「テ」制「動」ス「ル」機「關」備「ス」ル「モ」ト「ス」

フロア及びクロスバーハ内四寸中二寸、形鋼鉄コ
 ドストックハ高六寸中二寸五分、形鋼鉄ニシテ
 デニチナルハ中二寸四分、三寸四分、二寸五分、樺材ニテ構
 成シ車体ハ樺材ハ中三寸四分、白子二寸五分、根太木
 ハ中三寸白子二寸五分、樺材ニシテ各部ノ結合部
 ニハ曲金物及平金物ヲ接シボルト及ワシベント
 ニシテ同締付トルモノトス
 角柱、間柱、出入口柱、折、重木戸框其ハ車体廻リハ
 總ニ樺材ヲ使用スルモノトス
 屋根ハ二重張トシ屋根裏ハ杉板天井ハ楠コベニ
 ヤシ板ヲ張り屋根用カバハ織目緻密ニ質丈
 夫ナルモノニシテ良ク油ニ浸レ尚且ペンキヲ以テ目貫
 ヲナシ固固ニ張カノ許人限リ充分引込シ平頭針
 ヲ以テ張り体ヲ如何ナル強雨ニ遭フト虽水分浸透
 ノ憂ナキ様ニナスモノトス屋根廻リハ雨樋ヲ設ケル
 トス
 床ハ厚一吋二分、杉板ヲ張り体クルモノトス
 外壁板及両妻壁板ハ中三寸厚子八分、三吋檜板
 ヲ張り内壁ハ杉板ヲ張りモノトス
 車室前後ノ出入口ハ其上下部ニ取付ケタル鉄

作ニ導カルベキ戸車ヲ備フル引戸ヲ設ケ其上半部
ハ厚子一分以上ノ磨キ硝子板(輪廊々々)下四隅ニ角
社紋音子ヲ摺出しタルモノ)ヲ嵌メ此ニミタルモノニテ内
外ヨリ取扱ヒ得ベキ「ニッケル」鍍金製ノ引手ヲ作ス
ルモノトス

窓ハ片側九ヶ所ニシテ自由ニ開閉シ得ベキ硝子戸
及鏡戸ヲ備ヘ框ハ構材ニシテ四方物差ニシテ爪掛
尾留田ハ「ニッケル」鍍金製ノ金具ヲ取付テ鏡戸
枠板ハ構材ニシテ框ニ深ク嵌メ此ニ其各々富リ場
所ニ彈性ヲ有スル發泡枕ヲ施スモノトス

腰掛ハ左右ニ列ニ設テ巾一呎二吋高サ床面上ヨリ
一呎六吋トシ台箱・框及脚ハ構材ヲ用ヒ浮模様ヲ
施シ布圍ハ上等ノ「コレシプ」ニテ製シ其内部ニ「獸
毛」ヲ充シタルモノニシテ片側ニ枚並トシ背部ニ四
枚下スルモノトス背椅ハ巾一吋厚子十六分ノ五吋ノ上
オフ以テ製シ此邊運トス

網棚ハ左右窓ノ上部ニ設テ巾十吋二分ノ一ニシテ前
黃色ノ綿糸製ニシテ全一吋四分ノ一ノ構棒ニ取
付テ「ニッケル」鍍金製ノ「ブラケット」ニテ支ユルモノ
トス

旅客停止用力革ハ網棚ノ上部天井裏ニ取付ケタ
ル至四分ノ三ノ深イブヲ横ハ藤製ノモノ各八個ヲ
備フルモノトス

相圖鈴ハ兩妻屋根下中央部ニ直徑六寸ノ鈴一個
ヲ取付ケテ革ハ丸革トシ相立ヨリ合圖ニ得
ル様ニ設置ス

ラジエツトハ車体前後ニ或個車体ノ内外ヲ照シ得ル
様ニ設置シ箱内ニ押入シ車体外ヲ照スニ凸形硝
子ヲ取付ケ箱内ニハ厚子二分ノ鏡ヲ嵌メ光線ノ
反射スル様ニ車室内ヲ亮方ニ照ス様ニ設備

スルモノトス

客室内前後ノ車掌ノ運轉手名札差ヲ設ケル
モノトス

客室前後両側ニ一呎高ト高一呎六寸ノ鏡ヲ
出窓ノ周囲ハ額縁トナシ概又ハ桑等ノ上材ヲ用ヒ
美麗ニ裝飾スルモノトス

乗客曰作降口ニコノケル度金製ノ手欄ヲ設
ケルモノトス

前後乗客昇降場外側(兩妻ノ所)ニ硝子戸
ヲ設ケ上下ノ開閉ニ得ルヲ装置トス

木材ハ總テ無節目切等ナク充分乾燥シ不正リノ
生モナル良材ヲ撰擇シ通材ヲ使用シ其割上ハ充
分平滑シし柵ハ柵孔割合ハ特ニ注意シ下穿ニ
仕ニテ金物ハ各適當ノ良品ヲ用ユルモノトス
壁板、床板、屋根板等ヲ張ルニ總テ不劣ヲ用フ
ルモノトス

「パンキ」及「ワニ」其他塗料ハ總テ舶来ニ等品ヲ
用ヒ客室内部天井裏柱廻リ引戸硝子戸ハ
鏡戸等ハ「ワニ」研出シテ所用良材各自特有
ノ疵若クハ木目ヲ現ハサシメ外側壁板ハ色ペンキ

塗シテ塗方ハ充分目潰ヲナシ適度ニ塗上ケ表
面平滑光澤鏡ノ如ク美觀ニ塗上ケルモノトス
車体金具ハ總テ取付前錆留ヲナシペンキヲ塗
リ取付後黒色ペンキヲ塗リニクルモノトス

車体外部壁板中央部ニ金箔ヲ以テ會社紋
章及車輛番號車体前後泥除鉄板ノ中
央ニ車輛番號ヲ記スル

附屬品

連結用平輪鎖 貳個 左用ピン鎖 貳個

三季別陸
一字加入

四噸積ボギー有蓋貨車構造仕様書

車種 四噸積ボギー有蓋貨車

軸数 4軸

車体全長

自外面至外面十八呎
自緩衝器外端至緩衝器外端拾呎

荷箱長

自荷箱内面至荷箱内面拾五呎六吋

全 巾 全

四呎八吋二分一

全 高

自床上面^至天井下端

五呎六吋

車室空

自内面至内面

拾呎

車体最大巾

五呎六吋

全

高 自軌條上面至屋根上面 八呎七吋

ボギー中心距離

拾呎六吋

車体自己重量

一噸四分四々二百五十六磅度

荷箱容積

四百立方呎

積載重量

四噸

車臺、車輪、車軸

「ボギートラック」制動器、緩衝器

其他、構造ボギー蓋貨車に全し

荷箱ハ別紙圖面ノ通り巾三吋厚二吋二分一ノ塩地

材ノ柱ヲ建テ枒四分板巾五吋ノモノヲ羽目板ニ張り長

二吋ノ木捻ヲ以テ締付ケ屋根種々塩地材ヲ用ヒ巾

一吋四分一厚二吋ノモノヲ間隔一呎六吋ニ毎ニ置キ石子四

走字挿入

分ノ板ヲ張り詰メ其上ニ屋根用「カンパス」ハ織目
緻密ナルモノヲ用ヒ能ク油ニ浸シ白「パンキ」ニテ目潰シ
雨水ノ漏ラサル様丁寧ニ張り詰ムルモノトス
車体両側ニ「ハロー」ヲ導カルベキ戸車ヲ存スル中
四呎二吋ノ引戸ヲ設ク
後部車室ニ自由ニ開閉シ得ヘキ硝子戸ヲ
設ケ車室ニ居ル所ト爲シ「ブレーキ」ハンドルヲ備フ

五寸正

七寸正
二寸加入

五寸正
三寸加入

四噸積ボギー無蓋貨車構造仕様書

車種 四噸積ボギー無蓋貨車

軸数 貳軸

車体全長 自外面至外面計拾呎
自緩衝器外端至緩衝器外端計拾呎

荷室箱長 自箱板内面至箱板内面拾九呎九吋
自側板外面至側板外面五呎七吋
自側板内面至側板内面四呎拾吋

車体最大高 自軌條上面至側板上面三呎八吋

車輪ノ直徑 拾八吋

全巾 三吋二分一

全フレンジン厚 拾寸五分

全高 八寸

ボギー中心距離 拾參呎六吋

トラックホウインベース 式呎九吋以内

自軌條上面至緩衝器中心 未定 拾八吋

車体自己車量 一噸二分

荷箱面積 九拾四平方呎二

貨物積載高 床板上四呎三吋

貨物積載荷量 四噸
全容量 四噸(四百立方呎百立方呎)

車臺、車輪、緩衝連結器、制動器其他ノ構造仕様

車ニ分シ

荷箱側板ハ片側エ板ニシテ内七吋有子可ニ分ニノ橋板
三枚割ニシテ巾ニ吋有子八分ノ三吋ノ「ワレヤープレート」三
本ヲ山嵌メ径八分ノ三吋ノ「ボールト」ニテ締附ケ蝶番ヲ附
シ径八分ノ五吋ノ「ボールト」ニテ「ソール」ニ取附ルモノトス
橋板ハ巾七吋有子二分ノ一ノ橋板三枚割ニシテ支柱ハ巾
三吋ニ分ニ厚二吋ニ分ノ一ノ構材四本ヲ立テ径八分ノ三吋
ノ「ボールト」ヲ以テ締附ケ「ヘンドストック」ノ取付ケハ径二
分ノ一吋ノ「ボールト」ヲ以テ取付クルモノトス

車掌^キ基^キハ巾三吋長一呎三吋ニシテ車体前後ニ設ク

ルモノトス

席板ハ巾十吋厚一吋八分ノ一ノ板板ヲ張詰ルモノトス
支桿ハ内至一吋四方ノ一ノ鐵管ヲ以テ製作シ支柱ハ
席上面三呎七吋ニシテ立本ヲ達テ支桿ハ蝶番係ト
シ支柱ニ差込テ支桿共ニ取外シ自由ナル様装置ス
ルモノトス

ベンキ塗ハ大體ニ施テ客車ニ全シク側板橋板ハ
栗色^クノベンキ塗トス

制動機制動力計算書

三十二人乗客車

客車自重重量 $W = 7000 \text{ lbs.}$

速度 = $f_{0.05}$

P : 制動力總壓力

f_c : 制動把手及手動力 = 40 lbs.

最大速度 v 哩 v_c = 制動力 = 車体重量 \times 止り v_c の軌道

上車輪上の摩擦係数 f

r = 半径 = 79 mm = 起 r = 車体進行 v 止 v_c

等 $= 8$

$fP \{ fW + r v_c$

川上軌道株式會社

茲 $= f$: 車輪上の制動力 \times 車輪摩擦係数 $= 0.15$

Gallon 式 実験係数 0.15 吋

約 0.235 0.15

f : 車輪上の軌道摩擦係数 $= 0.15$

約 0.15 吋

$P \geq \frac{Wv}{235} \times 9000 = 7 \times 9000 = 63000 \text{ lbs.}$

即ち制動力總壓力約 45000 lbs.

\therefore 此係各車制動器可定 0.15 可 0.15 (別紙時間考慮)

$75 \times 40 = 1 \times P$ $P = 3000 \text{ lbs.}$

$\frac{AZF}{B'F} = \frac{AZF}{B'F} = \frac{4}{7}$ $4 \times 3000 = 12000 \text{ lbs.}$

$2P = 12000 \text{ lbs.}$

列車動力計算書

四段後發貨車

後載重量 四噸 (即八十九百六十噸)

自重重量 四噸五拾噸

合計重量 九噸零五拾噸

連力 八噸

其他固定電率 = 三噸

$$P \approx \frac{200}{1.838} \times 13010 \text{ lbs.}$$

$$\approx 14 \times 13010 \approx 10925 \text{ lbs.}$$

即4制動力，總壓力 = 約九百九拾噸

標 = 各部割合 = 定 = 可 + (別紙略圖参照)

川上軌道株式會社

$$P = 300$$

$$1.5 \times 40 = 1 \times P$$

$$\frac{A \cdot F}{B \cdot F} = \frac{A \cdot F}{B \cdot F} = \frac{1.2}{2} = \frac{1}{2}$$

$$2P = 1 \times 300 = 1800 \text{ lbs.}$$

$$P = 900 \text{ lbs.}$$

$$\frac{a \cdot c}{c \cdot d} = \frac{d \cdot t}{d \cdot e} = \frac{3}{1}$$

$$P'' = 3 \times 300 = 900 \text{ lbs.}$$

P... 四輪 = 制力 = 17 = 總壓力

$$P = 4P'' = 2700 \times 4 = 10800 \text{ lbs.}$$

即4前發發，豫定 = 近 + 總壓力 = 得列

$$P'' = \frac{1200}{2} = 600 \text{ lbs.}$$

$$\frac{ac}{cd} = \frac{df}{de} = \frac{12}{6} = 2$$

$$P''' = 2 \times 600 = 1200 \text{ lbs.}$$

$P'' = 1200$ 輪・動力作 2125127 輪 壓力

$$P = 4P'' \quad 4 \times 1200 = 4800 \text{ lbs.}$$

即 4 前反設 1 豫定 = 近 + 總壓力 = 4800

川上軌道株式會社

川上軌道株式会社

一川上軌道株式會社

橋梁暗渠一覽表

位	村大字後	置程	名稱	有効間	材質	桁寸法			摘要	
						長	巾	厚		
佐賀郡神野村大字	神野村	1.32	鐵道橋	25-6	鋼鉄	27-0	7"	5/8"	1-8"	✓
全上		0.35° 97'	拱渠	12-0	煉瓦	34-0	拱	1/2"	1-8"	✓
全上		0.41° 31'	專用橋	31-8	工形鋼	37-0	8"	5/8"	2-0"	✓
全上		0.72° 29'	虹吸橋	45-1	"	4-0	4 1/2"	1/4"	6"	✓
全上		0.96° 63'	三溝橋	41-0	"	8-10"	5"	3/8"	8"	✓
全郡萬木村大字	萬木村	1.47° 16'	羅橋	1-0	"	10-10"	5"	1/32"	8"	✓
全郡永瀬村大字	永瀬村	2.23° 76'	押上橋	11-0	"	12-4"	4 1/2"	7/11"	7"	✓
全上		2.47° 76'	平尾橋	7-3"	"	7-11"	4 1/2"	7/11"	7"	✓
全郡春日村大字	春日村	3.24° 41'	五明橋	11-0	"	7-4"	5"	3/32"	8"	✓
全上		3.73° 41'	尾車橋	7-0	"	7-7"	4 1/2"	1/16"	7"	✓
全郡大池井村大字	大池井村	4.21° 56'	池井橋	11-11"	"	22-11"	4 1/2"	7/16"	7"	✓
全上		5.11° 00'	境橋	7-9"	瓦葺石積	12-11"	11-3"	1-0"	7"	✓
佐賀郡神野村大字	神野村	0.50° 20"	新紫橋	11-0	樑柱	11-0"	11"	1/4"	✓	✓
全上		0.76° 25"	堺橋	11-0	"	11-0"	11"	1/4"	✓	✓
全郡高瀬村大字	高瀬村	1.11° 11'	新村橋	18-0	"	20-0"	11"	1/4"	✓	✓
全上		1.11° 11'	殿橋	13-0	"	14-0"	7"	1/16"	✓	✓
全上		以上								

踏切道位置一覽表

場所	長	場所	長
0.1M 42° 90°	2.10	3.1M 20° 10°	1.10
0.1M 142° 17°	2.10	3.1M 180° 68°	2.15
0.1M 16° 42°	2.10	3.1M 29° 80°	1.10
0.1M 46° 00°	1.10	3.1M 33° 00°	1.10
0.1M 59° 23°	1.15	3.1M 60° 10°	1.10
0.1M 73° 30°	4.10	3.1M 65° 06°	1.10
0.1M 76° 80°	1.10	3.1M 71° 00°	2.10
0.1M 78° 80°	1.10	4.1M 02° 00°	2.10
1.1M 29° 30°	5.10	4.1M 21° 50°	1.10
1.1M 35° 65°	5.10	4.1M 30° 80°	1.10
1.1M 42° 90°	5.10	4.1M 56° 33°	1.15
1.1M 52° 80°	1.10	4.1M 69° 50°	3.10
1.1M 57° 65°	1.10	計	62.15
1.1M 60° 00°	1.10		
1.1M 67° 90°	2.10		
2.1M 04° 00°	1.10		
2.1M 16° 70°	1.10		
2.1M 40° 40°	3.10		
2.1M 57° 45°	2.10		
2.1M 59° 40°	1.10		
2.1M 70° 67°	1.10		
2.1M 92° 67°	1.10		

川上軌道工費豫算仕記書

一金八百五拾圓

測量及工事監督費

軌道哩程五哩九鎖測量及設計ニ要スル費用並工事監督費ニ當ツる哩ニ平均百七拾圓宛

一金參千八百參拾圓拾四錢 用地費

種別	地目	坪数	單價	代價	備註
線路用地	田	三〇八三三	一〇〇〇	三〇八三三	專用線路 別紙計書ノ通リ
	官有地	三三〇	四四〇	一四六四〇	佐賀傳留場 圖面第四册参照
停車場用地	官有地	一四〇	一〇〇〇	一四〇〇〇	三浦傳留場 圖面第五册参照
	田	六五七〇	一一〇	七二二七〇	三浦傳留場 圖面第五册参照
畑	官有地	一三三	一〇〇	一三三〇〇	三浦傳留場 圖面第四册参照
	官地	二六〇	一〇〇	二六〇〇〇	足幸傳留場 圖面第四册参照
官有地	官有地	四一三	一〇〇	四一三〇〇	都波城傳留場 圖面第六册参照
	官有地	三〇六	一〇〇	三〇六〇〇	都波城傳留場 圖面第六册参照
空地		五一〇〇	一〇〇	五一〇〇〇	
計				六三三二四〇	

一金六千參百八拾九圓九拾參錢七厘 土工費

專用線路土工費

種目	材料	長	中径	負数	單價	代價	備註
盛土	土砂			三二〇四二〇	一五〇	四八〇六三〇	圖面第三册参照 別紙計書ノ通リ
土羽	土砂			二九九九八七	二〇〇	五九九九七四	別紙計書ノ通リ
計						五二〇六〇四	
土留杭	杭	九	四	三	三〇〇	九〇〇	向送ノ三本留杭本共 兩側分拾四册分
桁木	全	一三〇	四	七	五〇〇	三五〇〇	
柵木	全	六〇	三	三三六	七〇	二三三二〇	向三十四本宛
録	鉄	五	四	六〇	四〇	二四〇〇	杭木一本三氣木打

(1)

種目	材料	長	厚	巾	徑	員數	單價	代價	摘要
種目	材料	長	厚	巾	徑	員數	單價	代價	摘要
盛土	土破					四〇二	一五〇	六三〇	南面蓋石新造
石垣	割石					六二	八〇〇	四九〇	別取單價表通り
暗渠蓋石	花崗石	五尺				三一〇	二五〇	七五〇	暗渠蓋石ハ在来、モト又
石工						一〇人	一〇〇〇	一〇〇〇	暗渠蓋石留設一印
人夫						一〇人	五〇〇	五〇〇	暗渠蓋石留設一印
計								二四八三〇	
種目	材料	長	厚	巾	徑	員數	單價	代價	摘要
盛土	土破	五尺				一三二五〇	一〇〇	一三二五〇	
石垣	割石	三間				二〇五	八〇〇	一六二〇〇	
計									南面蓋石新造

川上軌道株式會社

種目	材料	長	厚	巾	徑	員數	單價	代價	摘要
種目	材料	長	厚	巾	徑	員數	單價	代價	摘要
木柵	柵板	六尺				八六〇	一〇〇	八六〇	木柵長七間
貫木	板板	三〇				七〇	二二〇	一五〇	二通、分
釘		五吋				七〇	五五〇	四七三	
大工						七〇	八〇〇	五六〇	木柵製作半傳一印
人夫						七〇	五〇〇	三五〇	全上午傳一印
計								一九四四六	
合計								三九八九三	

種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
石垣土台	凡生木	二〇〇	〇五	〇五	八〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	別取書價表ノ通り	
枕石	石花圓	二〇〇	一〇	一〇	四〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	枕石ノ上ノ	
煉瓦積	毛丸	二〇〇	一〇	一〇	四〇	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	三三六	煉瓦積ノ上ノ	
橋臺	煉瓦	六	〇	〇	二〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	橋臺ノ上ノ	
年道鋪	鉄	六	〇	〇	二〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	年道鋪ノ上ノ	
張板	生松	一五〇	一〇	一〇	二〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	張板ノ上ノ	
今	生松	一五〇	一〇	一〇	二〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	今ノ上ノ	
梁木	生松	一〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	梁木ノ上ノ	
枕木	生松	一八〇	一〇	一〇	一〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	枕木ノ上ノ	
床堀	土砂	四〇	一三	一三	一八	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	床堀ノ上ノ	

一金七千七拾六圓七拾壹錢五厘 橋梁費

鐵道橋過橋料ノ新設及新築橋料ノ所

一部加工工事費一切

一鐵道橋過橋(鐵桁)

長 貳拾八呎

有効経間 貳拾五呎六寸

承格ノ上ノ

圖面及七辨參照

川上軌道株式會社

(乙)

種目	材料	長	厚巾	徑	員數	單價	代價	摘要
枕木	全	三〇		〇	三六〇〇	五〇	三〇〇〇	土台枋枋付用三尾每二本
桁	工	二七		〇	二〇	三二〇〇	六四〇〇	別紙量面ノ通り
振止人	鉄	三〇		〇	七〇	八〇〇	五六〇〇	全上
筋透	手鉄	四六		〇	一三	七五二	九〇三四	筋透ノ上ニテ桁ト取リ付クベキ
筋透	手鉄	四六		〇	一三	七五二	九〇三四	筋透ノ上ニテ桁ト取リ付クベキ
床版	全	一六		〇	四〇	一三三四	四九六	新ト床版トリテ上ニテ取リ付ク
床版下敷	鉛板	一六		〇	四〇	一三三四	四九六	新ト床版トリテ上ニテ取リ付ク
丁形鉄取	鉄	一五		〇	一四	二三四	三三八	振止ノ取付金物
付金物	鉄	一五		〇	一四	二三四	三三八	振止ノ取付金物
鬼ボルト	煉鉄	一〇		〇	八	二〇〇	一六〇	床版及枕石取付用
ボルト	全	〇		〇	一四	〇五	五二〇	筋透ノ取付及振止取付用
クリツブ	煉鉄	〇		〇	三	二一〇	三三〇	枕木締付用
ボルト	煉鉄	〇		〇	三	二一〇	三三〇	枕木締付用
リベット	〇	〇		〇	九	〇二	一三八	振止ノ取付金物ト桁締付用
張板	杉	一三		〇	三六	二五〇	九〇〇〇	レール中間及外側張板トス
ペンキ塗					四	一〇〇	四〇〇	レール全部塗抹用
幕板	杉	一三		〇	四	〇	一〇〇	枕木ノ打付用
洋釘		六		〇	六	五五	三三〇	橋台基礎張板及レール中間外側張板打付用
土通矢板	松	一三		〇	三	六〇	一八〇〇	床版土通用
矢板秘木	全	一三		〇	一六	六〇	九六〇	雨側分欄料
全	全	一八		〇	一六	九〇	一四四〇	雨側分欄料
職工	煉鉄				一〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	橋台煉鉄ノ積ノ中間及同塗共
全	大工				一五	八〇	一三〇〇	基礎枕切切橋工土通矢板
全	鉄工				一五	八〇	一三〇〇	作リ其他一式
手傳	人夫				一五	五〇	七五〇	煉鉄職手傳用

川上軌道株式會社

種目	材料	長	厚巾	徑	員數	單價	代價	摘要
杭	打	全			六〇〇	五〇〇	三〇〇〇	大工手傳及土由矢板打 其他一式
雜	役	全			四〇〇	五〇〇	二〇〇〇	水盛遺放足場植材一式
造	形						一〇〇〇〇	小口雜工奉書其他
足場	植						二〇〇〇〇	
諸	雜						二〇〇〇〇	
計							三六九四七六六	
床	堀	玉			二七〇	二〇〇〇	五四〇〇	為付五體七拾九新々所 南直其八許券照
杭	木	生			九六〇	八五〇	八一六〇	側壁下場方片側長之間巾一兩五 分深一兩五分宛側分
梁	木	生			一六〇	五五〇	一〇一〇〇	真直ルモ植材真直ルニ是ナリ 側壁下場方片側長之間巾一兩五 分深一兩五分宛側分
合	合				一二〇	一七五	一五三〇	合上シテ縁ナリ手懸合尺ニト シテ梁木ト手懸縁ナリ取付 側分
張	板	生			六二〇	四二〇	二六四〇	長五寸洋釘ニテ梁木ニ打付 ノコト
倒	壁	生			五三〇	二四〇	七四九〇	本側壁及下一ヶ分共 別紙圖面ノ通り
セ	メント	セ			八六〇	三二六	二八四六六	煉瓦積用セメントル能合セ ト一級三割
追	受	石			四〇	一〇二〇	四〇八〇	表面ヤ打仕上、下
換	石	全			二〇	九〇〇	一八〇〇	杭差本ニ感本宛
年	透	鉄			一九二	四〇	七六八〇	杭差本ニ感本宛
洋	釘				二五	五五〇	一三七五	張板打付用其他
袖	石	堀			六〇	八〇〇	四八〇〇	長一兩五分高一兩四分分 別紙圖面ノ通り
右	垣	土			四〇	一六二〇	六四八〇	右垣土台枓木 別紙圖面ノ通り
杭	木	全			一六〇	〇四三	六八〇	土台枓木走下所ニ由本宛 四ヶ所分
床	堀	土			三〇	二〇〇〇	六〇〇	袖石垣床堀トス

川上軌道株式會社

(七)

種目	材料	長	厚	巾	徑	員數	單價	代價	價	摘要
枕石	枕石	二尺			一五	四	〇九〇〇	三六〇		折受用ボルトにッ穿4 表面の叩キ仕上ノリ
袖石垣	向石	八〇			一五	二	八〇〇〇	九六〇		橋台両側石垣四ツ所分 別紙單價表ノ通り
石垣土台	生石	二			五	四	一六二〇	六四八〇		別紙單價表ノ通り
留板	全	六〇			五	一六	〇三六〇	五七六〇		極子土台留板一ツ所ニ 四本宛
桁	工形鉄	三三〇			二	二	三九六〇〇	七九二〇		別紙單價表ノ通り
振止	形鉄	三三〇			二	一	八〇〇	一四四〇		リ形鉄ニボルトニテ 締付ノリ
筋遣振止	手鉄	三三〇			二	一	一〇〇〇	一八〇〇		ボルトニテ折取ノリ
筋遣	〃	四六六			二	一	〇七五〇	一三〇〇〇		折取金ノボルトニテ絞 付ノ鬼ボルトにッ穿ツ
床版	〃	一六六			二	四	一三三〇	四八九六		
床版下敷	鉅板	一六六			二	四	一三三〇	四八〇〇		
振止取付 金物	鉄	一九四			二	一	〇三三二	四七六		振止取付金物用
鬼ボルト	煉鉄	一六			二	一	〇二〇〇	一六〇		敷金物締付用
種目	材料	長	厚	巾	徑	員數	單價	代價	價	摘要
ボルト	全	〇四			八分七	三六	〇一〇〇	三六〇		振止取付用女儀共
全	全	三三〇			八分五	六四	〇一五〇	三二〇		
リベット	全	〇一五			五	八八	〇〇三	一〇五六		振止取付金物ト折 締付及折取金物締付用
クワッポ ボルト	全	〇九			〇六	三八	〇二〇	四八〇		枕木締付用
張板	杉	一三〇			二〇	五	二五〇	一三三〇		枕木レール内外打付用
幕板	〃	一三〇			二五	六	〇四〇〇	二四〇〇		枕木レール内外打付用
洋釘	〃	六寸			二〇	七五	〇五五	四一三五		基礎敷板及レール 内外両側張リ板打付用
矢板	松	一三〇			二〇	三〇	〇四二七	一二五〇		床版土台用 両側分損科
パンキ塗	〃				二〇	五	一〇〇〇	五〇〇		床版土台用 四段分損科
梓木	〃	一三〇			五	一六	〇六〇〇	九六〇		振止メヤンキニ返運 ビム物ノ金物一式
〃	〃	一八〇			五	一六	〇九〇〇	一四四〇		

川上軌道株式會社

(乙)

(乙)

種目	材料	長	厚巾	徑員	數	單價	代價	價摘	要
ボルト		一寸			九	〇	三〇	三〇	筋違金物係用
クランプ		一寸			二	〇	一〇	一〇	桁ト枕木取り用
ボルト		一寸			二	〇	一〇	一〇	上面及見通し用
床石		九呎			二	〇	五〇	五〇	橋台石垣充満用
コレクリート		九呎			一	〇	二〇	二〇	橋台石垣充満用
床版下敷板		一呎			四	七	二六	二六	
張板		六呎			六	〇	六〇	六〇	軌條内側ノ分
全		六呎			三	〇	四二	四二	軌條外側ノ分
洋釘		六吋			五	四	〇	〇	張板打用
ペンキ					一	〇	一〇	一〇	ボーム全部塗抹ノ材利手同共
職工					六	〇	六〇	六〇	桁組立ヨリ据付也
全					一	〇	八〇	八〇	張板打用其ノ他
全					三	〇	三〇	三〇	床石カサ上据付ボルト用
計									
手働									
人夫									
備考									
備考橋台ハ在車ノ儘ニ充分堅固ナルニ付加工ナ									
ナサガル又ノトス									
備考橋面一部加工工事									
長九呎									
幅五呎									
有効径間八呎									
志哩幸七領八拾節ノ所									
前面差十ニ号者也									
桁架換ノ分									
床版下敷用床石									

川上軌道株式會社

31238

種目	材料	長	巾	徑	員	數	單價	代價	價	摘要
振止金物	上鉄	三寸五分	二寸四分	二寸	二	一	一三〇	二四〇		
全取付	鉄	七寸	三寸	四寸	四	一	〇三〇	〇五〇		
金物	鉄	三寸	三寸	三寸	四	一	〇三〇	〇五〇		
ボルト	鉄	三寸八分	一寸五分	一寸五分	八	一	〇〇五	〇四〇		桁ト振止取付用
リベット	鉄	一寸三分	一寸	一寸	三	一	〇〇二	〇七〇		振止金物取付及床 取付用
筋違金物	鉄	七寸	八分	二寸	二	一	〇八五	一七〇		
ボルト	鉄	一寸五分	一寸	一寸	九	一	〇〇四	三六〇		筋違金物取付用
ソリツプ	鉄	七寸五分	二寸	二寸	一	一	〇三〇	一四〇		桁ト枕木取付用
ボルト	鉄	一寸五分	一寸	一寸	二	一	〇二〇	五〇		上面及見通リト取付上
床石	花崗	五寸	一寸	一寸	二	一	〇二〇	三〇		樽石石垣充て用 雨側方
コンクリート		五寸	一寸	一寸	一	一	〇二〇	三〇		
床板下敷	鉄板	一寸	六分	六分	四	一	〇七〇	二六〇		
張板	鉄板	六寸	七寸	七寸	六	一	一〇〇	六〇〇		軌條内側方
全		六寸	七寸	七寸	三	一	一〇〇	四〇〇		軌條外側方
洋釘		七寸			五	一	〇〇五	〇七〇		張板打付用
ペンキ塗					一	一	一〇〇	一〇〇		ピロ全部塗抹 材料手間共
職工	鉄工				六	一	一〇〇	六〇〇		桁組立り据付 と
全	大工				一	一	一〇〇	一〇〇		張板打付其他一切
全	石工				三	一	一〇〇	三〇〇		床石カサ上げ据付 ボルト穴穿り其他
手傳	夫				六	一	〇五〇	三〇〇		
計								大九五		
備考 橋在来ノ儘ニテ充テ堅固ナラシメ										
加工ナサザルモノトス										

川上軌道株式会社

(2)

種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
坪上橋々面一部加工工事													町三枚巻銀七十六節 吊面三十三号 釘
長指貫		四寸											
有効徑間指貫		四寸											
桁	工柱	九寸	二寸	四寸	二寸	二枚	二枚	一〇〇	三三〇	四〇〇	三三〇	桁架換ノ分	
床板	鉄	一丈	二寸	四寸	二寸	四枚	四枚	一〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	床板取付用床石	
鬼引ト	全	九寸											
振止金物	上形	三寸											
全取金物	全	三寸											
ホルト	鉄	三寸											
ホルト	鉄	三寸											
リベット	全	一寸五分											
筋違金物	全	七寸											
種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
ホルト	全	一寸五分											
シクリフト	全	六寸五分											
床石	全	一丈											
コシクリフト	全	一丈											
床板敷	鉄板	一丈											
張板	板	一丈											
全	全	七寸											
洋釘		七寸											
工	工												
全	全												

川上軌道株式會社

種目	材料	長	厚巾	徑	員	數	單價	代價	摘要
職工	石工				三人	一	〇〇〇	三〇〇〇	枕石小印仕上据付ホ ルト穴穿テ其他
手傳	人夫				一二人	五	〇〇〇	六〇〇〇	
計							九五〇〇		
備考	橋台ハ在来ノ儘ニテ充分堅固ナルニ付 加工ヲナサザルモトス								
種目	材料	長	厚巾	徑	員	數	單價 <td>代價</td> <td>摘要</td>	代價	摘要
床堀	人夫				五人	〇	〇五〇	二五〇〇	水干床掘埋戻共
		平尾橋々面一部加工工事							貳哩五拾九拾九節ヶ所
		長貳拾呎一時四分三幅五呎							番面第十四節参照
		有効徑間九呎三吋八分一							
土俵	表	二尺			三三	〇	〇〇〇	三三〇〇	水止用三個重テ
基礎	土台	八呎	一呎	九吋	二枚	三	〇〇〇	六〇〇〇	煉瓦基礎張板用
張板	生板				一	〇	〇〇〇	三〇〇〇	全歸片用
ポルト	鉄	二呎八吋	四分	三吋	一	〇	〇〇〇	三〇〇〇	中央ヒヤ築造用
橋脚	煉瓦積	六呎九吋	中呎十吋	四分	七五	枚	〇〇〇	一〇五〇〇	中央ヒヤ築造用
	煉瓦積用		高六呎九吋		一	〇	〇〇〇	三六〇〇	ヒヤ積立用
職工	煉瓦積				一人	一	〇〇〇	一五〇〇	煉瓦積手間
手傳	人夫				一五	〇	〇〇〇	〇七五〇	
床石	花崗石	五			二	〇	〇〇〇	一〇〇〇〇	兩橋台四ヶ所分
全	全								在来梁石使用ヒヤヤ分
コンクリート		五			二	〇	〇〇〇	四二〇〇	再橋台石垣ニ充填用 所割分
桁	工形	九呎八吋	高九吋	中四吋	二	〇	〇〇〇	二〇〇〇〇	
	鉄桁		厚四分	厚七分	二	〇	〇〇〇	二〇〇〇〇	

川上軌道株式會社

(乙)

種目	材料	長	巾	厚	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
全	全	九呎	三	全	全	二	二	二	二	二	二	兩橋台分	
床版	鐵	一呎	一	全	全	四	四	一	一	四	四	中央ヒール分	
全	全	一呎	九	二	二	四	四	一	一	三	三	床版取付用床石植込	
鬼ボルト	全	九吋	四	二	二	一	一	一	一	三	三		
振止金物	鐵	三吋五分	二	二	二	四	四	一	一	四	四		
全	鐵	三吋五分	二	二	二	四	四	一	一	三	三		
ボルト	鐵	三吋五分	二	二	二	四	四	一	一	三	三		
リベット	全	二吋五分	二	二	二	四	四	一	一	三	三		
振止取付	鐵	七吋	三	三	三	八	八	一	一	一	一		
金物	鐵	七吋	三	三	三	八	八	一	一	一	一		
全	全	七吋	三	三	三	八	八	一	一	二	二		
クリップ	鐵	六吋五分	二	二	二	二	二	一	一	三	三		
ボルト	鐵	六吋五分	二	二	二	二	二	一	一	三	三		
床版下敷	鉛板	一呎	一	全	全	八	八	一	一	五	五		
種目	材料	長	巾	厚	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
張板	杉板	六呎	六	三	三	一	一	一	一	一	一	軌条外側用	
全	全	六呎	六	三	三	七	七	一	一	九	九	軌条外側用	
洋釘		六吋				一	一	一	一	六	六	張板打付用	
ペンキ塗						四	四	一	一	四	四	材料手向共	
職工	鐵工					一	一	一	一	一	一	材料手向共	
全	右工					四	四	一	一	四	四	新設踏車床石小巾半仕	
全	大工					五	五	一	一	四	四	上掲付ボルト穴等其	
手傳	人夫					二	二	一	一	一	一	軌条打付其他一式	
計												軌条打付其他一式	
備考	橋台在来ノ儘ニテ充分堅固ナルニ付加工ナシ												

川上軌道株式會社

計 (乙)

備考

橋台在来、儘ニテ堅固ナルニ付加工ヲサバルモトス

大三九三

尼寺石橋一部加工工事

長五拾六呎幅五呎

三哩七拾五節ノ所
橋面第拾六節参照

有効径間九呎

種目

長

厚中

徑

員

數

單

價

代

價

基礎

七〇

一〇

一〇

二九〇

二九〇

五ヶ所分

基礎板敷き用

要

橋脚

二二五

一〇

一五

三五〇

四七二〇

別紙圖面ノ通り

職工

六

一

六

六〇〇

六〇〇

川上軌道株式會社

種目	材料	長	厚中	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
手傳	人夫	六				六		三		三		
桁	鋼	九呎九寸 二分一	高九寸 中四寸 至十六分七			四	一	四四		四四		南北兩側ノ間分
床版	鐵	一呎	中一呎 厚一分三			一	一	一一		一一		中尺四小間分
全	鐵	一呎	中一呎 厚一分三			四	九	三六		三六		橋台兩側ニ使用ス
床版下敷	鐵	一呎	中一呎 厚一分三			四	六	二四		二四		
全	鐵	一呎	中一呎 厚一分三			一	八	八〇		八〇		
鬼ボルト	全	七吋三分一	至四分三			四	三	九六		九六		床版取付用床石ノ枕込
振止	鐵	長四分八寸	底四分 高二分			一	一	一四		一四		
全取付	鐵	六吋	三吋			二	一	三一		三一		桁ト振止取付用
金物	鐵	六吋	三吋			二	一	三一		三一		
ボルト	鐵	二吋八分	至八分五吋			四	〇	二四		二四		全締付用

種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
振止	鉄	六寸	二寸	二寸	二寸	二	一	一	一	一	一	桁振止取付用	
桁	工形鉄	七寸	三寸	三寸	三寸	二	一	一	一	一	桁取換分		
ホールド	鉄	七寸	三寸	三寸	三寸	二	一	一	一	一	全上取付用		
床版	鉄板	八寸	三寸	三寸	三寸	二	一	一	一	一	高橋台四枚橋柱、所二枚用		
ホールド	鉄	八寸	三寸	三寸	三寸	二	一	一	一	一	添梁×付用		
枕木	合											在来ノ毛、使用ス	
添梁	杉材	六寸										軌条下添梁用	
正録	鉄	八寸										橋柱土台及梁打付用	
柱	杉材	六寸										軌条直下ニ増加分	
種目	材料	長	厚	巾	徑 <td>員</td> <td>數</td> <td>單</td> <td>價</td> <td>代</td> <td>價</td> <td>摘</td> <td>要</td>	員	數	單	價	代	價	摘	要
長	有効	拾參呎											箇面市支辨参照
幅	拾參呎												
種目	材料	長	厚	巾	徑 <td>員</td> <td>數</td> <td>單</td> <td>價</td> <td>代</td> <td>價</td> <td>摘</td> <td>要</td>	員	數	單	價	代	價	摘	要
釘	合	六寸										桁組立振付迄一式	
職工	職工											柱運添梁張板其他	
手傳	手傳											仕上一式	
ペンキ塗	夫											鉄工大工手傳其他	
取身金物	鉄	六寸										桁振止及床版ト桁絞付用	
ボルト	鉄	二寸										合用締付用	
リット	合	二寸										桁振止及床版ト桁絞付用	
クリット	合	二寸										桁上枕木取付用	
張板	杉材	六寸										軌条外側四枚、内側分軌条中間三枚、直張板打付用一枚、三六枚打付用一枚	
合	合	六寸										桁組立振付迄一式	
職工	職工											柱運添梁張板其他	
手傳	手傳											仕上一式	
ペンキ塗	夫											鉄工大工手傳其他	

川上軌道株式會社

計	備考 橋台、在来、儘 ^ニ テ充分ナル并別 ^ニ 加工ヲナササルモ、トス	一、八、九、六							
	境橋、夕面一部加工工事								
	長八呎七吋八分一								
	幅貳拾貳呎六吋								
	有効徑間七呎七吋八分一								
渡石	花崗石	一、三、〇	七、〇〇〇	八、四〇〇					桁石三本、重子三本、橋加分
全	全	一、二、〇	七、〇〇〇	八、四〇〇					中七呎六吋、處擴築分
枕石	全	二、〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇					二重架渡、一、一
橋台	石垣	三、三	八、三、六	二、七、四					橋台擴築分
職工	モルタル 砂	一、三、〇	三、三、六	三、七、九					桁石及枕石握付用
職工	石工	三、六	一、〇〇〇	三、六〇〇					

川上軌道株式會社

種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
計	備考 在来橋台、充分呈圓 ^ニ テ加工ヲナササルモ、トス					二、四、〇		〇、五、〇	一、二、〇〇〇	三、五、三、三			
種目	新架橋、夕面一部加工工事												五哩五鎖三十節ヶ所
	長拾八尺五寸												番面第十九號参照
	幅五尺												
	有効徑間拾七尺五寸												
種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
桁	杉	一、八、五				二、〇、〇		四、八、〇	八、九、六				桁增加分
振止木	杉	三、三、五				三、〇、〇		一、九、〇					

川上軌道株式會社									
種目	材料	長	厚巾	徑	員數	單價	代價	摘	要
須取	杉	六二		二六	一	一一〇	一一六	軌條内側ノ分	
全	〇	六二		二六	一	一一〇	一一六	軌條外側ノ分	
土留板	〇	六二		二六	一	一一〇	一一六	両側ノ分	
手透録	鉄	〇八		〇四	八	九〇	〇七〇	桁ト枕木取用	
ホールト	〇	四二		〇二	三	三〇	九〇	両側録用	
全	〇	二九		〇四	二	三〇	四〇	軌條枕木ト桁木ト取用	
全用板金	〇	二三		〇三	一	一六〇	一六〇		
洋釘	〇	七		〇三	六	〇三	一八二	土留板打用	
全	〇	六		〇三	一	〇五	五〇	張板打用	
全	〇	六		〇三	一	〇五	六〇	在来桁ニ並木打用	
三和土	〇	一八		〇三	五	一〇	五五	置土下敷修繕用	
職工	大工				九	八〇	七二〇	在来功原桁架渡及張板打用其他仕上一式	
計									
人夫									
備考	橋台及枕木ハ在来ノ儘ニテ充分堅固ナルニ付								
加エヲ施サザルモノトス									
場橋々面一部加工設計									
長拾志尺五寸									
幅五尺									
有効徑間拾尺九寸									
桁增加ノ分									
軌條内側ノ分									

種目	材料	長	厚巾	徑	員數	單價	代價	摘要
全	〃	六〇		九二	四	一四〇	五六〇	軌條外側ノ分
土留板	〃	六〇		一七	四	六〇	二四〇	雨側ノ分
手運鏡	〃	八		〇〇	八	九〇	〇七二	桁ト枕木取込用
ボルト	〃	四		〇〇	二	二八〇	〇五〇	両桁録体用
〃	〃	一六		〇〇	一	一六〇	二六〇	軌條枕木ト桁下録体用
全用板金	〃	一〇		〇〇	八	一三〇	一四〇	
洋釘	〃	五吋			四	〇三〇	〇二〇	土留板打体用
全	〃	六吋			七	〇五〇	〇三〇	張板打体用板一枚
全	〃	六吋			七	〇五〇	〇三〇	六本打
三和土	〃	二五		〇三	六	一〇〇	六九	置土下敷修繕用
職工	大工				八	八〇〇	六四〇	並木切除桁架架渡 及張板打体用其仕上式
手傳	人夫				八	九〇〇	四〇〇	全上手傳一式
計							七二四	
備考	橋台及枕木ハ在来ノ儘ニテ充分							
堅固ナルニ付加工ヲ施サ、ルベトス								
新村橋々面一部加工工事								志哩八鎮古橋九節ノ所 畫面第二十一号 老照
長一拾天								
幅五尺								
有効径間拾九尺								
桁	樺	二尺		二	四	四九六	九九三	桁增加ノ分
振止木	杉	二五		八	四	六五〇	二六〇	
張板	〃	六〇		一四	四	一〇〇〇	一四〇〇	軌條内側ノ分
全	〃	六〇		九	七	一四〇	九八〇	軌條外側ノ分

川上軌道株式會社

(乙)

種目	材料	長	巾	厚	徑	員	數	單價	代價	價	摘要
土留板	鐵	四一五			四		三	三〇	九〇	九〇	兩側締休用
全	〃	七〇			一七五		四	七〇	二八〇	二八〇	兩側分
張板	〃	七〇			二九七		四	一七〇	六八〇	六八〇	軌條外側分
振止木	杉	二四五			八四		三	六八	二四〇	二四〇	軌條内側分
桁	樟	一四〇			二九		二	二六	五三〇	五三〇	桁増加分
		長拾四尺			幅五尺						量面第三二號
		有効徑間拾參尺									志哩拾之領拾六節
		堅固ナルニ件加工ヲ施カザルモノトス									備考橋臺及枕木ノ在来ノ儘ニテ充介
		暖橋之面一部加工工事									
三和土	〃	二〇〇			一〇三		一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	置上下敷修繕用
全	〃	六寸			一三四		一	〇九	六七	六七	在束桁ニ在テ打休用
全	〃	六寸			一三六		一	〇五	六三	六三	束板打休用
洋釘	〃	五寸			六八		一	〇三	二四	二四	土角板打休用
全用板金	〃	一尺二			一三六		一	一六	一九	一九	土角板打休用
全	〃	二〇			二四		一	二二	五六	五六	既直枕木ト所ト締休用
ボルト	〃	四五			五		一	三三	一六	一六	兩桁締休用
手造鏡	鉄	八			四		一	九	七	七	桁ト枕木取休用
土留板	〃	二			七五		一	七〇	四九	四九	兩側分
計									五五五		

川上軌道株式會社

種目	材料	長	巾	徑	員	數	單價	代價	價	摘	要
全	全用板	一八	全	〇四	二〇〇	〇	一六〇	三二〇	一〇〇〇	軌道枕木ト下軌用	
全	汗釘	五吋			四八	〇	〇〇三	一四〇	一〇〇〇	土留板打込用	
全	全	六吋			七二〇	〇	〇〇五	三六〇	三六〇	張板打込用板志及二	
全	全	六吋			九四〇	〇	〇〇五	四七〇	四七〇	在木折ニ並木打替修	
三和土	砂利	一四〇		一〇三	八八	四	一〇〇	八八〇	八八〇	置土下修繕用	
職工	大工				九〇	〇	八〇〇	七二〇	七二〇	並木切深所架渡及張	
手傳	人夫				九〇	〇	五〇〇	四五〇	四五〇	板打替修代仕一式	
合計								九三番	七〇七三五	全上手働一式	
合計										備考橋台及枕木ニ在来ノ儘充分	
										堅固ナルニ付加エラナサザケモノトス	

川上軌道株式会社

(乙)

種目	材料	長	巾	厚	徑	員數	單價	代價	摘	要
踏切道	後移					六五	一〇〇〇〇	六五〇〇	別紙單價表通り	
合計							五四九二		別紙單價表通り	
種目	材料	長	巾	厚	徑	員數	單價	代價	摘	要
一金萬千百拾八円五拾錢									停車場費	
運輸係	二〇					二〇	二〇〇〇	六〇〇〇	三浦停車場三使用	
全	二〇					二〇	二〇〇〇	一〇〇〇〇	都渡城停車場二設備	
乗客待合所	四五					九〇	二〇〇〇	一八〇〇〇	都渡城停車場乗待合所	
車庫	一二五					五〇	一七〇〇〇	八五〇〇〇	三浦停車場車庫一棟	
機関庫	五〇					三二五	一七〇〇〇	五五二五〇	同上	
鍛冶小屋						二六六五	一六〇〇〇	四二六〇〇	同上	
轉車台	八五					三〇	二五〇〇〇	七五〇〇〇	三浦三浦都渡城三ヶ所	
アンプピット						一〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	三浦停車場工設備	
種目	材料	長	巾	厚	徑	員數	單價	代價	摘	要
ワラバース						一〇	七〇〇〇〇	七〇〇〇〇	都渡城停車場工設備	
給水器具						二〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三浦及都渡城工設備	
合計								三三三三		
一金貳萬八千百円									車輛費	
種目	材料	長	巾	厚	徑	員數	單價	代價	摘	要
客車						六	一〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇	別紙單價表通り	
貨車						二	六〇〇〇〇	一二〇〇〇〇	同上	
合計								二八〇〇〇		

川上軌道株式會社

種目	材料	長	厚	徑	員	數	單價	代價	價	摘要	
一金	五萬	千五百	四拾	四						諸建物費	
種目	材料	長	厚	徑	員	數	單價	代價	價	摘要	
事務所							三二〇	三〇〇〇	一〇五〇〇〇	三海保市場建設	
倉庫							一〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇〇	全	
附屬建物							七二	二〇〇〇	一四四〇〇	全	
社員詰所							五〇	三〇〇〇	一五〇〇〇	和後城保市場建設	
合計									一五四〇〇〇		
一金	八百	四								器具及機械費	
										運送費	
一金	五百	四								諸材料運搬費	
										充	
一金	五千	五百	四							總係費	
川上軌道株式會社											
一金	壹萬	壹千	九拾	四	八	拾	壹	錢	六	圓	隊備費
											建設費
											充
											萬
											四
											拾
											錢
											六
											圓
											隊
											備
											費

橋梁應力計算書 (I形鋼鉄桁部)

機関車ノ全量 = 4,4[#]

$W = \frac{4,4}{4} = 1,1 = 2464$ (四輪車ニテ各車輪ニ千磅ノ荷重ヲ傳ルヲシテ一車輪ニ1,1噸ノ荷重)

$W =$ 靜荷重 桁ニテハ車輪ノ軌條ノ木ノ桁其他構造物ニテカ包含ス

$M_c =$ 靜荷重引起ル力率

$M_d =$ 動荷重引起ル力率

$I' = M_c \left(\frac{300}{r+500} \right)$ 震動荷重



$I =$ 物量力率 左 $(BH^2 - bh^2)$

$r =$ 中立軸ヨリ断面通過ノ距離 = $\frac{h}{2}$

$F =$ 鋼鉄一平方吋ニ對テ實用破断係數 = 14560[#]

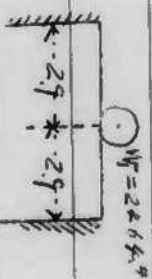
$R =$ 抵抗力率

$e =$ 徑間

五呎暗渠

有效徑間 = 5'-1/2" = 5,8

本桁上ハ通過ル機関車ノ中央ニテハ時ニ最大彎曲力率ヲ生ス



$W = 2464$ #

$M_d = \frac{W e^2}{2} = \frac{2464 \times 5,8^2}{2} = 3364$ #

$M_c = \frac{W e}{4} = \frac{2464 \times 5,8}{4} = 3572$ #

$I' = M_c \left(\frac{300}{e+500} \right) = 3572 \times \frac{300}{58+500} = 3505$ #

$M = (3364 + 3572) \times 12 = 88970,4$ #

而シテ下圖ノ断面ヲ有ルI形鋼鉄桁ノ抵抗力率ハ下ノ如ク



$I = \frac{1}{2} (BH^3 - bh^3) = \frac{4,5 \times 7,2^3 - 2,2 \times 2,2^3 \times 5,5^3}{12} = 2208$

$y = \frac{H}{2} = \frac{7,2}{2} = 3,6$ $F = 14560$ #

$R = \frac{M}{y} = \frac{14560 \times 2208}{3} = 107111,8$ #

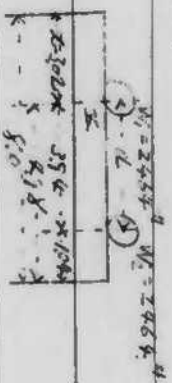
R > M : 安全ナリ

三ツ溝 木橋

有効径間 = 8'-0"

本桁上ヲ通過スル 機関車ノ為ニ最大弯曲力率ヲ起ス集ヲ

五トス



$$W = 95 \#$$

$$M_d = \frac{1}{2} W r (e - r)$$

$$= \frac{1}{2} \times 95 \times 3.02 \times 4.95 = 714.4 \#'$$

$$M_e = \frac{1}{2} W r (e - r) + (e - r - d) r$$

$$= \frac{2464 \times (4.98 + 1.04) \times 3.02}{2} = 5599.6 \#'$$

$$I = M_c \left(\frac{300}{e + 300} \right) = 5599.6 \times \frac{100}{8 + 300} = 5454.2 \#'$$

$$M = (714.4 + 5599.6 + 5454.2) \times 12 = 141218.4 \#'$$

而シテ下ノ断面ヲ有スル I 形鋼梁ノ桁ノ抵抗力率ハ下ノ如ク

$$I = \frac{1}{12} (R H^3 - r h^3)$$

$$= \frac{1}{12} (5 \times 5^3 - 2 \times 2.36 \times 7.44^3) = 51.4$$

$$y = \frac{H}{2} = \frac{8}{2} = 4 \quad F = 14560 \#$$

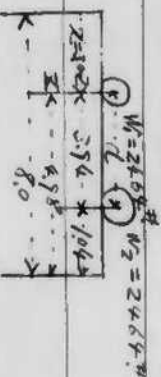
$$R = \frac{F I}{y} = \frac{14560 \times 51.4}{4} = 187096 \#$$

R > M : 安全ナリ

三ツ溝 木橋

有効径間 = 8'-0"

本桁上ヲ通過スル 機関車ノ為ニ最大弯曲力率ヲ起ス集ヲ五トス



$$W = 95 \#$$

$$M_d = \frac{1}{2} W r (e - r)$$

$$= \frac{1}{2} \times 95.5302 \times 4.98 = 239.44$$

$$M_c = \frac{1}{2} W_c (l-x) + (l-x-l)x$$

$$= \frac{1}{2} \times 4.55 + 1.44 \times 3.2 = 5.5996$$

$$I' = M_c \left(\frac{l-x}{l} \right) = 5.5996 \times \left(\frac{2+300}{2} \right) = 572.84$$

$$M = 714.4 + 579.6 + 545.4 \times 2 \times 12 = 14121.84$$

而以下(圖)断面ヲ有スル工形鋼鐵桁ノ抵抗力率ハ下如シ

$$I = \frac{1}{12} (BH^3 - 2bh^3)$$

$$= \frac{1}{12} \times (5 \times 8^3 - 2 \times 2.36 \times 7.42^3) = 51.4$$

$$y = \frac{H}{2} = \frac{8}{2} = 4 \quad F = 14560 \text{ #}$$

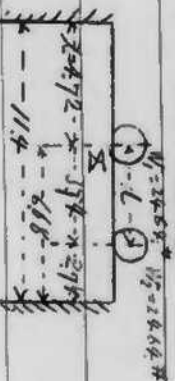
$$R = \frac{F \cdot I}{y} = \frac{14560 \times 51.4}{4} = 187696 \text{ #}$$

$R > M \therefore$ 安全ナリ

土手ノ上 木橋

有効径間 = 11'-5" = 11.4

本桁ヲ通過スル機関車ノ最大弯曲力率ヲ起ス点ヲ以テ



$$W = 120 \text{ #}$$

$$M_c = \frac{1}{2} W_c (l-x)$$

$$= \frac{1}{2} \times 120 \times 4.92 \times 6.68 = 1871.8$$

$$M_c = \frac{1}{2} W_c (l-x) + (l-x-l)x$$

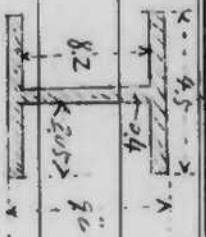
$$= \frac{244.4 \times (6.68 + 2.74) \times 4.92}{11.4} = 9610.1$$

$$I' = M_c \left(\frac{l-x}{l} \right) = 9610.1 \times \frac{300}{71.4 + 300} = 9254.4$$

$$M = (1891.8 + 9610.1 + 9255.4) \times 12 = 249123.6$$

而以下(圖)断面ヲ有スル工形鋼鐵桁ノ抵抗力率ハ下如シ

$$I = \frac{1}{12} (BH^3 - 2bh^3)$$



$$\frac{1}{2} \times (4.5 \times 9^3 - 2 \times 2.05 \times 8.2^3) = 85.0$$

$$y = \frac{H}{2} = \frac{9}{2} = 4.5$$

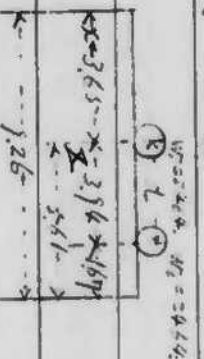
$$R = \frac{H I}{y} = \frac{14560 \times 85.0}{4.5} = 275022 \text{ #}^4$$

$$R > M \therefore \text{安全} (+)$$

平尾橋

有効径間 = $9' - 3\frac{1}{2}'' = 8.26$

本桁ヲ通過スル機関車荷ノ最大彎曲力率起スル五尺



$$W = 10 \text{ #}$$

$$M_c = \frac{1}{2} W r (e - x)$$

$$= \frac{1}{2} \times 10 \times 5.65 \times 5.61 = 1'126.2 \text{ #}^4$$

$$M_c = \frac{1}{2} W r (e - x) + (e - x - d) x$$

$$= \frac{2464.5 (5.61 + 1.67) \times 5.65}{9.26} = 7'70.6 \text{ #}^4$$

$$I' = M c \left(\frac{300}{17300} \right) = 7070.6 \times \frac{300}{17300} = 688.89 \text{ #}^4$$

$$M = \sqrt{1266.2 + 7070.6 + 688.89} \times 12 = 18066.84 \text{ #}^4$$

而シテ下圖ノ如キ断面ヲ有スル I 形鋼鉄桁ノ抵抗力率下ニシテ

$$I = \frac{1}{12} (B H^3 - 2 b h^3)$$

$$= \frac{1}{12} \times 4.5 \times 9^3 - 2 \times 2.05 \times 8.2^3 = 85.0$$

$$y = \frac{H}{2} = \frac{9}{2} = 4.5$$

$$R = \frac{H I}{y} = \frac{14560 \times 85.0}{4.5} = 275022 \text{ #}^4$$

$$R > M \therefore \text{安全} (+)$$

五呎六吋暗渠

有効径間 = $6' - 5'' = 6.4$

本桁上ヲ通過スル木交制車ノ為メ最大彎曲力率起ス点ニ至ル

$$W = 85 \text{ \#}$$

$$M_c = \frac{1}{2} W x (l - x)$$

$$= \frac{1}{2} \times 85 \times 2.22 \times 4.15 = 394.4 \text{ \#}'$$

$$M_c = \frac{1}{2} W_x (l - x) + (l - 2 - d) x$$

$$= \frac{24(4 \times (4.15 + 0.24)) \times 2.22}{1.4} = 3777.8 \text{ \#}'$$

$$I' = M_c \left(\frac{3000}{E + 3000} \right)$$

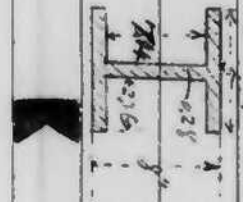
$$= 3777.8 \times \frac{3000}{644 + 3000} = 3698.9 \text{ \#}'$$

$$M = (534.0 + 3777.8 + 3698.9) \times 12 = 94453.2 \text{ \#}'$$

而テ下圖ノ断面ニ有ル工形鋼鉄桁ノ抵抗力率ハ下如シ

$$I = \frac{1}{2} (BH^3 - 2bh^3)$$

$$= \frac{1}{2} \times (5 \times 8^3 - 2 \times 2.5 \times 7.14^3) = 51.4$$



$$y = \frac{H}{2} = \frac{x}{2} = 4, \quad H = 14.56 \text{ \#}$$

$$R = \frac{EI}{L} = \frac{1456 \times 51.4}{4} = 187096 \text{ \#}$$

$$R > M \text{ 安全ナリ}$$

瓦 葺 木 橋

有効長 (l) = 9.00'

本桁上ヲ通過スル機川車ノ為メ最大彎曲力率ヲ起ス点ニ至ル

$$W = 110 \text{ \#}$$

$$M_c = \frac{1}{2} W x (l - x)$$

$$= \frac{1}{2} \times 110 \times 0.52 \times 5.48 = 160.9 \text{ \#}'$$

$$M_c = \frac{1}{2} W_x (l - x) + (l - 2 - d) x$$

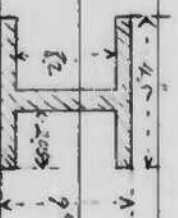
$$= \frac{24(4 \times (5.48 + 1.54)) \times 0.52}{1.4} = 676.52 \text{ \#}'$$



$$I' = M_L \left(\frac{300}{E+300} \right) = 1715.2 \times \frac{300}{80+300} = 6568.2 \text{ #}^4$$

$$M = (1060.9 + 6765.2 + 6568.2) \times 12 = 172731.6 \text{ #}^4$$

而以下圖，如右斷面有之工形鋼鐵桁，抵抗力量如下如之



$$I = \frac{1}{12} (BH^3 - 2b^3)$$

$$= \frac{1}{12} \times (4.5 \times 9^3 - 2 \times 20.5 \times 4.5^3) = 8550$$

$$S = \frac{I}{Z} = \frac{I}{4.5} \quad FI = 14560 \text{ #}^4$$

$$R = \frac{EI}{L} = \frac{14560 \times 8550}{4.5} = 2751022.0 \text{ #}^4$$

R > M ∴ 安全也

久池井橋

有交力徑間 = 16.11 英尺 = 10.9

本橋上之通過之木發則率，為最大彎曲力率，起又於其以

$$W_1 = 2444 \text{ #}^4 \quad W_2 = 2468 \text{ #}^4$$

$$W = 110 \text{ #}^4$$

$$M_L = \frac{1}{2} W X (L - X)$$

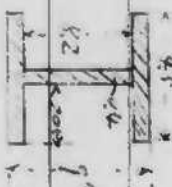
$$= \frac{1}{2} \times 110 \times 4.47 \times 6.43 = 1580.8 \text{ #}^4$$

$$M_L = \frac{1}{2} W (L - X) + ((L - X - L) X)$$

$$= \frac{2414 \times (6.43 + 2.91) \times 4.47}{10.9} = 9013.4 \text{ #}^4$$

$$I' = M_L \left(\frac{100}{E+300} \right) = 9013.4 \times \left(\frac{300}{80+300} \right) = 8697.4 \text{ #}^4$$

M = 1580.8 + 9013.4 + 8697.4 = 23511.6 #⁴
而以下圖，如右斷面有之工形鋼鐵桁，抵抗力量如下如之



$$I = \frac{1}{12} (BH^3 - 2b^3)$$

$$= \frac{1}{12} \times 4.5 \times 9^3 - 2 \times 20.5 \times 4.5^3 = 8550$$

$$R = \frac{EI}{L} = \frac{14560 \times 8550}{4.5} = 2751022.0 \text{ #}^4$$

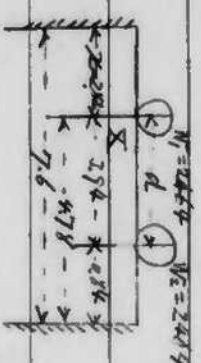
R > M ∴ 安全也

境橋石桁應力計算

有効径間 = $7 - 7 \frac{1}{8} = 7.6$

石桁幅15", 5本ヲ密接シテ架ス並ニ上枕木ヲ置キ軌道條敷設スルヲ以テ此ノ石桁上ヲ通過スル機関車ハ石桁五本ニ荷重ヲ傳ルヲ以テ軌道直下ニアル石桁ニ受ル荷重ハ全荷重ノ70%ヲ受ルニシテ計算ス

$W = 500$ # (石桁上枕木ニ付荷重軌條枕木ノ材地材上ノ幅是35"-5")



$$M_d = \frac{1}{2} W L (L - z)$$

$$= \frac{1}{2} \times 500 \times 7.6 = 5167.5$$

$$M_e = \frac{1}{2} W (L - z) + (L - z - d) z$$

$$= \frac{1}{2} \times 2464 \times (4.75 + 0.84) + 2.82 \times 5138.2$$

$$= 51382 \times 70\% = 35967$$

$$I' = M_e \left(\frac{300}{e + 300} \right) = 35967 \times \frac{300}{7.6 + 300} = 35078$$

$$M = (5369.9 + 35967 + 5507.8) \times 1.2 = 125692.8$$

而シテ下ノ如キ断面ヲ有ル石桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ

$b = 15$ # 實用ノ尺乘積

$$R = \frac{1}{6} b^2 h^2$$

R = 抵抗力率
b = 15

$$h = 24 = \frac{150 \times 15 \times 24^2}{6} = 257200$$

h = 24

R > M : 安全ナリ



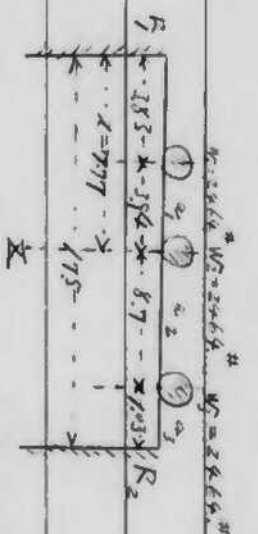
木桁ノ部

新築橋

有効径間 = 17.5

桁ノ自重 = 4.4 桁ノ静重 = 1.5 桁ノ重量係数 = 1.1

桁ノ中ニ完シテ連結シテ進行スルニ最大彎曲力率、生ズベキ矢ノ
 五トス、前方支、右リズニ至ル距離ヲ $x = 7.77$ トス



$R_1 =$ 反力

$M_L =$ 動荷重引起スル彎曲力率

$M_L =$ 静荷重引起スル彎曲力率

$I' =$ 梁動荷重

$M =$ 最大彎曲力率

$$R_1 = \frac{W_1(x_1 + x_2 + x_3) + W_2(x_2 + x_3) + W_3 x_3}{L}$$

$$= \frac{4.1 \times 13.67 + 1.1 \times 8.73 + 1.1 \times 1.03}{17.5} = \frac{26.873}{17.5} = 1.5356$$

$$M_L = R_1 x - W_1 x_1 = 1.5356 \times 7.77 - 1.1 \times 3.94 = 7.9976 \times 2240 = 17918.6$$

$$I' = M_L \left(\frac{3000}{L + 3000} \right) = 17918.6 \times \frac{3000}{175 + 3000} = 16010.6$$

$W = 1300 =$ 動荷重

每一尺ニ付動荷重、枕木、板、木、桁、
 其、他、諸、品、等、一、切、ヲ、包、含、ス

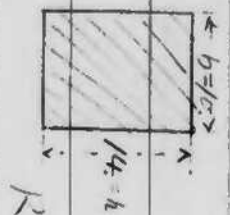
$$M_L = \frac{1}{2} W L (L - x) = \frac{1300 \times 7.77 \times 17.3}{2} = 4914.71$$

$$M = 17918.6 + 16082.5 = 34001.1 = 340132 \times 10 = 340132.0$$

下ノ断面ヲ有ルル木桁材、桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ

$R =$ 桁材力率

$R =$ 實用抵抗係數 = 12000



$$R = \frac{1}{6} \pi b b^2 = \frac{22000 \times 10 \times 14^2}{6} = 392000$$

$R > M$ ∴ 安全ナリ

$b = 14$
 $h = 14$

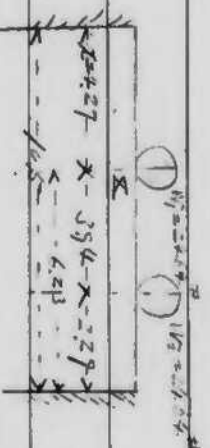
土堰橋

有効径10.5

校1割車重量 = 4.4

一車輪: 傳力重量, $\frac{4.4}{4} = 1.1$

最大彎曲力字ヲ生ルルニハサテハ、サリ前支點迄、
距離ヲトス $x = 4.27$



$M_1 =$ 彎力荷重ヨリ生ルル彎曲力字

$M_2 =$ 靜荷重

$I' =$ 震動荷重

$M =$ 最大彎曲力字

$$M_1 = \frac{1}{2} W_1 x (l-x) + W_2 (l-x-a)x$$

$$= \frac{1.1 \times 4.27 \times 6.23}{2} + 1.1 \times 4.27 \times 2.25 = 3.8112$$

$$3.8112 \times 2240 = 8537.3$$

$$M_2 = \frac{1}{2} W_2 (l-x)$$

$$= \frac{1.1 \times 4.27 \times 6.23}{2} = 14.63$$

$W = 110$ (桁上每一尺ニ付軸条本板厚板
桁ノ其他材諸邊物一切ヲ包含)

$$I' = M_2 \left(\frac{100}{l+350} \right) = 85.373 \times \frac{100}{105+350} = 22.48.6$$

$$M = 8537.3 + 1463.1 + 2248.6 \times 10 = 182490$$

下ノ圖ニ於テ断面ヲ有ルル構材、桁ノ抵抗力字、 $R =$

$$R = \frac{1}{6} F s k^2 = \frac{1200 \times 8. \times 11^2}{6} = 193660$$

$R =$ 抵抗力字

$F = 1200 =$ 實用破壊係數

$b = 10 =$ 容積係數

$h = 11 =$



$R > M$ ∴ 安全ナリ

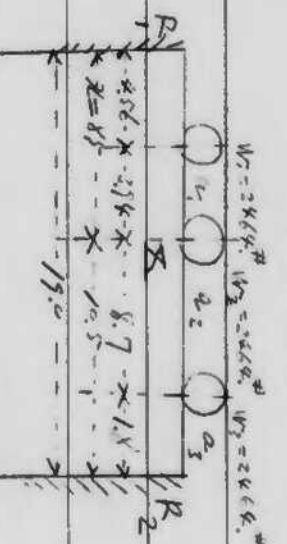
新 木 村 橋

有効径間 = 19.5

橋1列車重量 = 44

一列車: 橋の自重 = $\frac{44}{4} = 11$

機関車 = 台連結にて進行する最大彎曲力率をセムベト
 点ヲ五トス前方支突ヨリ区ニ至ル距離ヲストス $L = 8.5$ トス



$R_1 =$ 支重カ

$M_L =$ 重カ荷重ヨリ生ズル彎曲力率

$M_U =$ 静荷重ヨリ生ズル彎曲力率

$M =$ 最大彎曲力率

$I' =$ 震動荷重

$$R_1 = \frac{W_1(a_1 + a_2 + a_3) + W_2(a_2 + a_3) + W_3 a_3}{L}$$

$$= \frac{21 \times 14.44 + 11 \times 19.5 + 11 \times 18}{19} = 1.5481$$

$$M_L = R_1 L - W_1 a_1 = 1.5481 \times 8.5 - 11 \times 3.94 = 8.82455 \times 2240 = 19967.7$$

$$I' = M_L \left(\frac{300}{1+300} \right) - 19.17 \times 17.7 \times \frac{300}{190+300} = 18.590.3$$

$$M_U = \frac{1}{2} W_1 L (L - x) = \frac{140 \times 8.5 \times 10.5}{2} = 6.147.5$$

$W = 1200$ 木村橋 (材料、架橋材料、架橋材料、架橋材料)

$$M = 19967.7 + 18550.3 + 6147.5 = 44665.5$$

$$44665.5 \times 10 = 446655$$

下断面の有る樫材、抵抗力率ハ下ルニ

$$R = \frac{1}{8} \pi b h^2 \quad R = \text{抵抗カ}$$

$$= \frac{1200 \times 11 \times 14.5^2}{8} = 462550$$

$F = 1200$ 實用安全係數

$$b = 11, \quad h = 14.5$$



R > M ∴ 安全ナリ

田發 木橋

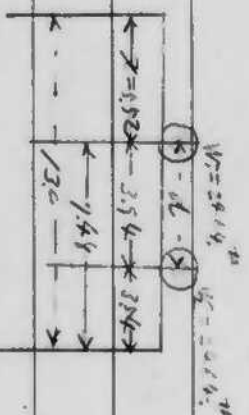
有効径10 = 13.5

橋脚車1重量 4.4

一車車輪: 得ル重量 = $\frac{4.4}{4} = 1.1$

最大変曲力率を生ずルハ橋脚車前支點至

距離ヲノ = 5.52 公尺



$M_0 =$ 静荷重の生ずル変曲力率

$M_1 =$ 動荷重

$I' =$ 震動荷重

$M =$ 最大変曲力率

R = 抵抗力率

$$M_0 = \frac{1}{2} W_1 (l - z) + W_2 z (l - r - d)$$

$$= \frac{1}{2} \times 24.14 \times 8.748 + 22.44 \times 2.240 = 115.297$$

$$M_d = \frac{1}{2} W_2 l (l - r)$$

$$= \frac{1}{2} \times 15 \times 5.52 \times 7.48 = 237.412$$

$$I' = M_0 \left(\frac{300}{1 + 300} \right) = 115.297 \times \frac{300}{1 + 300} = 110.508$$

$$M = (115.297 + 237.412 + 110.508) \times 10 = 249.547$$

下断面ヲ有ル樑材桁抵抗力率ハ下ノ如シ

$$R = \frac{1}{6} F b h^2$$

$$= \frac{1200 \times 9.8 \times 12^2}{6} = 259200 \text{ #}$$



$$b = 11 = 5, \quad h = 12 = 12$$

R > M ∴ 安全ナリ

専用線路敷土主坪計表書 (断面積、球積、容積)

距離	短尺骨	断面積	平均断面積	主坪	掘	西
一、四一七	一、三三	〇、〇〇	〇、三二〇	四、七二		
一、七、〇〇	一、四九	二、二七	一、四九五	二、三八五		
一、七、九二	〇、九二	九、八七	九、一九五	九、三〇五		
二、一、七五	三、八三	三、三〇	四、九〇〇	二、〇、四四		
二、〇、〇〇	四、二五	一、〇、八八	八、五九〇	四、〇、五八		
二、八、〇八	二、六八	一、三、六八	一、二、二八〇	三、〇、〇一		
三、一、三三	二、六八	二、三、五九	一、八、六三五	五、四、九六一		
三、三、〇六	三、〇三	一、二、三三	一、八、七〇五	六、三、三四四		
三、五、〇九	〇、二〇	一、五、〇五	一、五、七一一	五、四、五〇		
四、一、三七	五、四八	一、〇、三五	一、〇、八六〇	一、〇、五四四		
四、三、八〇	一、四三	四、九三	五、〇、四四	八、八、七〇		
四、四、二四	一、四四	三、〇〇	四、二、六五	一、七、五〇		
四、五、三三	二、〇九	一、〇、五〇	二、五、五〇	五、八、三三		
四、六、〇六	一、七三	〇、〇、七	一、〇、三三	一、七、七〇		
四、六、七二	〇、九八	〇、一、三	一、〇、一五	一、〇、九四		
四、九、七〇	〇、九八	三、三九	一、〇、一五	一、〇、九四		
五、〇、九一	一、二一	〇、一、八	〇、三、八五	三、七、九		
五、二、一一	一、二〇	〇、〇、〇	〇、〇、九〇	一、一、九		
合計			三、三、〇、四、四、二			

專用線路敷土物面積計表書

距離	短距離	法高	均法高	面積	和削分計	橋	西
日一四七	一三四	〇〇〇	一五〇	三六八五	七三七		
至一五五	一四九	八〇〇	五五〇	一五〇三	三〇〇〇		
〇七	〇九二	一〇〇〇	一〇二五	一七〇九	三四五八		
〇七九二	〇九二	一〇〇〇	一三〇〇	九一三八	一八二五六		
〇七五	三八三	一〇〇〇	一三〇〇	九一三八	一八二五六		
二六〇	四二五	二〇〇〇	一九五〇	一五九九四	三〇三八八		
二八〇	二六八	二九〇〇	二六〇〇	一七七七五	二五五五〇		
三三三	二六八	三六〇〇	三二五〇	一五九六八	五一九三六		
三三三	三〇三	三六〇〇	三一二五	一七三五九	三四七一八		
三九八	〇二〇	二六五〇	二八四〇	一〇四一	二〇八一		
四一三七	五四八	一六〇〇	二二一五	二二五五三	四四九〇六		
四二八〇	一四三	一三八〇	一四九〇	三九〇六	七六一二		
四四二四	一四四	一〇〇〇	一三四〇	三二七四	六五四八		
四六三三	二〇九	六〇〇	八五〇	三二五七	六五一四		
四八〇六	一七三	二〇〇	四二五	一三四八	二六九六		
四八七二	〇九八	三〇〇	二〇〇	四五〇	九〇〇		
四九七〇	〇九八	三〇〇	二〇〇	四五〇	九〇〇		
五〇九一	一〇一	一〇〇	一〇〇	三三三	六六六		
五二二〇	一〇二	〇〇〇	一〇〇	一四〇	二二〇		
計					二一九九八七		

裏面白紙

大正 年 月 日
川上軌道株式会社

種目	材料	長	中徑	實數	單價	代價	備要
高架橋梁	土台木	三〇	〇	二	一〇	二〇	真直丸生松太
	貫木	二〇	〇	五	〇	〇	全上
	栓木	〇	〇	一	〇	〇	貫木、土台木取付用
	大工	〇	〇	四	〇	〇	製作仕上迄
	人夫	〇	〇	五	〇	〇	大工手傳及掘付共
計						三二四	

間口金壹圓六拾貳錢

川上軌道株式会社
昭和六年三月

裏面白紙

大正 年 月 日 川上軌道株式會社

專用道路並付法高面坪老坪當り單價表

種目	材長	中径	負數	單價代	價	橋	要
芝	野長	〇.五	六	〇.五	〇.〇	車根、能く揃ひシヤム、	
人夫	一天	〇.二	〇.二	〇.五	〇.〇	一人ニ付三百枚ツ、植付	
計							

備考 竹節芝ハ法高老間ニ付拾老通リトシ延長老間ニ付六

枚使用スモトス

佐賀縣佐賀郡神野村 電話六〇三番

裏面白紙

九州電氣株式會社

高橋架 甲石垣面壹坪當り代價表

種目	材料	長	巾	厚	徑	員數	單價	代價	摘要
割石	花崗石	一尺五寸以上	一尺	一尺	一尺	一坪	四〇〇	四〇〇	平壹坪ニ三十石以内トス 割付二寸以上ノコト 徑一寸以上四寸以内トス 堅質タルコト
裏込	栗石					立坪 〇三〇	六〇〇	一八〇	積方ハ石積トス
職工	石工					一 〇	一〇〇	一〇〇	石工手傳
手傳	人夫					一 〇	五〇〇	五〇〇	
モルタル						一 坪	三〇〇	四二〇	モルタル割合ハセノニト一 砂三ノ割合トス
計								八四二	

(備考)

裏面白紙

高橋 乙 石垣面壹坪當り代價表

九州電氣株式會社

種目	材料	長	巾	厚	徑	員數	單價	代價	摘	要
割石	花崗石	尺	面	尺	以上	一〇〇	四〇〇	四〇〇	平壹坪ニシテ石以內トス	
裏込	栗石	尺	面	尺	以上	一〇〇	一〇〇	一〇〇	胸付ニ寸以上ノコト	
職工	石工	人				一	一〇〇	一〇〇	徑一寸以上四寸以內トス	
手傳	人夫	人				一	五〇〇	五〇〇	堅質タルコト	
床掘									積方ハ谷積	
計								八〇〇	石工手傳	

(備考)

大正 年 月 日

川上軌道株式會社

104

コンクリート立定坪当り半價表

種目	コンクリート				摘
	セメント	洗砂	洗石	人天	
長					
中					
短					
員數	七九	三三	一〇	八〇	志切等減除七に錢
單價	四〇〇	一〇〇	八〇	五〇	
代價	三二〇	一〇〇	八〇	四〇	
摘要	志切等減除七に錢				
	志切等減除七に錢				

佐賀縣佐賀郡野村
電話六〇三番

裏面白紙

裏面白紙

川上軌道株式會社

土台枿長卷同當り單價表

種目	材料	長	中徑	負數	單價	代價	摘要
土台木	松	一三。	三。	二	六。	一三。	真直生松丸太
貫木	合	二。	三。	四	二。	四。	合上
栓木	桤	五。	八。	八	二。	八。	土台木貫木取 會用
職工	大工			六	八。	四八。	製作仕上式
年傳人夫				四	五。	三。	合上手傳床振土 台振付六
計						二三六。	

間口金貳圓參拾六錢

川上軌道株式會社
電話六〇三號

裏面白紙

大正 年 月 日 川上軌道株式会社

種目	軌條	形目	継目板	合角ボルト	スパイク	計
長	三呎	12"	2 1/2"	3"	4 1/8"	
中徑	1 1/2"					
算數	三五二本	三五二対	一四〇八本	一〇五六本		
單價	一〇〇〇	五〇〇	四〇〇	二〇〇		
代價	三五〇〇	一七六〇〇	五六〇〇〇	二二二〇〇		三九六三五〇
摘要						

軌條老哩單價表 圖面第二十三號

佐賀縣佐賀市神野村 電話六〇三番

裏面白紙

大正 年 月 日

川上軌道株式會社

167

種目	材料	數量	單價	代價	備考
掘方		志鎮三村	一〇〇〇		
枕木運搬			一〇〇〇		
軌條運搬			一五〇〇		
軌條引延			一五〇〇		
上路仕上			一一五〇		
砂利運搬			一一五〇		
路面仕上			一〇〇〇		
諸雜費			一〇〇〇		
計				五〇〇〇	

軌條敷設志鎮當り單價表

佐賀縣佐賀市野村
電話六〇三番

裏面白紙

川上軌道株式會社

168

計	手傳	職工	釘	スハイキ	軌條	全	張板	種目
	人夫	大工			三封蓋 軌條	全	板	材料
			六寸	四寸五分 三寸六分 二寸七分	六寸	六寸	六寸	長
								中徑 九寸 三寸五分 三寸
			四二	一六	二〇	一〇	六	負數
	二	三						單價
	五〇	八〇	四二	一六	二〇	一〇	七〇	代價
	一〇〇	二四〇	二一〇	三六〇	四〇〇	八九〇	四二〇	摘要
	全上手傳	張板打付用	張板打付用	レール打付用	覆軌條用	軌條中間分	張板軌條外側分 軌條中間分	

川上軌道株式會社
電話六〇三番



鉄道院
藤田 監督局長殿



169

藏

佐賀縣廳

不破彦磨

封筒在中物

拜啓 職暑難堪候處
谷々御多禱奉大賀矣
陳者縣下川上軌道工事
施行願之件之関之暑表之
御照會相成矣之付失之
訂正セシ之別便之及
再進矣就中在軌道之
地方交通上之出来得之
速力之敷設改サシ之度矣之付

地方交通上出来得少

速力に敷設改訂に度奉付

至急御指令相成矣様

特之少配慮相煩致如

及御依頼矣 押具

八月十三日

藤田

藤田監督局長殿



委任状

拙者儀都合ニ依リ松岡芳太郎ヲ
 以テ部理代人ト定メ左ノ權限ヲ委任ス
 一川上軌道株式會社ヨリ提出スル工
 事施行認可申請中土木關スル圖
 書類加除訂正其他請書提出ノ件

右委任状仍テ此件
 川上軌道株式會社

大正二年八月二十五日 取締役社長 真崎辰五郎

裏面白紙

御請書

- 一 五呎暗渠圖及豫算書訂正
 - 一 惣座停留所ノ平面図ニ記入
 - 一 踏切道位置訂正
 - 一 佐賀停留所位置(表)訂正
- 右訂正致候間内務省及縣廳へ提出、分ニ訂正
可仕此故御請仕候也

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰五郎

大正二年八月二十五日

代理

松岡芳太郎

鐵道院 監督局 御中

御請書

工事方法書及断面中左記、件加除訂正致候ニ就テハ、
内務省及佐賀縣ニ提出、方ニ直ニ同様整理可致此段
御請候也

川上軌道株式會社

大正三年九月四日

取締役社長 真崎辰五郎 代

機關車、件

- 一、汽鍋胴板接合部、寸法及材質圖面ニ記明ス。
- 二、火室、サド、スリ、構造断面提出ス。
- 三、火室可流銼裝置ヲ工事方法書ニ洗明ス。
- 四、火粉止裝置断面提出ス。
- 五、緩衝連結器断面提出ス。
- 六、平用制動機、各部計算ニ必要ナル寸法、記左
キモノヲ圖面ニ記ス。
- 七、機關車ノ全長ヲ訂正ス

客貨車、件

- 一、車軸各部ノ寸法、寸法及車輪、フランジノ寸法、花ニ
ボキ、ボルト、ナット、寸法等、工事方法書ト断面ト異ナルモ
ト何モ整理ス。
- 二、連結緩衝機、高サ、工事方法書ト断面ト相異セルヲ
整理ス。
- 三、制動裝置、工事方法書ニ螺絲、ナット、ナット、連結器、
訂正ス。

四、有蓋貨車ノホキートラックノ面ニ誤寫ニ鉄ヲ削除ス、
五、連結連鎖器ヲ環ニ訂正及緩衝器頭及ヒレ
ト共ニ検閲車ノモト同一ノ構造ナラズト訂正ス
六、客車及有蓋貨車ノ全長ヲ訂正ス



委任状

拙方儀都合ヨリ八島寛ヲ以テ部
理代理人ト定メ左ノ権限ヲ委任ス
一川上和道株式会社ヨリ提出ニ係ル工
事施行認可申請中井本豊輔ニ
関スル圖書類加除訂正其他請
書提出ノ件

右委任状仍テ如件

川上和道株式会社

大正三年四月廿五

取締役社長真崎辰五郎

川上和道株式会社

4334

了

四

投佐土第ニ一一二

縣下川上軌道株式會社出願ニ係ル軌道工事施行件ニ對シ本日認可狀交付矣條此段及御報告矣也

大正 貳年九月拾六日

佐賀縣 佐賀縣 佐賀縣



内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿
内務大臣原 敬殿

佐賀縣

裏面白紙

1063

176

裏面白紙

佐賀縣

縣下川上軌道株式會社長ヨリ本日一部運輸開始願
出候ニ付來ル九日實地検査可致候条此段及御
報告候也

大正二年十月七日

佐賀縣知事不破彦磨

鐵道院監督局長藤田虎力殿

運輸開始區間

自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百八ノ參番地先
至全縣全郡春日村大字尼寺字高畑尼寺停留場
哩程參哩十六鎖七十四節

五

六

局 4573 號 196

第三九五一號

佐賀縣

裏面白紙

佐賀縣佐賀郡神野村

川上軌道株式會社

右車輛檢查願別紙、通申請ニ付檢查候處各
車輛共構造仕様書、通完成シ附屬品ニ至ル
工于不都合、廉無之矣様被認矣ニ付本日使用
認可矣條此段及報告矣也

大正貳年拾月九日

佐賀縣知事 不破彦磨

事務主任

内閣總理大臣伯壽山本権兵衛殿

内務大臣原

敬殿

1082 178

車輛御検査願

一拾貳馬力四輪連結水櫃付機関車 五輛 自第1号至第5号

一ボギー式客車 客室内長拾五呎七吋客室内巾四呎六寸 六輛 自第1号至第6号

定員參拾貳人乗

一ボギー式無蓋貨車 荷箱内長拾九呎九吋 全高四呎九吋 全長四呎九吋 貳輛 自第1号至第2号

貨物積載荷重 四噸

全 容量 四噸 (百立方呎ヲ以テ一噸トス)

右大正二年九月十六日付工事施行認可ヲ得候處今般工事竣功仕候間御検査ノ上乗客定員荷物ノ制限御認可被成下度此段奉願候也

大正二年十月六日

佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番地ノ六

川上軌道株式会社

取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事不破彦磨殿

印

監

回

七 27

4570

土 四一〇
川上軌道株式會社ヨリ別紙ノ通り一部運輸開
始願出矣ニ付調査矣處何等不都合無之ニ付
本日許可矣條此段及御報告矣也

大正 貳年 拾月 九日

佐賀縣知事 不破 彦磨

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿
内務大臣原 敬殿

事務主任

技術主任

局長

佐賀縣

1486

裏面白紙

運輸開始御許可願

大正二年九月十六日付御認可ヲ得候當會社
軌道工事一部竣功致候間左記區間運輸開始
致度候間御許可被成下度此致奉願候也

大正二年十月六日

佐賀郡神野村大字神野千百貳拾八番地、六

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事不破彦磨殿

自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百八、參番地先
至今縣全郡春日村大字尼寺字高畑尾寺傳留場

哩程參哩十六鎖七十四節

八

一、...
二、...
三、...

命令書

第十三條 車輛：機關車一輛、客車若しくは貨車一輛、
外聯結ニテ進行セシムルコトヲ得ス但シ佐加賀線知事
ノ許可ヲ得タルトキ機關車ヲ併セ三車ニ限リ聯結
シテ進行セシムルコトヲ得
前項但書ノ場合ニ於テ車輛ノ全長六十呎以内
ナルヲ要ス

裏面白紙

4930

軌 318

收發簿 三二九四號

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野

川上軌道株式會社

右軌道敷設工事ハ一部竣功シ十月十日ヨリ運輸開始中ニ有之矣處其ノ運輸開始區間三車聯結運轉ノ義別紙ノ通申請矣ニ付別ニ支障ナキモノト認ノ本日許可致矣條此段及報告矣也

大正 貳年 十月 壹日 技術主任

佐賀縣知事 不破彦磨



内閣總理大臣伯爵山本権兵衛殿
内務大臣 原 敬殿

佐賀縣

裏面白紙

1113

124

二十
〇〇

三車聯結運轉許可願

貴會社、三車聯結運轉ノ設計ヲ工事施行
行認可申請致候處大正二年九月十六日付工
事施行ノ御認可ヲ得今般一部工事竣功致
候ニ付別紙車輛聯結表ノ通り全延長六十
呎以内ニ於テ三車聯結運轉仕度候向御許
可被下度此致奉願候也

大正二年十月廿。

佐賀郡神野村大字神野千石町八番地ノ吉

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事 不破彦彦磨殿

光 5/05

353

九

投 土 五 四 五 四

川上軌道株式會社ヨリ別紙、通一部運輸開始願出候ニ付調査候處何等不都合無之ニ付本日許可候條此段及御報告候也

大正五年十月拾日

佐賀縣知事不破彦磨

回覽

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿
内務大臣 敬殿

事務主任

技術主任

局長

佐賀縣技術主任

裏面白紙

1130

運輸開始御許可願

當會社軌道一部先般工事落成ニ付佐賀尼寺
間運輸開始義本年十月九日佐賀縣指令收佐
土第四二一〇號ヲ以テ御許可得候處今回尼寺
都波城間ノ工事落成致候ニ付左記區間全線ニ
於テ運輸開始御許可被成下度此致奉願候也

大正二年十月七日

佐賀郡神野村大字神野字石六拾八番地ノ六

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰太郎

佐賀縣知事不破彦磨殿

自佐賀縣佐賀郡春日村大字尼寺字高畑尾寺傳福場

至全縣 五郎 今村大字久保字六本杉 都波城傳福場

哩程 自參哩六拾八勢八拾五節 壹哩貳拾陸拾九節

北陸 四二四六

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野

川上軌道株式會社

右軌道敷設工事左記區間落成シ本月十日ヨリ
運輸開始ニ付該區間ニ於テ三車聯結運轉許
可願出候處右三車聯結ハ本月一日付收警第
三九七四號ヲ以テ及報告候モノト同一方法ニ付
別ニ支障無之様被認本日許可致候條此段
及報告候也

大正三年十月十九日

佐賀縣知事不破彦磨

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿
内務大臣 原 敬殿

自佐賀縣佐賀郡春日村大字尼寺字高畑尼寺停留場
至全縣全郡全村大字久池井字六本杉都渡城停留場
哩程自三哩六十八鎖八十五節 壹哩二十鎖拾五節
至五哩九鎖

五月廿九日
協議済

三五五
三五五

第一二〇四號 大正三年五月九日受領
第五〇六號 大正三年五月八日受領
淨書 校合

監督局長
事務主任
技術主任

副總裁

總裁

內閣總理大臣

內閣書記官長

內務大臣

次官

土木局長

道路課長

技術課長

川上軌道停留場位置變更ノ件

回議用紙

案

鐵道院

番號

佐賀縣知事

大正三年四月二十三日附収
二〇二五號川上軌道株式會社
場位置變更ノ件
京何ノ通

內閣總理大臣
內務大臣

裏面白紙

主任



支那大正

三年

四月

二十八

日

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

川上軌道

件名

一

高木停留場位置変更ノ件

支障の有無

支障ナキモト認ム

備考

工事方法書添付ナキモ既認可ノ工事方法ニ準シ施工スルモト見做
シ本文ノ通り

以土ニノニ五

主任

停番場位置變更ノ件ニ付稟申
縣下川上軌道株式會社ヨリ停番場位置
變更ノ件ニ付別紙願書及履右ハ必要ノ
施設ト被認矣ニ付許可致度候條御
認可相成度此段稟申矣也

大正參年四月廿五日

佐賀縣知事不破彦彦

內閣總理大臣伯爵大隈重信殿
內務大臣伯爵大隈重信殿

佐賀縣

印
506
1854
4.21



停留場位置變更許可願

發社軌道中京水停留場、佐賀起點貳哩於貳鎮、
個所、於、單線停留場設置致是候處運輸上
不便、感之候、付今般佐賀起點貳哩於五鎮六
於節、個所、變更之待避線敷設仕度別紙設計
書及圖面相添、此段奉願候也

大正參年參月貳拾六日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野十五式於八卷、六

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事不破高磨殿

高木停留場線敷設計書目録

一金參百八拾參圓九拾五錢

是ハ待避線長貳百四拾呎敷設工費

内記

種目	材料	長	厚巾	徑	員數	單價	代價	摘要
種目	材料	長	厚巾	徑	員數	單價	代價	摘要
用地	宅地							道路積築ニ要スル土地
參拾封度	鋼條	三呎			一六本	一〇〇〇〇	一六〇〇〇〇	附屬品共
軌條	工字形				二組	三三〇〇〇	六四〇〇〇	ニヶ所分
轉轍器		六番形			九本	三五〇	三一五〇	ポイント所覆板共
枕木	栗材	五呎	六吋	四吋四分	二組	一七〇〇〇	三四〇〇〇	自長五呎至九呎各種枕九本
枕木	櫟材	四吋四分	六吋	四吋四分	二組	一七〇〇〇	三四〇〇〇	長十間ニ付ニ主作ニ合敷
枕木	櫟材	四吋四分	六吋	四吋四分	二組	一七〇〇〇	三四〇〇〇	軌條敷込、掘込、轉轍器
道床	砂利	四間			二〇人	六〇〇	一二〇〇〇	取付共一切
布設	手間工夫							
手傳	人夫				二〇	五〇〇	一〇〇〇〇	路面運取材料運搬路面
路側石	恒石	二二間	高	一五	三三	六〇〇	一九八〇	掘均其他手傳一切
計							三八三五〇	
								備考盛土切取、土工要セサルモノトス

川上軌道株式會社

訂正

三付 24
4 4

三十九
三月廿六日

第七〇七號 大正四年 四月九日受領
第九五八號 大正四年 三月廿六日立案

淨書 校合

監督局長 事務主任 倭木

技術主任

副總裁

總裁

內閣總理大臣

內閣書記官長

內務大臣

次官

土木局長 技術課長
道路課長

川上軌道假軌道敷設
回議用紙 鐵道院

案ノ一

番號

大正三年七月二十八日附收佐
土第百八十九號川上軌道
株式會社假軌道敷設
章不伺ノ角

內閣總理大臣
內務大臣

案ノ三

番號

裏面白紙

鐵道院

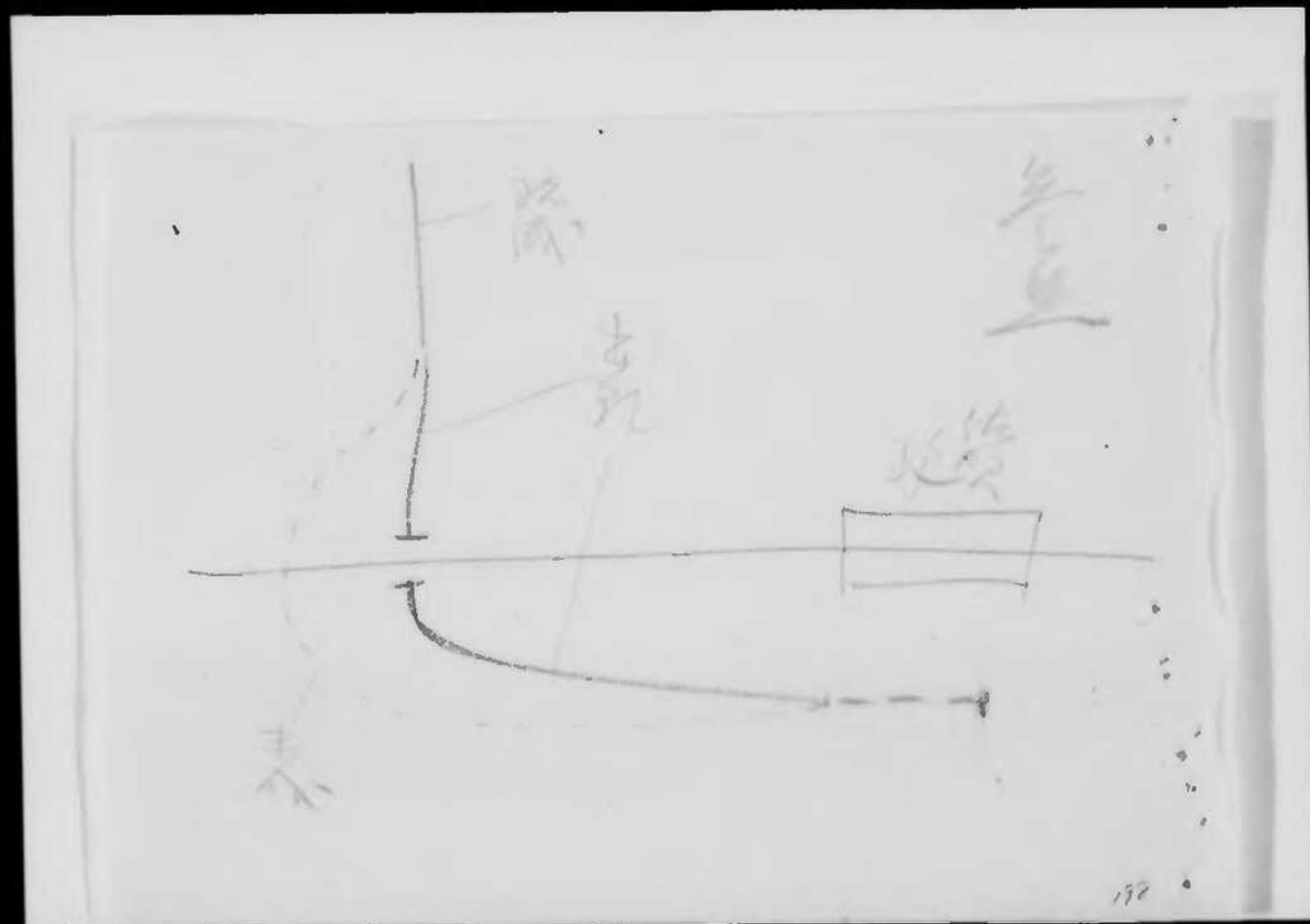
年 月 日

監督局長
土木局長
佐賀縣知事宛

通牒

客年七月二十八日附收佐土第ニ八九二號
稟同川上軌道假軌道敷設ノ件ニ関
シ本年三月十一日附收佐土第一三〇號ヲ
以テ回答相成候處工事方法書ノ軌道
終點地畚中二百三十二ノ四畚地先トアルハ
附屬圖面記載ト相違セルモ右ハ工事方法
書ノ誤記ト看做シ別紙ノ通指合相成
候條了知有之度

北川 貞



裏面白紙



裏面白紙

主任
受領大臣
御用大臣
取役

川上親善

件名 二 三 川上親善 送及線及改、件

本件不備事次整理等大伴との際上

進上左記ノ原ノ面様ニ依リ整理シ得

一 工事方任事 第一項 軌道終天地名中 二五二二一四 各地先

見ハ附有 圖面ノ社報ト一紙也

軌道敷設特許願ニ對スル副申

川上軌道株式會社ヨリ別紙、通軌道敷設願提出矣ニ付取調矣處右川上軌道ハ明治四十五年七月二十五日監第一〇七二號ヲ以テ佐賀郡神野村大字神野字一本松四百拾九、拾番地先ヨリ今郡春日村大字久池井字六本杉參千百七拾番地先ニ至ル間軌道敷設ノ件特許相成矣處專用線終点以北即チ三瀬縣道中ニ敷設スヘキ部分ハ既ニ工事竣功運輸開始致矣得共夫ヨリ以南九州鐵道橫過、場所高架橋渠架設工事未タ着手

、運ニ至リ兼矣間該工事竣功スル迄右鐵道線路踏切前後三瀬縣道ニ引込線トシテ軌道敷設致度趣旨ニ有之何等支障無之被認矣間御許可相成度命令書案縣參事會意見書及關係書類添付此段副申矣也

大正參年七月廿八日

佐賀縣知事若林資藏

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣伯爵大隈重信殿

軌 958

3518
3 7. 31

命令書業

第一條 今般川上軌道株式會社ニ對シ軌道ヲ

敷設スルコトヲ特許シ一般運輸ノ業ヲ営ム

コトヲ許可シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ

一 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松

八百六十三ノ一番地先ヨリ至縣令局在村大

字在字在八百二十四ノ一番地先ニ至ル

〔縣道〕

二 至縣令局在村大字在字在八百八十三番地

先ヨリ至縣令局在村大字在字在八百二十

二ノ四番地先ニ至ル〔佐賀縣道〕

第二條 營業年限ハ明治四十五年七月二十五日

迄第一〇七二號ヲ以テ軌道敷設ヲ許可シ

佐賀縣

タル新設軌道敷中九州鐵道横濱高橋

梁架設工事竣功迄トス

第三條 前各條ノ外明治四十五年七月二十五日

迄第一〇七二號ヲ以テ下付シタル命令書

ノ規定ヲ準用ス

年 月 日

内閣總理大臣

内務大臣

意見書

川上軌道株式會社ヨリ出願ニ係ル佐賀
郡神野村大字神野ニ本松地内三瀬縣
道參拾鎖ニ軌道敷設ノ義ハ公益上必
要ニシテ他ニ支障ナキヲ認ム

大正三年七月二十日

佐賀縣參事會

佐賀縣知事 若林齊藏

佐賀縣

29892
6.15

軌道敷設特許願

明治四拾五年七月廿五日付軌道敷設特許を得候川上軌道株式會社運輸便利ヲ計ル爲メ九那鐵道橫過高架橋梁架設工事竣功スル迄九那鐵道踏切前後於テ三賴縣道ニ左記通り軌道敷設仕度候間御許可被下度別紙起業目論見書工事方法書工費概算書營業上收支概算書及圖面相添此段奉願候也

大正參年四月廿四日

佐賀縣佐賀郡神野字神野千百貳拾八番六

川會軌道株式會社

取締役社長真崎辰五郎

内閣總理大臣 伯爵大隈重信殿
内務大臣 伯爵大隈重信殿

特許出願線路

自佐賀縣佐賀郡神野村字神野字辰辰八番拾貳番地起至三賴縣道拾貳號止
至三賴縣道拾貳號止
自三賴縣道拾貳號起至三賴縣道拾貳號止
至三賴縣道拾貳號止
自三賴縣道拾貳號起至三賴縣道拾貳號止
至三賴縣道拾貳號止
自三賴縣道拾貳號起至三賴縣道拾貳號止
至三賴縣道拾貳號止



地先。至ル間

三ツ瀬縣道線（既成線） 於貳鎮

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字二本松八百八、三番地
先ヨリ全縣全郡全村大字全字全式而式於式ノ四番地
先ニ至ル間

三ツ瀬縣道線（既成線） 於八鎮

六軌道引込線、終點ニ九、停留場ヲ置ク

佐賀郡神野村大字神野字二本松 鐵道沿切停留場ニヶ所
但此而引込線、終點、停留場ニシテ九州鐵道
踏切兩側ニ設置スルニ付名称ハ同一ナリ

七原動力車ハ本線全線、無煙炭及散炭燃料、蒸氣
機牽引ヲ使用スルモ、トス

柱崎六

八營業年限ハ本線全線トス新設軌道敷中、七町鐵道橋過高等

九軌道引込線ニ係ル工費及營業上、收支概算左
如シ

軌道敷設工費概費

一金五千円也

内 款

金五千円 測量設計及工事監督費

金八千円 用地費

金百九千五百円 土工費

金百千円 橋梁費

金參千四百五円 軌道費

金參百六円 停留場費



金ノニ 在交、モ、使用ス 車輛費

金參拾四 器具及機械費

金百四 運送費

金百四 総係費

金四百七拾四 豫備費

燃費業上、收支概算書

昔々年間運輸營業上、收支概算ハ本線ニ準據ス

ルモノトス

工事方法概略書

一 軌道引込線ハ哩程三十鐘ニシテ待避線ヲ加ヘ終延長參於六鐘トス

二 軌間、内法ハ參呎ニシテ單線ニシテ待避線ノ箇所ニ於テハ中心距離九呎トス

三 軌條ハ長巻吐ニ付重量參於封度以上、鋼鉄制衣工字形ノモノヲ使用シ枕木ハ長五呎（寸六）厚四寸（寸四）、梁又ハ檜材ヲ使用シ中心間隔二呎置ニ布設スルモノトス

四 轉轍器ハ四組ヲ取付ケ輪又ハ六番形ヲ使用スルモノトス

五 本軌道ハ三ノ瀬縣道線ノ一部ニ其道路面ニ準シ別紙圖面、通り敷設スルモノニシテ軌道布設ナシ雖々塙所アル時ハ路通ニ補修シ又ハ道幅ヲ擴張スルモノトス

六 軌道敷設方法ハ作工番ニ示ス如ク路面ヲ擴張シ枕木ヲ配置シ軌條ヲ打付ケ砂利ヲ敷キ固シ軌條上面、ミ地表ニ現ル、橋壇設セシメ通常人車馬、通行ニ差支ナク積敷設スルモノトス

七 軌條、道路ヲ横断スル箇所ハ軌條兩側各一呎六吋及軌條間全部ニハ石材又ハ木材ヲ以テ軌條ト同高ニ築切

道ヲ設ケ通行ニ差支ナクシテモトス

八 橋梁又ハ暗渠ニシテ通過シ、耐カラ備ハサルモノハ補強

工事ニ施スモノトス

九 勾配ハ二十五分ノ一ヲ以テ最急トス

十 曲線ノ半径ハ三十六呎ヲ以テ最小トス

十一 車輛進行速度ハ尠時間ニ八哩以内トス

十二車 運轉機車。各三三車運轉ヨリス。

ノス

十三車 電車、現在使用。運轉機、機軸機。

機軸機車ノス

十四車 電車、現在使用。機軸機、機軸機。

機軸機ノス

朝 950 3

佐賀土第一三〇

川上軌道假線敷設ノ件ニ関シ客年八月二十七日
監軌第九五八号ノ一ヲ以テ御照會ノ趣了
承別冊工事方法書工費豫算書并ニ
面及送付美条可然御取計相煩度
此段及回答候也
大正四年三月十日

佐賀縣

佐賀縣知事石橋



欽道院監督局長大園栄三郎殿

裏面白紙

1434
209

7/30

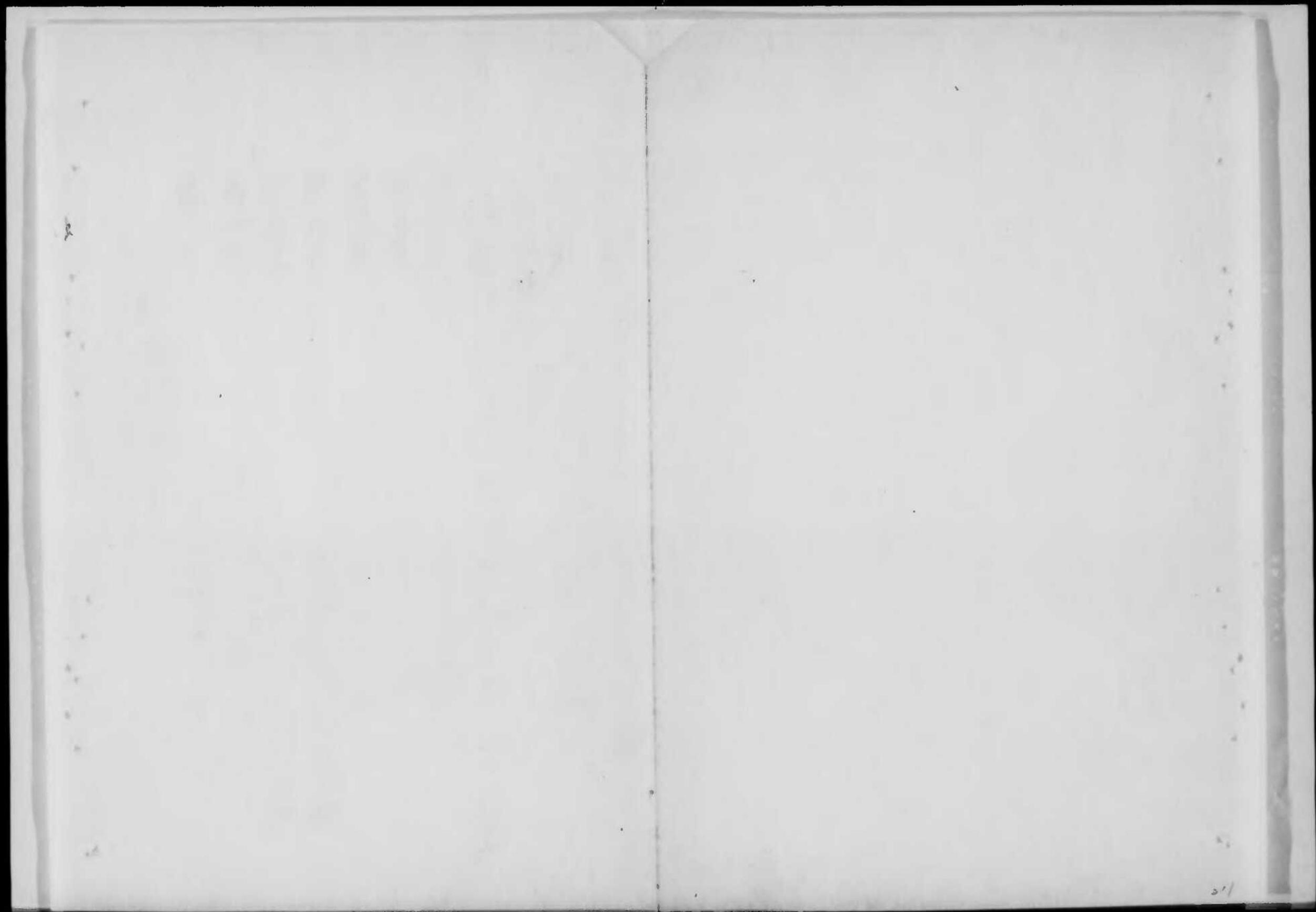
川上軌道延長線(九州鉄道踏切前後)

軌道敷設工事方法及工費豫算書並圖面

佐賀縣佐賀郡神野村

川上軌道株式會社

電話六〇三番



圖面目錄

第壹号

線路平面圖

第貳号

線路縱断面圖

第參号

鐵道路切北側停留場圖

第肆号

鐵道路切南側停留場圖

第伍号

三味暗渠圖

第陸号

草場橋圖

第柒号

堀江橋圖

踏切道、軌條及附屬品、轉轍器、既成線、全一毛、便
用ニ付圖面ヲ提出セズ

第捌号

土工定規圖

訂正
抄本

八、 新両側各長尺五寸幅軌條ト全高ニ杉板ヲ打付ケ
踏切道通行ニ便スラシム

橋材(橋)

橋梁暗渠上ハ圖面ニ示ス如ク桁材ヲ取換ヘ其上
ニ軌條ヲ布設シ軌條兩側并ニ中間ニ杉板ヲ以テ
夫レ橋面均等ニ張詰ルモトシ橋台ハ在来ノ俣ニ
シテ充分堅固ナルヲ以テ加ユラガヤトス

九、

側線布設其他道路幅員不足ノ箇所ハ擴築
ヲテ制限ニ抵触セザル様施ス工スルモトス

十、

線路ノ分岐ハポイントクロスシングヲ据付ケ其構造
ハ既成線ニ使用ノモト同一ニシテ運轉上安全ナ
ル仕置置ヲナスモトス

十一、

石垣ノ間知起面長尺五寸以上和長尺五寸以上
胴付寸以上トシ玄翁合端積ニシテ堅固ニ築
造スルモトス

十二、

右ノ外仕様設計書ニ記載ナキ事項トモモ
工事ハ完全ニ施工スルモトス

延長線使用期限

大正四年九月五日
大正拾年拾月參拾日

訂正
抄本

訂正
抄本

訂正
抄本

停留場位置及線路長表

停留場名	場	所	位置	側線長
鐵道路印南側停留場	同	上	於鐵於節	於鐵於節
鐵道路北側(印)停留場	同	上	於鐵於七於節	於鐵於五節
計	計	計		四鐵於五節

橋梁暗渠明細表

位置	里程	名稱	有效間	桁架材	桁架材長	中	寸架高	摘要
印村大字 野村 野村	5.27	草場橋	1.05	樺材	1.88	5.8	1.0	
同上	8.99	三味暗渠	3.14	工把	4.84	1.4	6"	
同上	15.57	堀江橋	1.35	樺材	1.40	0.9		

踏切道位置表

場所	長
北新引込線	1.5
南新引込線	1.0

種目	材料	長	厚	徑	員	數	單價	代價	摘要
工費豫算書	一金五千円也								測量及工事監督費
内款	✓ 金五拾円								軌道哩程表拾錢ニ要スル測量費用及工事監督費ニ當リ
用地費	✓ 金六拾二円								坪數單價代價
種別地價	✓ 金五拾四円								坪數單價代價
停泊場田	三坪一						三〇〇	三〇〇	鐵道踏切北側停泊場田
計	✓ 金五拾六円								土工費
✓ 金五拾六円									土工費
停泊場	土石垣ニ要スル費用								
川上軌道株式會社									
種目	材料	長	厚	徑	員	數	單價	代價	摘要
土	砂	三坪一						六六三	二〇〇
土	砂	三坪一						二〇〇	一三三
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
計								五三〇	
鐵道踏切南側	停泊場土工工事								圓面外四号参照
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
計								六三〇	
鐵道踏切南側	停泊場土工工事								圓面外四号参照
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
石垣	石	二七					四六〇	八〇〇	三七〇
計								二一〇	
橋	梁費								
金	九拾四圓								

種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
種目	材料	長	厚	巾	徑	員	數	單	價	代	價	摘	要
桁	鐵	四呎	九吋	中	九吋	二	四	五〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	桁架用	要
床板	鐵	十吋	九吋	中	九吋	四	四	七〇〇	二〇〇	二〇〇	床板取付用	枕石	枕石
鬼おれ	鐵	七吋	七吋	中	七吋	八	二	一〇〇	一〇〇	一〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
振上	鐵	三吋	三吋	中	三吋	二	四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
取付金物	鐵	四吋	三吋	中	三吋	四	四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
ホールト	鐵	二吋	二吋	中	二吋	八	八	五〇〇	四〇〇	四〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
リット	鐵	一吋	一吋	中	一吋	二	二	三〇〇	四〇〇	四〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
枕石	花	五呎	九吋	中	九吋	二	二	二〇〇	四〇〇	四〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
モルタル	砂					一	一	三〇〇	四〇〇	四〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
コンクリート	砂	十呎	六吋	中	六吋	二	二	二〇〇	四〇〇	四〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
床取敷	板	十吋	九吋	中	九吋	四	四	五〇〇	二〇〇	二〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
張板	板	四呎	三吋	中	三吋	四	四	七〇〇	二〇〇	二〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
洋釘	釘	六吋	三吋	中	三吋	二	二	一〇〇	二〇〇	二〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
工	工					一	一	一〇〇	二〇〇	二〇〇	枕石取付用	枕石	枕石
全	全					一	一	一〇〇	二〇〇	二〇〇	枕石取付用	枕石	枕石

川上軌道株式會社

三呎暗渠外三橋架加工三箇の費用
 三呎暗渠架加工工事
 長四呎八吋 巾五呎
 有効徑間參呎九吋三分一
 八箇九十九節
 番面五五号魚

種目	材料	長	厚	徑	員數	單價	代價	價	摘要
手傳	石				二人	一〇〇	二〇〇	四〇〇	石工手傳一切
計					八人	九〇〇	四〇〇	四九〇	
草場橋一部加工工事									五銚取七部所 量面方不足差照
長拾七尺幅五尺									
有知徑間拾尺									
種目	材料	長	厚	徑	員數	單價	代價	價	摘要
桁	檜材	二尺	一	八	二	一六〇	三三〇	一〇〇	軌道下分
掘止木	桧材	二尺	一	八	二	七〇	一四〇		
添枕木	桧材	五〇			二	一三〇	二六〇		
張板	桧材	六〇			一	一〇〇	一〇〇		軌道内側分
土留板	桧材	五五			四	一四〇	五六〇		軌道外側分
手邊釘	鐵	九			八	一〇	八〇		
鐵釘	鐵	五			六	一〇	六〇		添枕木付用
ナールト	鐵	五			二	一〇	二〇		若雨桁付用
合	鐵	五			二	一〇	二〇		軌道枕木上桁木締付用
合	鐵	六			一	一〇	一〇		
合	鐵	一			八	一〇	八〇		土留板付用
洋釘	鐵	一			二	一〇	二〇		若雨桁付用
合	鐵	一			七	一〇	七〇		在末桁三葉木付用
合	鐵	一			七	一〇	七〇		長板付用二枚付用
三和土	和土	二			六	一〇	六〇		若雨下敷
職工	和土	二			八	一〇	八〇		若雨下敷 修繕用 若雨下敷 修繕用 若雨下敷 修繕用 若雨下敷 修繕用

川上軌道株式會社

橋梁應力計算書

機関車ノ全重量 = 4噸

$W' = \frac{4.4}{4} = 1.1 = 2464$ (四輪車ニシテ各車輪ニ平等ニ荷重ヲ傳ルヲシテ一車輪ニシテノ荷重)

W = 靜荷重 桁上ニシテ軌條枕木桁其他構造物一切ヲ包含ス

M₀ = 靜荷重ヲ起ル力率

M₁ = 動荷重ヲ起ル力率

$I' = M_1 \left(\frac{300}{L+300} \right)$ 震動荷重

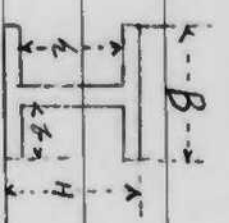
I = 物量力率 $\frac{1}{2} (BH^3 - 2bh^3)$

H = 中之軸ヨリ断面過込ノ距離 = $\frac{H}{2}$

F = 鋼鉄一平方吋ニ付實用破壊系数 = 14,560 #

R = 抵抗力率 M = 最大弯曲力率

L = 径間



参考 暗渠 (工字形鋼鉄桁)

有効径間 = 3'-9 $\frac{1}{2}$ " = 3.8

24978

本桁上ヲ通過スル機関車ハ桁ノ中央ニシテ時ニ最大弯曲力率ヲ生ス



$W = 80 \#$

$M_{1/2} = \frac{W L^2}{8} = \frac{80 \times 35^2}{8} = 1444 \#'$

$M_{1/4} = \frac{W L}{4} = \frac{2464 \times 38}{4} = 2340.8 \#'$

$I' = M_1 \left(\frac{300}{L+300} \right) = \frac{2340.8 \times 300}{38+300} = 2311.5 \#'$

$M = (1444 + 2340.8 + 2311.5) \times 12 = 57560.4 \#'$

而シテ下ノ断面ニ有ル工形鋼鉄桁ノ抵抗力率ハ下ノ如シ



$I = \frac{1}{12} (BH^3 - 2bh^3) = \frac{45 \times 8^3 - 2 \times 2.125 \times 5.5^3}{12} = 2208$

$R = \frac{H}{2} = \frac{6}{2} = 3, \quad F = 14,560 \#$

$$R = \frac{FI}{y} = \frac{14560 \times 22.08}{3} = 107161.6 \text{ #"}^2$$

∴ R > M ∴ 安全ナリ

$$f = 3190 \text{ #"}^2$$

草場橋 (樁材桁)

有効径間 = 10尺

機関車、全重量 = 4.4^噸

一車輪 = 傳ハル重量 $\frac{4.4}{4} = 1.1 \text{ 噸}$

最大彎出力率ヲ生ズルハ中心ヲ又ハ五尺前方支點ノ

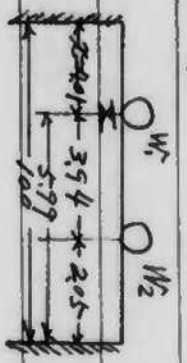
巨離、Z = 5.0117

Mc = 動荷重ヨリ生ズル彎曲力率

Md = 靜荷重ヨリ生ズル彎曲力率

I' = 震動荷重

M = 最大彎曲力率



$$Mc = \frac{1}{2} W_1 Z (L - Z) + W_2 Z (L - Z - d)$$

$$= \frac{1.1 \times 4.01 \times 5.99 + 1.1 \times 4.01 \times 2.05}{10} = 3.546444$$

$$= 3.546444 \times 2240 \text{ #} = 7944 \text{ #}^2$$

$$Md = \frac{1}{2} W_2 Z (L - Z)$$

W = 1/10 (樁材上ニ一尺ニ付 枕木張板ナリ 其他構造物一切ヲ含ム)

$$= \frac{110 \times 4.01 \times 5.99}{2} = 1321.1 \text{ #}^2$$

$$I' = Mc \left(\frac{300}{E + 300} \right) = 7744 \times \frac{300}{20 + 300} = 9657.7 \text{ #}^2$$

$$M = (7744 + 1321.1 + 7687.7) \times 10 = 169528 \text{ #}^2$$

下ノ圖ノ如ク断面ヲ有スル樁材ノ桁ノ枕木力率ハ下ノ如シ

R = 抵抗力率 F = 1200 # 實用破壞係數

$$s = 10 \text{ 寸} \quad h = 2 = 1 \text{ 尺}$$



$$R = \frac{1}{2} F s h^2 = \frac{1200 \times 10 \times 1 \text{ 尺}^2}{6} = 193660 \text{ #}^2$$

R > M ∴ 安全ナリ

土堰 江 木橋 (構材桁)

有効径間 = 13.0

機関車ノ重量 4.4

一車輪ノ傳タル重量 = $\frac{4.4}{4} = 1.1$

最大弯曲力率ヲ生ゼル点ヲ区ハニ区リ前方支点迄ノ巨

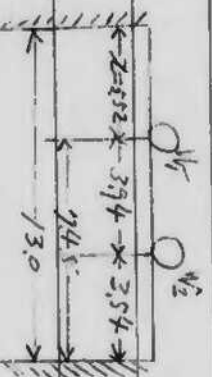
距離ヲ $z = 5.552$ トス

$M_c =$ 動荷重ヨリ生ズル弯曲力率

$N_{st} =$ 静荷重ヨリ生ズル弯曲力率

$I' =$ 震重カ荷重

$N =$ 最大弯曲力率



$$M_c = \frac{1}{2} W z (l - z) + W_2 z (l - z - d)$$

$$= \frac{1.1 \times 5.552 \times 7.48 + 1.1 \times 5.552 \times 3.54}{13}$$

$$= 5.1472 \times 2240 \text{ #} = 11529.7$$

$$M_{st} = \frac{1}{2} W z (l - z) \quad W = 115 \text{ # (桁上毎延尺ニ付軌條、枕木、求板、桁)}$$

$$= \frac{115 \times 5.552 \times 7.48}{2} = 2374.2 \text{ #} \text{ #}$$

$$I' = M_c \left(\frac{300}{l + 50} \right) = 11529.7 \times \frac{300}{130 + 300} = 11059.8 \text{ #} \text{ #}$$

$$M = (11529.7 + 2374.2 + 11059.8) \times 10 = 24915.47 \text{ #} \text{ #}$$

下ノ断面ヲ有スル構材ノ桁ノ抵抗カ率ハ下ノ如シ

$$R = \frac{1}{2} F b h^2 \quad R = \text{抵抗カ率} \quad F = 1200 \text{ # (實用ノ引張強)}$$

$$R = \frac{1200 \times 17 \times 72^2}{2} \quad b = 17 \text{ #} \quad h = 72 = \frac{7}{12} \text{ #}$$

$$= 259200 \text{ #} \text{ #}$$



$R > M$ ∴ 安全ナリ

踏切道老間當り單價表

種目	材料	長	厚巾	徑員	數	單價	代價	價	摘要
種目	材料	長							橋要
張板	板	六呎			六枚	七〇〇	四二〇〇		軌條外側四枚 軌條中間二枚
左	左	六〇			一	八九〇	八九〇		軌條中間一 方
軌條	皮	六〇			二本	二〇〇〇	四〇〇〇		複軌條用
スパイク		四吋五分三 上五分七			一六〇	〇二〇	三六〇〇		レール打用
釘		六吋			四三	〇五	二一〇〇		張板打用
職工	大工				三	八〇〇	二四〇〇		板張手間
千傭人夫					二	五〇〇	一〇〇〇		大工傭
計							一〇〇〇〇		

川上軌道株式會社

院

第九五八號 大正三年

十二月十六日 受領

淨書 校合

第 號 大正三年

十二月十四日 立案

事務主任 啓

監督局長 了知

佐野 知事 照會 案

番號

年 月 日

局長

知事 宛

回議用紙

鐵道院

照會

本年八月二十七日 監軌第九五八號
ヲ以テ川上軌道假線敷設ノ件ニ関
シ及照會置候處于今因之百無一
如何ノ事ニ相本居候或至急何分ノ
回報有之度

參考

照會事項

(第百五)

第九五號 天正三年八月 日受領
淨書 校合

第 號 大正三年 月 日 受領
事務主任 湯本

監督局長

修訂局知事 昭字一併

番號

年 月 日

局長

宛

回議用紙

鐵道院

昭字

字月二十分附收佐土第ニ八九二第 以下川上
軌道敷設時許知事進達事 以下處在由
再調也 以下 以下 以下 以下 以下 以下
相成方針、有之 以下 以下 以下 以下 以下
改

參考

照會事項 三冊

1434

川上取道ヲ依テ申上リテ御下ニ
果別物付第ノ如ク胆令ヲ申上ル
リトニ付貴者ノ一分ニ付申上ル
リトニ付

甘

子



鐵道院

奥村時平殿

太田君ノ御手紙ノ御返書
はかり申上ル

い、す、さ、

日、廿、

五、廿、

進上御手紙ノ御返書ヲ申上ル
御返書ノ御返書

○
本件は後設子事トシテ處理
スル下ニ協議會法定存再
調あり及
いりあり

事務

技術

三前線終點より同線同郡同村同大字同字八百八十三番地ニ至ル新設軌道敷
三前線終點より同線同郡春日村大字久池井字六本杉三千七百七十番地迄ニ至ル假定線道

四五七二五

起人福田慶四郎外二十三
可許一般運輸業ヲ營

神野字一本松四百十九
村同大字字二本松八百

線道

(製本號碼)

23/

裏面白紙

監業一七二號

四五七二五

命令書

第一條 今般川上軌道株式會社發起人福田慶四郎外二十三
 名に對し軌道ヲ敷設スルコトヲ 特許シ一般運輸ノ業ヲ營
 ムコトヲ許サシム

一 佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百十九
 一十番地迄ヨリ同縣同郡同村同大字字二本松八百
 六十三一番地迄ニ至ル假定縣道

二 前條終點ヨリ同縣同郡同村同大字同字八百八十三
 番地ニ至ル新設軌道敷

三 前條終點ヨリ同縣同郡春日村大字久池井字六本
 杉三千四百七十番地迄ニ至ル假定縣道

(明治三十四年)

二三/

裏面白紙

川上軌道

一特許

西十五年七月二十五日

一工事施行認可

西十五年九月十六日

一工事着手

届出ナシ

一工部運輸開始許可

西十五年十月九日

一工事竣功期限

西十五年九月十五日(工事着手)

竣工期限：着手届ナキヲ以テ正確ナラズモ工事施行認可後向エテ一部ノ開業ヲ為シヨリ推シテ認可ト同時ニ着手シタルモノトシ前記ノ通計算ナク

(印)

扱

主任



大正三年八月一日調査ニ要シタル
大正三年八月三日 三

廻附先立任

擔任

取扱



執道名 川上軌道

件名 第一次 引込線敷設ノ件

右支障ナント認め

裏面白紙

覽

土第五〇六八號

大正四年拾月六日

佐賀縣知事石橋 和

佐賀縣

內閣總理大臣伯爵大隈重信 敕
內務大臣法學博士木暮徳郎 敕

川上軌道株式會社 對一時的引進線敷設
義本訂許可條別紙工事方格書並圖面
相添ハ世段又報告候也

4. 10. 11

4381

595-234

11.01.11

此線ハ若波又新橋渡河
敷井口等向敷設ニシテ
三十號同敷ハ概計一區
區内ノ敷設ハ概計一區

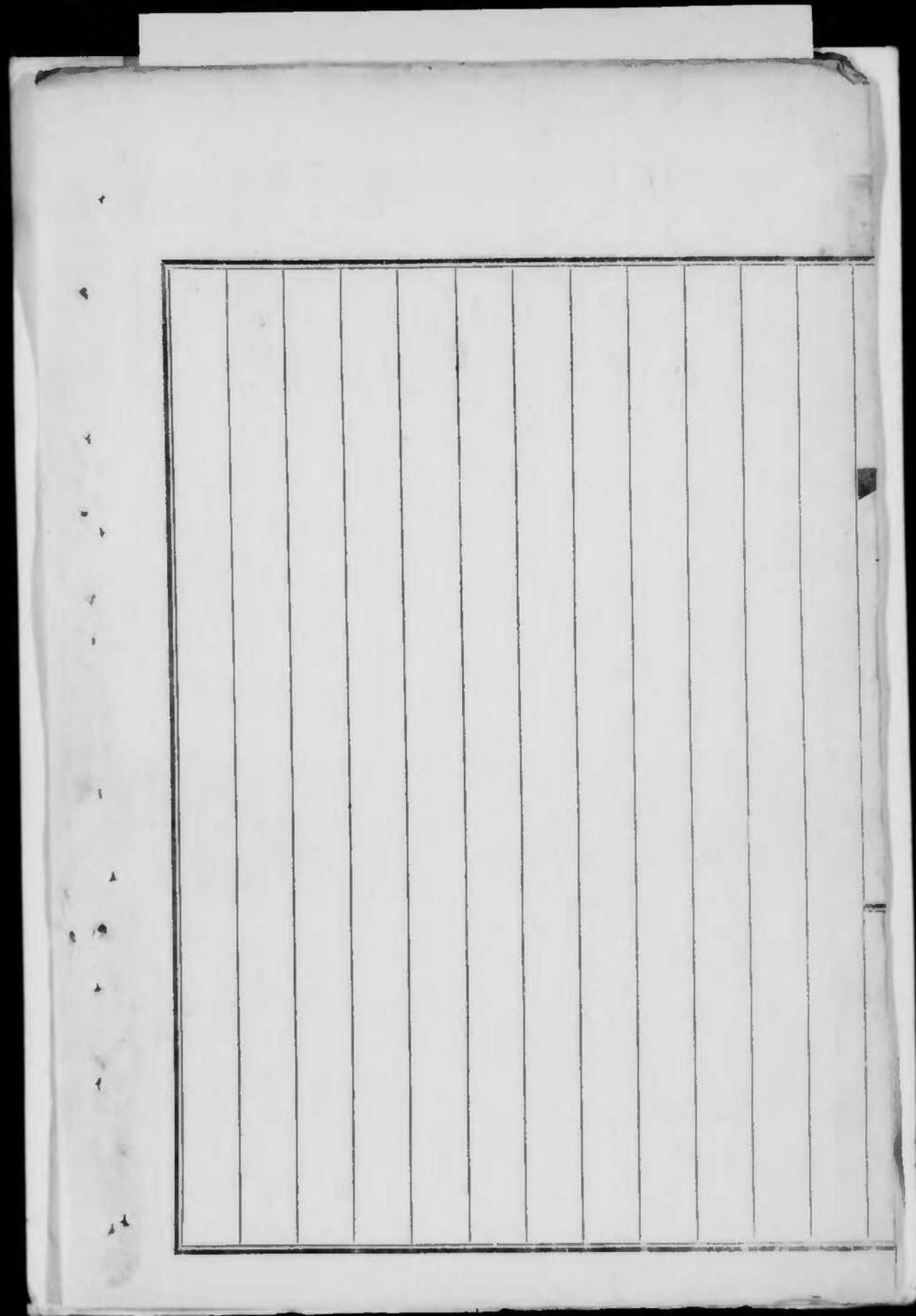
此線ハ若波又新橋渡河
敷井口等向敷設ニシテ
三十號同敷ハ概計一區
區内ノ敷設ハ概計一區

大正四年十月三十一日迄トス

工事説明書

一 假線ノ延長ハ參拾間トシ三ツ瀬縣道ヲ横断スルケ
 所ハ長五間ニシテ軌条面ト路面ト全高ニ敷設
 シ人車馬ノ通行ニ差支ナキ様厚一寸松板ヲ以
 テ踏切道ヲ設クルモノトス

二 假線敷設使用期限大正四年十月三十一日迄トス



佐 36

十十八

十月五日内務省打札在清

四十三

第二五九號 大正四年十月六日受領
第九六八號 大正四年十月六日受領
淨書 校合

監督局長 庶務課長

監理課長

副總裁

總裁

內閣總理大臣

內閣書記官長

內務大臣

次官

土木局長

技術課長
道路課長

川上軌道假軌道使用延期件

回議用紙

鐵道院

案

番號

大正四年九月十六日附王第...
九二...
道...
通...
佐賀縣知事

年 月 日
內閣總理大臣

566

236

軌道 966
20

4099

土第392號

大正四年九月十六日

佐賀縣知事石橋

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣清學博士一木喜徳郎殿

和

假軌道使用期限延期件 稟同

本年四月九日監第77號ヲ以テ御認可

相成美川上軌道株式會社假軌道敷設

ノ件ニ関レ別紙ノ通延期願出矣處右ハ事

實不得已ト相認ノ許可致度矣奈御認

可相成度此段稟申候也

佐賀縣

裏面白紙

37 566



佐賀縣

做設軌道使用延期願

大正四年四月廿五日佐賀縣指令收佐士第百九十二號ヨ以テ
許可ヲ得候在記及設軌道ハ使用期限大正四年九月廿五日
迄ニ相成居候要特許線路中ノ九州鐵道橫過高架橋
架設及其前後ノ新設軌道敷設工事等ハ竣功ノ致
候迄右ノ工事竣成ニ至リテ繼續使用仕度候間大正五年
九月廿五日迄御込則被成下度以候奉願候也

大正四年九月廿五日

佐賀縣佐賀郡神野村合會神野千吉等拾八名

川上軌道株式会社

取締役社長真崎辰五郎



佐賀縣知事石橋 和殿

自佐賀縣佐賀郡神野村合會神野千吉等拾八名
至右縣令 新設軌道敷設工事等ハ竣功ノ致
自右縣令 許可ヲ得候在記及設軌道ハ使用期限大正四年九月廿五日
至右縣令 迄ニ相成居候要特許線路中ノ九州鐵道橫過高架橋
架設及其前後ノ新設軌道敷設工事等ハ竣功ノ致
候迄右ノ工事竣成ニ至リテ繼續使用仕度候間大正五年
九月廿五日迄御込則被成下度以候奉願候也

朝 955

4070

土等四七五七號

大正四年九月十四日

佐賀縣知事 仁橋 和

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

軌道敷設工事竣功延期ノ件稟伺
川上軌道株式會社ヨリ首記ノ件願出候事
實不得上ト認メ許可致度候条御認可相成
度此段稟伺候也

佐賀縣

裏面白紙

560 241

495-7

發第 二〇〇 號

軌道敷設工事竣功延期願

明治四拾五年七月貳拾五日軌道敷設ノ特許ヲ受ケ候川上
軌道株式會社特許線路佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字
一本枳四百拾九拾番地先ヨリ全縣全郡春日村大字久池井字
六本杉參千百七拾番地先ニ至ル哩程五哩九鎖間ハ大正貳年
九月拾六日佐賀縣知事ヨリ軌道敷設工事施行ノ御認可ヲ
得候ニ付其竣功期限ハ特許狀附屬命令書第五條ニ據リ
大正四年九月拾五日迄ニ全部竣功可致相成居候處右線路
中ノ九州鐵道橫過高架橋以南ニ於テ新設軌道敷ヲ橫斷シ
テ三ッ瀨縣道ヨリ佐賀市西部ニ通スル道路ヲ佐賀郡市ニテ施
設計畫中ニ有之候然ルニ弊社ノ新設軌道敷ハ高架橋
梁ヨリ連續スル高築堤ナル為メニ其踏切交叉ハ地勢上道路
ノ築造ニ困難セラレ軌道敷ノ設計變更ヲ要スルヤモ計難ク候
ニ付新設道路ノ線路確定スル迄左記ノ軌道敷工事ハ延引致
度候間工事竣功期限大正五年九月拾五日迄御延期被成下
度此段奉願候也

大正四年九月九日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野

千百貳拾八番ノ六

川上軌道株式會社

取締役社長真崎辰五郎



内閣総理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣 一木喜徳郎殿

工車延期線路

自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本枡四百拾九拾番地先
至全縣全郡全村大字全字一本枡四百拾九拾番地先
自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本枡四百拾九拾番地先
至全縣全郡全村大字全字一本枡四百拾九拾番地先
新設軌道敷參拾七鋪九拾節

三本枡八百七十三一書地一換地一

44

十五

第二三七七號	大正四年	十一月九日受領	淨書	校合
第一〇八七號	大正四年	十月廿九日立案		

監督局長

副總裁

總裁

內閣總理大臣

內閣書記官長

內務大臣

次官

土木局長 技術課長
道路課長

川軌道工事方法一部變更件
回議用紙
鐵道院

番號

大正四年十月十五日
 第一〇八七號
 川軌道工事方法一部變更件
 會社
 佐賀縣知事
 附收佐士
 株式
 變更
 內閣總理大臣
 內務大臣

607

裏面白紙

四十八
十九
川上軌道

件名 一 工事方法一部変更ノ件

右審査スル左記昭會ノ要人

一 佐賀傳雷場岡、鐵道院用地ノ境畧ノ記入スルコト

以上

右ノ昭會ノ要人ニ對シテ
右ノ昭會ノ要人ニ對シテ

19/10

45

4. 10. 18

4475

長林

収付土簿三二二二號

大正四年十月十五日

佐賀縣知事 石橋

和

佐賀縣

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士木暮徳郎殿

軌道位置變更ノ件ニ付稟伺

川上軌道株式會社ヨリ別紙通軌道敷位置變更願出候ニ
付調査候處右ノ稟ニ軌道敷設御許可相成候佐賀縣
前ヨリ四方九州鐵道長崎線踏切間貳拾六鐵拾七節
別紙圖面通位置變更セ下スルニ有之事情不得已天
ト相認候條御許可相成候様致度及稟伺候也

裏面白紙

軌道位置變更許可願

大正貳年九月拾六日付佐賀縣指令收佐土第二
 一二號ヲ以テ工事施行御認可相成候軌道線路中
 自佐賀縣佐賀郡神野村大字神野字一本松四百拾九番地先
 至全縣左郡全村大字全字二本松八百六拾番地先
 四鎖拾七節及大正四年四月貳拾日付佐賀縣指令收佐
 土第二八九二號ヲ以テ軌道敷設御許可相成候自佐賀縣
 佐賀郡神野村大字神野字二本松八百六拾番地先
 左郡全村大字全字全八百六拾四、一番地先間引込線拾貳鎖、
 線路ハ軌道終點ニ向テ道路、左側ニ敷設可致御許可ヲ
 得居候處人車馬、往來ニ便利、為ノ路側、人家割テ
 キ方ニ偏シテ敷設仕度候間道路、右側ニ位置變
 更敷設、義御許可被成下度此段奉願候也

大正四年六月拾六日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野

子百貳拾八番、不

川上軌道株式會社

取締役社長 真崎辰五郎

佐賀縣知事 石橋 和殿

追テ位置變更ニ依リ工費豫算書及圖面ニ變更
 部分ハ別紙ノ通リ御座候

訂正券字

(2)

川上軌道株式會社									
種目	材料	長	厚巾	徑員	數	單價	代價	價	摘要
種別	地目				坪數	單價	代價	橋	要
一金	十							用地費	工費豫算書(変更分)
種別	地目				坪數	單價	代價	橋	要
停留場	用地				七四一	樣借使用			佐賀停留場 圖面第一号参照
左	官有 地道路敷				五〇	樣借使用			鐵道踏切南側停留場 圖面第三号参照
計					二四一				
一金	參拾七	拾七	拾四	錢				土工費	
種目	材料	長	厚巾	徑員	數	單價	代價	橋	要
踏切	埋置	割			五坪	二六〇	一五〇八		乙早單價表、通り
木柵	建直				二四間	二〇〇	四九〇		九州鐵道木柵建直レ牛 間及釘代共
下水	踏切				二九間	一〇〇	二九〇〇		九州鐵道用地界下水踏切替
計									
石垣	割	一	間		二坪	七四〇	一四八〇		甲早單價表
鐵道	踏切	南側	停留場	土工					圖面第三号参照
計									
合計							三七七四〇		
一金	七拾	四也							
踏切	埋置				七間	一〇〇〇〇	七〇〇〇〇		
計							七〇〇〇		
備考									線路位置變更依り工費金増額、豫備費了支出スルノ支

乙号

石垣面汚坪當り單價表

種目材料	長	厚巾	徑	員	數	單價	代價	價	摘要
甲号	石垣面汚坪當り單價表								
種目材料	長	厚巾	徑	員	數	單價	代價	價	摘要
割石	一五	一〇	二〇	二	二	四五〇	四五〇	四五〇	手汚坪三寸石以内トス 附付二寸以上ノ 徑一寸以上四寸以下トス 堅質タルコト
裏込						六〇〇	一〇〇	一〇〇	
職工					一	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	
牛傳人夫					一〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	
計							七〇〇〇	七〇〇〇	

川上軌道株式會社

種目材料	長	厚巾	徑	員	數	單價	代價	價	摘要
乙号	石垣面汚坪當り單價表								
種目材料 <td>長 <td>厚巾 <td>徑 <td>員 <td>數 <td>單價 <td>代價 <td>價 <td>摘要</td> </td></td></td></td></td></td></td></td>	長 <td>厚巾 <td>徑 <td>員 <td>數 <td>單價 <td>代價 <td>價 <td>摘要</td> </td></td></td></td></td></td></td>	厚巾 <td>徑 <td>員 <td>數 <td>單價 <td>代價 <td>價 <td>摘要</td> </td></td></td></td></td></td>	徑 <td>員 <td>數 <td>單價 <td>代價 <td>價 <td>摘要</td> </td></td></td></td></td>	員 <td>數 <td>單價 <td>代價 <td>價 <td>摘要</td> </td></td></td></td>	數 <td>單價 <td>代價 <td>價 <td>摘要</td> </td></td></td>	單價 <td>代價 <td>價 <td>摘要</td> </td></td>	代價 <td>價 <td>摘要</td> </td>	價 <td>摘要</td>	摘要
割石	一五	一〇	二〇	二	二	四五〇	四五〇	四五〇	手汚坪三寸石以内トス 附付二寸以上ノ 徑一寸以上四寸以下トス 堅質タルコト
裏込						在来古石使用		九〇〇	
職工					一	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	
牛傳人夫					一〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	
計							二六〇〇	二六〇〇	床掘牛間及石工牛傳

寫

九管工用印受第六三六號

新規 大正四年十月五日

九州鐵道管理局長長尾半平

佐賀郡神野村神野

川上軌道株式會社

社長 真崎辰五郎

殿

大正四年七月二十八日付申込ニ係ル鐵道用地使用ノ件左記條項ヲ以テ承諾書認候ニ付此全文ヲ掲ゲタル承諾書差入相成度候

記

一 使用スベキ土地ノ位置及其坪數左ノ如シ
佐賀停車場構内七坪四合壹勺也

二 使用目的軌道敷

三 使用期間大正四年拾月ヨリ大正七年九月ニ至ル間トス

四 使用料ハ壹箇月金九拾六錢トス (壹箇月壹坪當拾貳錢)

但シ壹箇月未滿ハ壹箇月トシ壹坪未滿ハ壹坪トシテ計算ス

五 使用料金ハ拂込通知書ヨリ每一ケ年分拂込ヲナスコト

六 使用地ハ他人ニ轉貸若シクハ地形変更ヲ為サザルコト

七 使用者ハ使用地ノ坪數ノ期間ノ氏名ヲ明記シタル標杭ヲ建設シ且ツ其區域ヲ表示スルコト

八 土地使用ニ關シテハ當局保線區主任及駅長ノ指示スル所ニ從フコト

九 當局ニ於テ必要アルトキハ何時ニモ本承諾ヲ取消シ若クハ條項ヲ増減變更スルコトアルベシ

十 當局ヨリ土地ノ一部又ハ全部返還ヲ要求シタル場合ニ限り既收ノ料金ハ返地坪數ニ應ジ月割ヲ以テ返地ノ翌月以降分ヲ拂戻スコト

十一 期間滿了又ハ使用廢止ノ時其期間内ニ又前二項ノ場合ハ當局ノ定メタル期日ハ土地ノ物件ヲ引拂ヒ土地ヲ原狀ニ復スルコト若シ之ヲ怠ルトキハ當局ニ於テ適宜之ヲ施行スルニ依リ其費用ヲ償フコト

十二 土地使用ノ為ノ當局ノ損害ヲ及ボストキハ當局指定ノ通り辨償スルコト

十三 當局事業ノ為メ又前各項ニ依リ使用者ニ損害ヲ及ボスコトアルモ當局ハ其責任ニセザルコト

十四 現在ノ木柵ハ會社費用ヲ以テ鳥栖保線區主任ノ指揮監督ニ從ヒ使用地境界ニ移轉スル事

附 大正四年拾月六日
受鳥保受第四七六〇號

鳥栖保線事務所經由

六二

回覽

田上
七六

一

澤

一

一

川上軌道

一 假軌道敷設ノ件 (通牒之件ハ下看取)

本件支障ナシト認ム

使用期限

大正五年九月十五日

陸軍省
陸軍部

馬場

持再

252

裏面白紙

1303
4 6

5214

土第六一三九

大正四年十二月二日

佐賀縣知事石橋

和



内閣総理大臣伯爵大隈重信殿
内務大臣法學博士一木喜徳郎殿

川上軌道株式會社ニ對シ一時的引込線敷設ノ義
本日許可候條別紙工事方法書並圖面相添へ此
段及報告候也

佐賀縣

裏面白紙

677



發第 二四八 號

假軌道敷設御許可願

當田會社軌道佐賀郡神野村大字神野字一本松
九州鐵道佐賀驛前ヨリ全郡全村大字全字二本松鐵
道踏切ニ至ル線路ニ車輛ヲ格納スベキ車輛置場ノ必
要相生候ニ付別紙圖面ノ通リ引込線敷設仕度候
間假軌道敷設ノ義御許可被成下度此段奉願候也
大正四年十月十五日

佐賀縣佐賀郡神野村大字神野

千百貳拾八番ノ六

川上軌道株式會社

取締役社長真崎辰五郎

佐賀縣知事石橋和殿

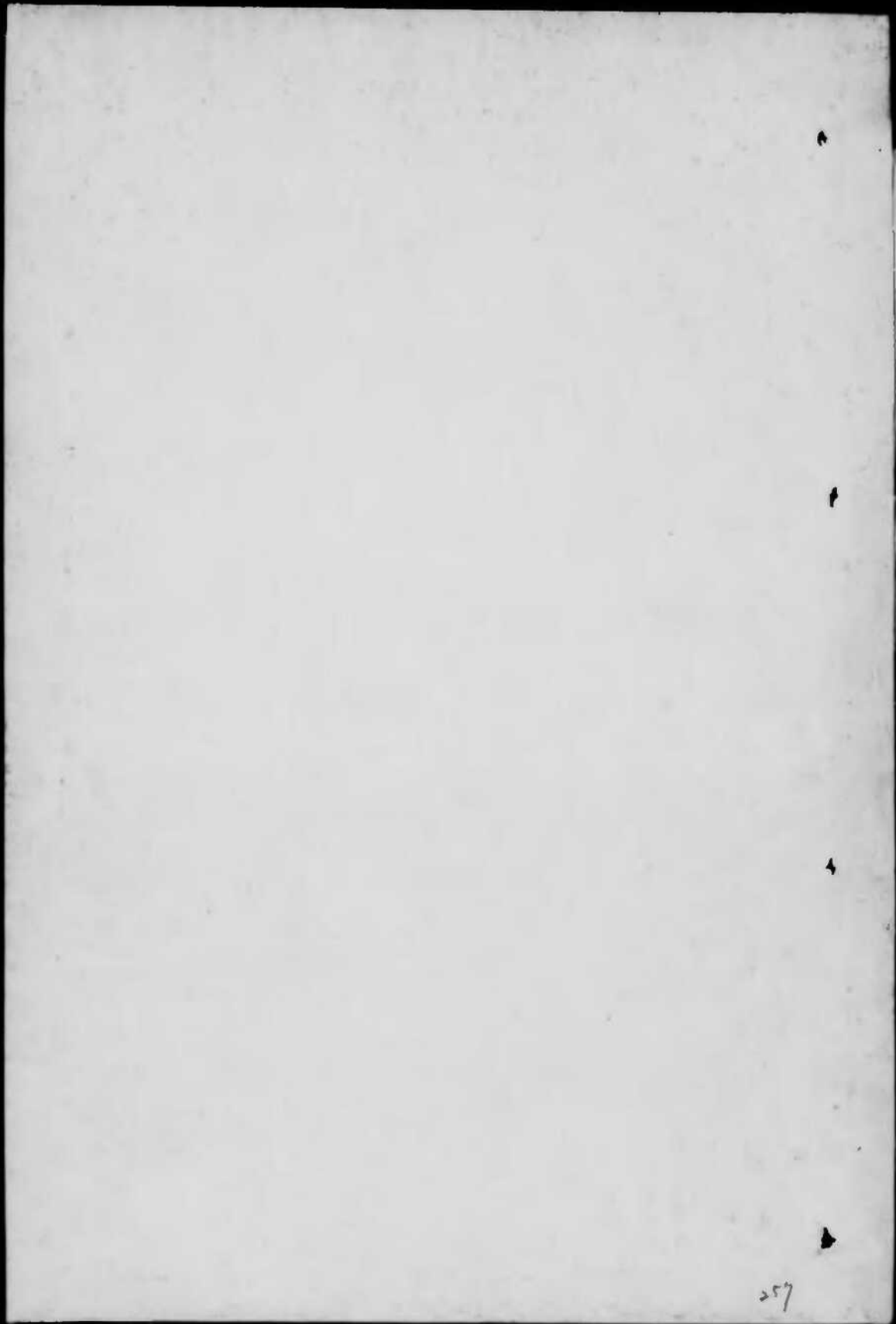
二字押入

二車方法書

一本假軌道ハ別紙圖面及設計書ニ示ス如ク佐賀郡
神野村大字神野字二本松三ツ瀬縣道ノ道路敷
設地ヲ拝借使用シ既設假軌道線ヨリ分岐シ長式
鎖ノ引込線ヲ敷設スルモノニシテ車輛ヲ格納スル爲メ
周圍ニ板張ヲナシ車輛置場トナス

一本工事方法ハ既設軌道工事方法ト同様トス

一本假軌道使用期限ハ大正五年九月拾五日迄トス



257

